



# SAS® BI Dashboard 4.3

## User's Guide

このマニュアルの正式な書籍名: SAS Institute Inc.. 2010. *SAS® BI Dashboard 4.3: User's Guide*. Cary, NC : SAS Institute Inc.

### **SAS® BI Dashboard 4.3: User's Guide**

All rights reserved. Produced in the United States of America.

**For a hardcopy book:** No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted, in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, or otherwise, without the prior written permission of the publisher, SAS Institute Inc.

**For a Web download or e-book:** Your use of this publication shall be governed by the terms established by the vendor at the time you acquire this publication.

**U.S. Government Restricted Rights Notice:** Use, duplication, or disclosure of this software and related documentation by the U.S. government is subject to the Agreement with SAS Institute and the restrictions set forth in FAR 52.227-19 Commercial Computer Software-Restricted Rights (June 1987).

SAS Institute Inc., SAS Campus Drive, Cary, North Carolina 27513.

初版電子書籍, August 2010

SAS® Publishing provides a complete selection of books and electronic products to help customers use SAS software to its fullest potential. For more information about our e-books, e-learning products, CDs, and hard-copy books, visit the SAS Publishing Web site at [support.sas.com/publishing](http://support.sas.com/publishing) or call 1-800-727-3228.

SAS® and all other SAS Institute Inc. product or service names are registered trademarks or trademarks of SAS Institute Inc. in the USA and other countries. ® indicates USA registration.

Other brand and product names are registered trademarks or trademarks of their respective companies.

---

## 目次

*SAS BI Dashboard 4.3 の新機能* ..... v

### 1 部 すべてのユーザー向けの情報 1

<b>1 章・はじめに</b> .....	<b>3</b>
概要 .....	3
対象者 .....	3
<b>2 章・全般情報</b> .....	<b>5</b>
ワークフロー .....	5
<b>3 章・入門ガイド: SAS Information Delivery Portal</b> .....	<b>9</b>
概要 .....	9
ポータルを開いて、ログオンする .....	9
ページを作成してナビゲーションバーに追加する .....	10
ページに SAS BI Dashboard ポートレットを追加 .....	11

### 2 部 ダッシュボードユーザー向けの情報 13

<b>4 章・SAS BI Dashboard ポートレットの操作</b> .....	<b>15</b>
ダッシュボードの選択 .....	15
表示オプションの指定 .....	16
ダッシュボードまたはインジケータの印刷 .....	16
<b>5 章・ダッシュボードビューアでのダッシュボードとインジケータの操作</b> .....	<b>17</b>
概要 .....	17
ダッシュボードまたはインジケータを開く .....	17
ダッシュボードビューア内の移動 .....	18
表示オプション .....	18
ダッシュボードまたはインジケータの印刷 .....	19
個人用インジケータアラートの作成または編集 .....	19
コメントの管理 .....	21
お気に入りの操作 .....	23

### 3 部 ダッシュボード管理者向けの情報 25

<b>6 章・ダッシュボードデザイナウィンドウ</b> .....	<b>27</b>
概要 .....	27
オブジェクトペイン .....	28
ワークスペース .....	32
プロパティペイン .....	34

<b>7章・インジケータデータ</b>	37
概要	37
インジケータデータルール	38
Stored Process のインジケータデータ	39
インジケータデータの定義	40
インジケータデータの作成または編集	42
<b>8章・範囲</b>	49
範囲の作成または編集	49
<b>9章・インジケータ</b>	53
概要	54
インジケータの作成または編集	54
インジケータの表示	59
<b>10章・ダッシュボード</b>	99
概要	99
ダッシュボードレイアウト	100
インジケータ動作	100
ズーム	106
ダッシュボードの作成または編集	106
ダッシュボードコンテンツの管理	108
インジケータ動作の設定	109
コンテナを使用するダッシュボードのデザインの制御	110

#### 4部 付録 113

<b>付録1・インジケータ役割マッピングプロパティ</b>	115
概要	117
プロパティのリスト	117
キーワード	127

# SAS BI Dashboard 4.3 の新機能

---

## 概要

SAS BI Dashboard 4.3 には、次の拡張機能と新機能が組み込まれています。

- ・ ダッシュボードユーザー向けの機能
- ・ ダッシュボード管理者向けの機能

---

## ダッシュボードユーザー向けの機能

- ・ SAS Information Delivery Portal ではなく、別ウィンドウ(ダッシュボードビューア)で SAS BI Dashboard を実行できます。  
ダッシュボードビューアでは、SAS Information Delivery Portal に表示される場合より多くの機能を使用できます。
  - ・ ダッシュボードで、ズームインして詳細を表示できます。
  - ・ ズームアウトしたビューに、複数の列を表示できます。
  - ・ ダッシュボードのコメントを作成できます。
  - ・ 個人用のお気に入りを作成、管理できます。
  - ・ ウォーターフォールチャート、ベクトルプロット、テーブルのスパーク線など、表示の種類が追加されました。
  - ・ インジケータ内のデータをブラシ(対話形式のハイライト表示)できます。また、インジケータ間で連動できます。

---

## ダッシュボード管理者向けの機能

- ・ ドラッグアンドドロップを使用して対話形式でダッシュボードを作成し、ダッシュボードにインジケータを追加します。
- ・ ファイルは、ツリーフォルダ構造で保存されます。
- ・ 既存のダッシュボードとオブジェクトを検索し、オブジェクトの種類を基準にして検索をフィルタリングできます。
- ・ ダッシュボードの各インジケータとダッシュボード自体をより簡単にカスタマイズ、サイズ変更できます。

- ・ インジケータ間でイベントを介して連動するインジケータの設定機能が提供されました。
- ・ 異なるタブで、複数のダッシュボードを開いて、表示できます。
- ・ インジケータとダッシュボードの作成時に画面領域を最適化できます。
- ・ ダッシュボードを設計する際、インジケータのさまざまな表示の種類をプレビューして、表示データに最適な表示を簡単に決定できます。
- ・ ダッシュボードのフォント、フォントの色、フォントサイズをカスタマイズできます。

## 1 部

---

# すべてのユーザー向けの情報

1 章 はじめに .....	3
2 章 全般情報 .....	5
3 章 入門ガイド: <i>SAS Information Delivery Portal</i> .....	9



# 1 章

## はじめに

---

<b>概要</b>	3
<b>対象者</b>	3

---

### 概要

SAS BI Dashboard では、ダッシュボードを使用して、組織の実行状態を示す KPI を監視できます。ダッシュボードには、グラフ、テキスト、色、ハイパーリンクが含まれます。ダッシュボードは、操作の簡単な Web ベースインターフェイスを使用して、作成、管理、表示されます。すべてのコンテンツは、セキュアでカスタマイズと拡張が可能な役割ベース環境に表示されます。エンドユーザーは、個人のダッシュボードの情報の表示方法をカスタマイズできます。

---

### 対象者

多くの SAS®9 アプリケーションと同様、SAS BI Dashboard ユーザーは、そのスキルと、システムの定義と管理の役割権限があるかどうかで区分できます。次の表に、3 種類の SAS BI Dashboard ユーザーを示します。

ユーザー	説明	例
ダッシュボードユーザー	ダッシュボードの最終対象者。この役割は、ダッシュボードを表示して、詳細な探索と操作の開始ポイントとして使用します。	ダッシュボードがイントラネットホームページに組み込まれて表示される管理職と従業員。

ユーザー	説明	例
ダッシュボード管理者	この役割は、インジケータとダッシュボードを定義します。この役割には、各種ダッシュボードに対してユーザーアクセスを設定し、ダッシュボードユーザーのダッシュボードの個人設定の権限を制御できます。カスタムコードを作成して、SAS BI Dashboard の機能を拡張することもできます。	SAS の技術的な知識があるビジネス管理者や、外部のコンサルタントや内部の開発者と一緒に作業する、SAS BI Dashboard の初期実装や主な調査を担当する SAS コンサルタント。
IT サポート担当者	この役割は、SAS BI Dashboard のインストール、設定、構成、管理を担当します。	組織のコンピュータネットワーク上のアプリケーションの配置と管理をサポートする IT 技術者。

このガイドは、ダッシュボードユーザーとダッシュボード管理者を対象としています。

## 2 章 全般情報

---

ワークフロー .....	5
概要 .....	5
ダッシュボードユーザー .....	5
ダッシュボード管理者 .....	7

---

### ワークフロー

#### 概要

SAS BI Dashboard には、(ダッシュボードユーザーが使用する)ダッシュボードビューアとしての側面と、(ダッシュボード管理者が使用する)ダッシュボードデザイナとしての側面の 2 種類があります。

通常、SAS Information Delivery Portal 内の SAS BI Dashboard ポートレットからダッシュボードと SAS BI Dashboard にアクセスします。(詳細については、[3 章、"入門ガイド: SAS Information Delivery Portal" \(9 ページ\)](#)を参照してください。)

役割(ダッシュボードユーザーまたはダッシュボード管理者)に基づき、利用できる機能が設定されます。

また、ダッシュボードビューアを直接開始することもでき、ブラウザから次の URL にアクセスします。

`http://<server>.<port>/SASBIDashboard`

#### ダッシュボードユーザー

ダッシュボードユーザーは、SAS BI Dashboard ポートレット内のダッシュボードを操作します。



SAS BI Dashboard ポートレットとダッシュボードの選択の詳細については、[4章，“SAS BI Dashboard ポートレットの操作”\(15 ページ\)](#)を参照してください。

また、(ダッシュボードの右上隅)をクリックしても、ダッシュボードをダッシュボードビューアで操作できます。このとき、別なウィンドウに開かれます。

注: SAS BI Dashboard ポートレット内を左右にスクロールしないと、このアイコンが見えない場合があります。

ダッシュボードビューアが開き、SAS BI Dashboard ポートレットに表示されたダッシュボードが表示されます。

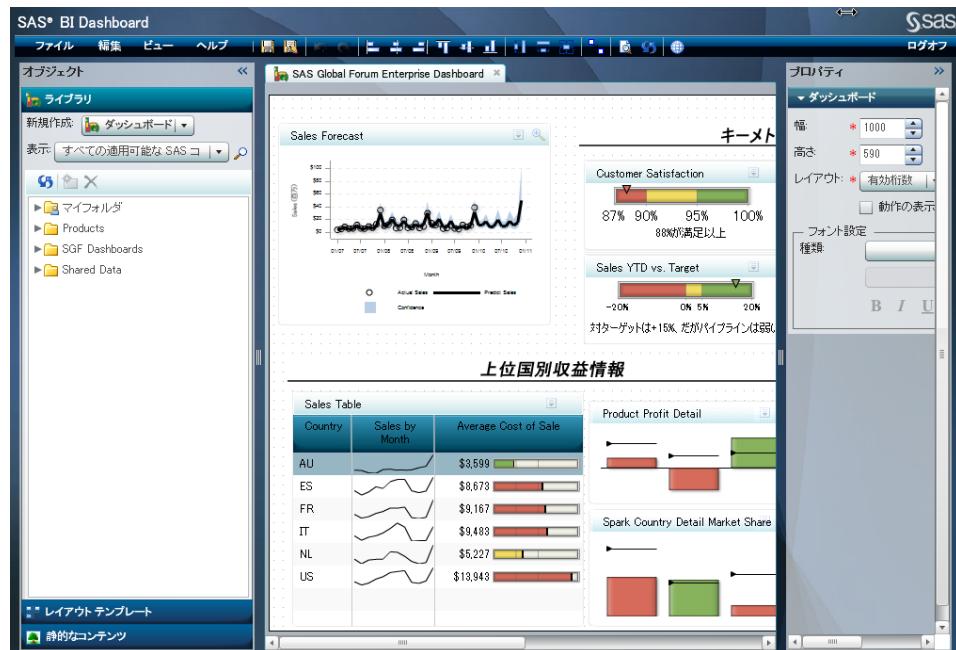


ダッシュボードビューアでは、拡張された機能が利用できます。詳細については、[5章、"ダッシュボードビューアでのダッシュボードとインジケータの操作" \(17 ページ\)](#)を確認してください。

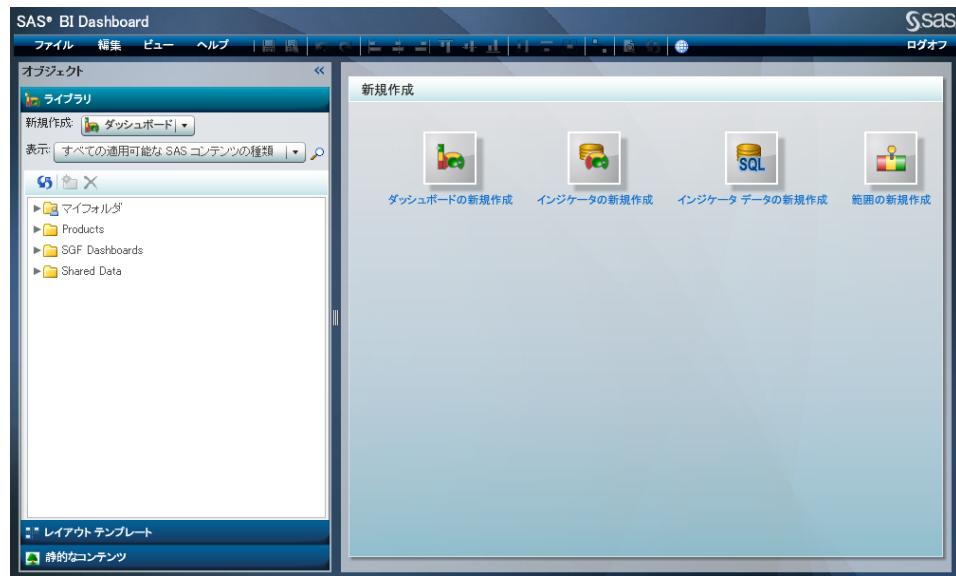
## ダッシュボード管理者

ダッシュボード管理者が、SAS BI Dashboard のダッシュボードデザイナのダッシュボードを管理します。ダッシュボードデザイナを開始するには、 を SAS BI Dashboard ポートレットのダッシュボードでクリックするか、ダッシュボードビューアにダッシュボードを表示している際はダッシュボードの管理をクリックします。

ダッシュボードの表示時にどちらかの方法でダッシュボードデザイナを開始すると、同じダッシュボードがダッシュボードデザイナに表示されるため簡単に変更できます。



ダッシュボードを表示していない場合にどちらかの方法でダッシュボードデザイナを開始すると、デフォルトページがダッシュボードデザイナに表示されます。



詳細については、[6章，“ダッシュボードデザイナウィンドウ”\(27ページ\)](#)を確認してください。

### 3 章

## 入門ガイド: SAS Information Delivery Portal

---

<b>概要</b>	<b>9</b>
<b>ポータルを開いて、ログオンする</b>	<b>9</b>
<b>ページを作成してナビゲーションバーに追加する</b>	<b>10</b>
<b>ページに SAS BI Dashboard ポートレットを追加</b>	<b>11</b>

---

### 概要

SAS BI Dashboard は、SAS Information Delivery Portal からアクセスできます。本ガイドは、SAS Information Delivery Portal の知識がある読者を想定しています。SAS Information Delivery Portal の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

---

### ポータルを開いて、ログオンする

SAS Information Delivery Portal を開くには、次のステップを実行します。

1. Web ブラウザを開いて、ポータルの URL アドレスに移動します。  
URL を入手するには、ポータル管理者に連絡してください。
2. ポータルでユーザーを識別できるように、ユーザー名とパスワードを指定してログオンします。  
ユーザー名とパスワードがない場合、システム管理者に連絡して取得してください。  
ログオンの手順は、組織がポータルをインストールした方法によって異なります。ポータルログオンまたは Web サーバーのいずれか適切な手順を使用します。
3. 組織がポータルのログオン機能を使用する場合、次のステップを実行します。
  - a. ブラウザを開いて、ポータルの URL に移動します。  
パブリックページまたはポータルのログオンページが表示されます。
  - b. パブリックページが表示された場合、バナーのログオンをクリックします。
  - c. ログオンページで、ユーザー名とパスワードを入力します。
  - d. ログオンをクリックします。  
個人用ポータルが表示されます。

4. 組織が Web サーバーを使用して各ユーザーを識別する場合、次のステップを実行します。
  - a. 組織に指定されている Web サーバーのログオン手順を使用します。  
Web サーバーのログオン手順は、組織ごとに異なります。
  - b. Web サーバーにログオンした後、ポータルの URL に移動します。  
個人用ポータルが表示されます。

## ページを作成してナビゲーションバーに追加する

ページを新規作成してナビゲーションバーに追加するには、次のステップを実行します。

1. カスタマイズ ⇨ ページの追加をクリックします。  
プロファイルへのページの追加ページが表示されます。

2. 作成タブで、ページの説明情報を入力します。

### 名前

ページタブのナビゲーションバーに表示される短い名前。

### 説明

検索結果にページタイトルと一緒に表示される短い説明。

### キーワード

このページの検索に使用できる単語。複数のキーワードはスペースで区切ります。

*注:* 効率的に検索するには、キーワードの標準リストを作成して、常にこれらのキーワードを使用します。

### ページのランク

他のページと比較して、このページの重要度を示す数字。デフォルト値は 100 です。

この値によって、ナビゲーションバーに表示されるページの順序が決まります。ページは、ランクの昇順に表示されます。ランクが等しいページは、作成順に表示されます。

*注:* ページの順序を明示的に定義して、ページランクを無効にできます。

**保存場所(グループ)および共有タイプ**

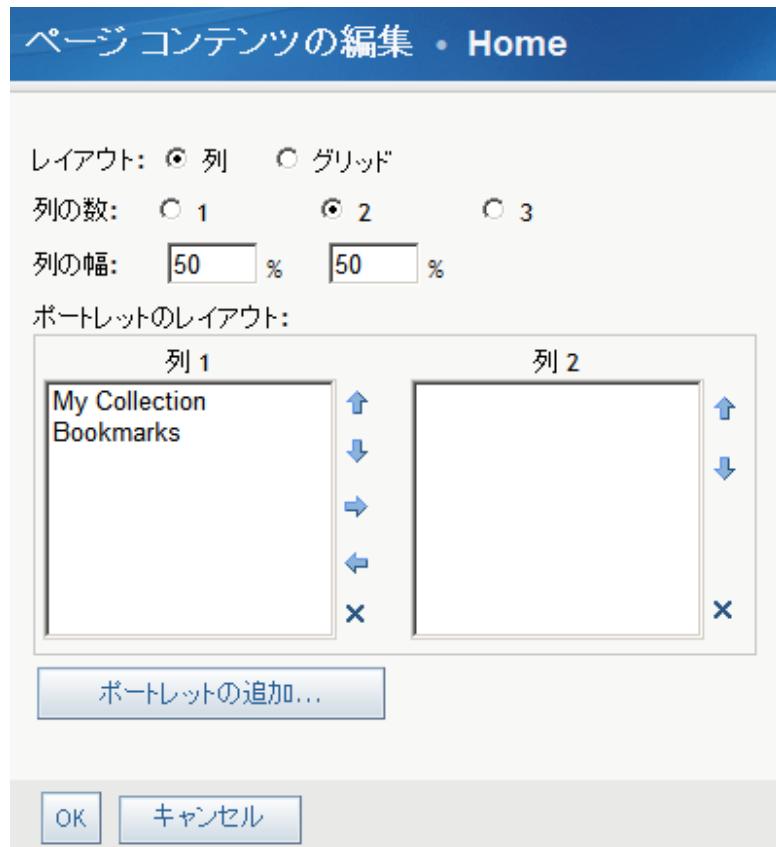
グループコンテンツ管理者にのみ表示されるフィールド。これらのフィールドで、ページを共有するグループと共有タイプを指定できます。

3. 追加をクリックします。  
新規ページが追加されたことを示すメッセージが表示されます。
4. 完了をクリックします。

## ページに SAS BI Dashboard ポートレットを追加

ページに SAS BI Dashboard ポートレットを追加するには、次のステップを実行します。

1. ポートレットを追加するページに移動します。
2. カスタマイズ  $\Rightarrow$  ページの編集  $\Rightarrow$  ページコンテンツの編集をクリックします。  
ページコンテンツの編集ページが表示されます。



3. ポートレットの追加をクリックします。  
ページにポートレットを追加ページが表示されます。

ページにポートレットを追加 • Home

作成 検索

ポートレットの種類: アラート

\*名前:

説明:

キーワード:

追加

完了

This screenshot shows a web-based configuration interface for adding a portlet to a page. At the top, there's a blue header bar with the title 'ページにポートレットを追加 • Home'. Below it is a navigation bar with '作成' (Create) and '検索' (Search) buttons. The main area contains four input fields: 'ポートレットの種類:' (Portlet Type) set to 'アラート' (Alert), '名前:' (Name), '説明:' (Description), and 'キーワード:' (Keywords). Below these fields are two buttons: '追加' (Add) and '完了' (Finish). The '追加' button is highlighted with a blue border.

4. ポートレットの種類ドロップダウンリストから、**SAS BI Dashboard** ポートレットを選択します。
  5. ポートレットの名前と、必要に応じて説明とキーワードを入力します。
  6. グループコンテンツ管理者の場合、**保存場所(グループ)**ドロップダウンリストからポートレットを共有するグループを選択します。
  7. **追加**、**完了**の順にクリックします。
  8. ページコンテンツの編集ページで、OKをクリックします。  
元のページにポートレットが新しく追加されて表示されます。
  9. ダッシュボードまたはインジケータを選択します。
- 詳細については、“ダッシュボードの選択”(15 ページ)を参照してください。

## 2 部

---

# ダッシュボードユーザー向けの情報

4 章	SAS BI Dashboard ポートレットの操作	15
5 章	ダッシュボードビューアでのダッシュボードとインジケータの操作	17



## 4 章

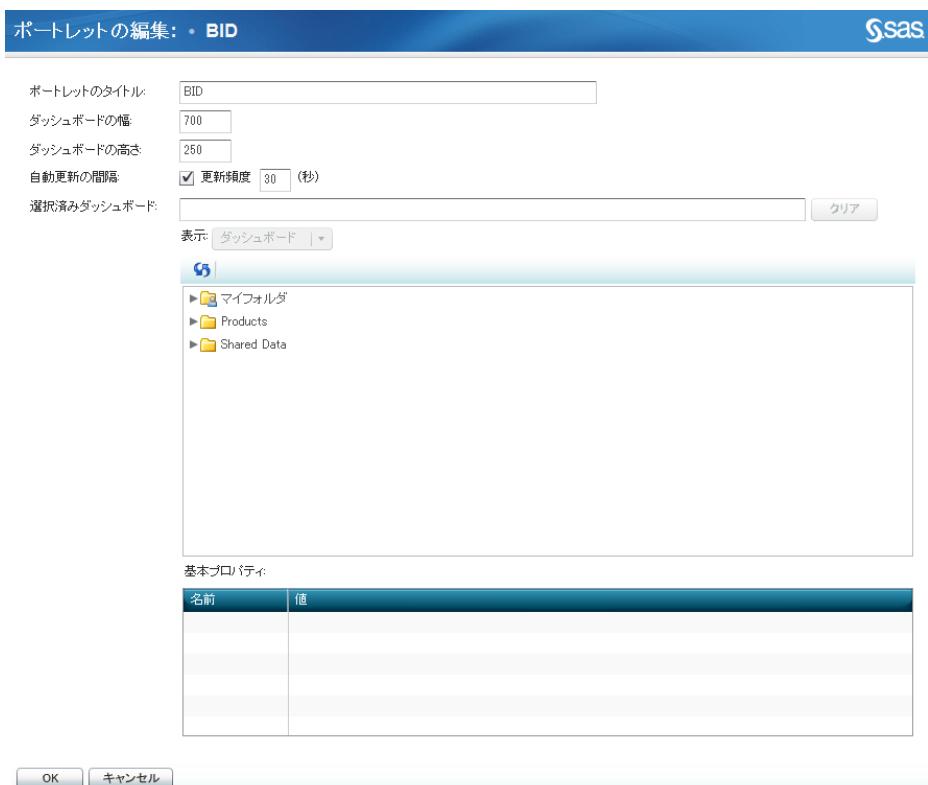
# SAS BI Dashboard ポートレットの操作

ダッシュボードの選択 .....	15
表示オプションの指定 .....	16
ダッシュボードの寸法の指定 .....	16
コンテンツの更新 .....	16
ダッシュボードまたはインジケータの印刷 .....	16

## ダッシュボードの選択

ダッシュボードを選択するには、次のステップを実行します。

1.  をクリックします。  
ポートレットの編集ページが表示されます。



2. ツリーから、ダッシュボードを選択します。

このリストには、組織によって作成されたダッシュボードの一覧が表示されます。

---

## 表示オプションの指定

### ダッシュボードの寸法の指定

ダッシュボードの寸法を指定するには、次のステップを実行します。

1.  をクリックします。  
ポートレットの編集ページが表示されます。
2. 幅と高さの値を入力します。

### コンテンツの更新

SAS BI Dashboard ポートレットのコンテンツを手動で更新するには、 をクリックします。

コンテンツを自動更新するには、次のステップを実行します。

1.  をクリックします。  
ポートレットの編集ページが表示されます。
2. **自動更新の間隔**の横の**更新頻度**チェックボックスを選択して、ボックスに値を入力します。

---

## ダッシュボードまたはインジケータの印刷

ダッシュボードを印刷するには、ダッシュボードの右上隅の をクリックします。

インジケータを印刷するには、インジケータのオプション メニューからインジケータの印刷を選択します。

## 5 章

# ダッシュボードビューアでのダッシュ ボードとインジケータの操作

---

<b>概要</b>	17
ダッシュボードまたはインジケータを開く	17
ダッシュボードビューア内の移動	18
表示オプション	18
既定のビュー	18
コンテンツの更新	18
ダッシュボードまたはインジケータの印刷	19
個人用インジケータアラートの作成または編集	19
コメントの管理	21
お気に入りの操作	23

---

## 概要

ダッシュボードまたはインジケータは、SAS Information Delivery Portal ではなくダッシュボードビューアに表示できます。ダッシュボードビューアにダッシュボードを表示すると、次の操作を実行できます。

- ・ 対話型インジケータを数多く含む大型ダッシュボードの作成
- ・ アラートの個人用設定
- ・ インジケータへのコメントの追加
- ・ お気に入りの作成

詳細については、“[ワークフロー](#)” (5 ページ)を参照してください。

---

## ダッシュボードまたはインジケータを開く

ダッシュボードまたはインジケータを開くには、**ファイル** ⇔ **開く**を選択して、ダッシュボードまたはインジケータに移動します。

インジケータに加えて、このリストには、組織によって作成されたダッシュボードの一覧が表示されます。

## ダッシュボードビューア内の移動

2番目のダッシュボードまたはインジケータを開くと、メニューバーの下にナビゲーションコントロールが表示されます。



これらのコントロールは、**ビュー** ⇔ **表示**を選択しても使用可能になります。

ナビゲーションコントロールを使用して、開いているダッシュボードとインジケータ間を移動できます。開いている項目を1つずつ移動する代わりに、下矢印(履歴リスト)を使用して、開いている任意のダッシュボードまたはインジケータを選択できます。

## 表示オプション

### 既定のビュー

デフォルトでは、ダッシュボードビューアは、ダッシュボード終了時に最後に表示されたダッシュボードまたはインジケータを表示します。このダッシュボードやインジケータを表示したくない場合があります。

SAS BI Dashboard が最初に起動される際、ダッシュボードやインジケータを非表示にするには、**ビュー** ⇔ **デフォルトで前回表示したダッシュボードを開く**チェックボックスをクリアします。

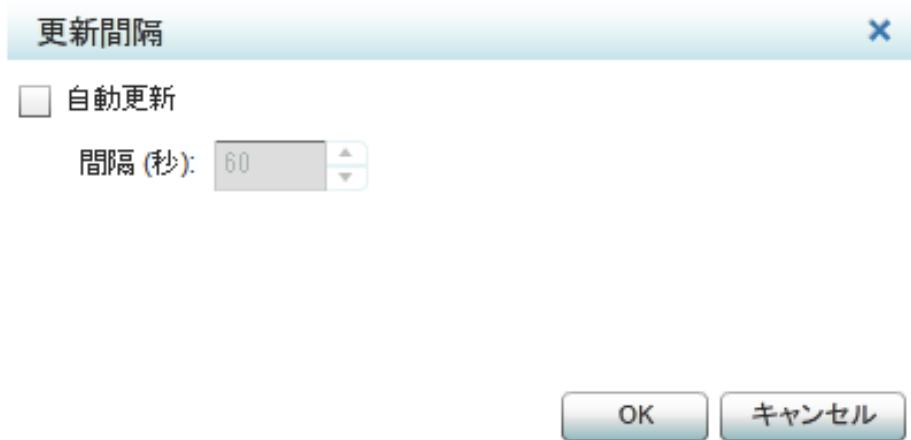
### コンテンツの更新

ダッシュボードビューアのコンテンツを手動で更新するには、をクリックします。

コンテンツを自動更新するには、次のステップを実行します。

1. **ビュー** ⇔ **自動リフレッシュの間隔を設定する**を選択します。

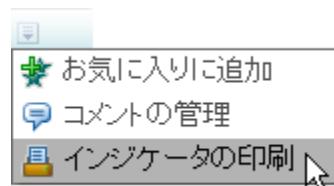
更新間隔ダイアログボックスが表示されます。



2. 自動更新チェックボックスを選択して、間隔を指定します。

## ダッシュボードまたはインジケータの印刷

ダッシュボードを印刷するには、ダッシュボードの右上隅の をクリックします。  
インジケータを印刷するには、オプション メニューからインジケータの印刷を選択します。



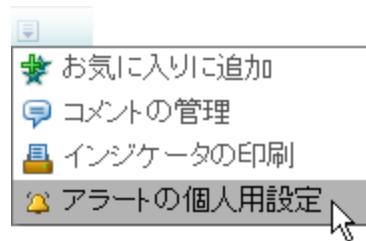
## 個人用インジケータアラートの作成または編集

ダッシュボード管理者がインジケータの個人用アラートを有効化すると、インジケータの個人用インジケータアラートを定義できます。個人用インジケータアラートは、対象の個人にのみ送信されます。これは、1人以上のアラートサブスクリバのリストに送信されるインジケータアラートとは異なります。

個人用アラートは、ダッシュボード管理者によって作成されインジケータに追加されるアラートとは異なる追加機能です。

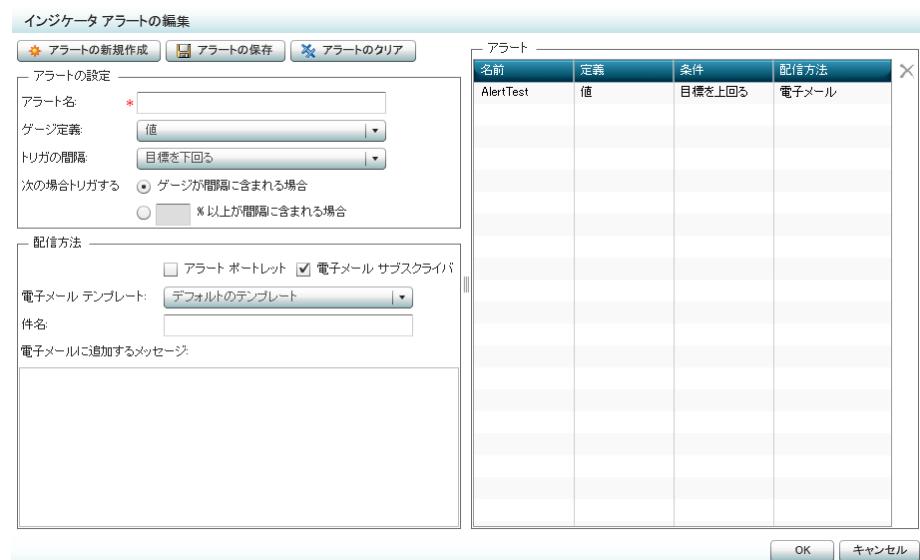
**注:** このページに表示されるアラートは、個人用インジケータアラートのみです。ダッシュボード管理者によって作成されるインジケータアラートは表示されません。

個人用インジケータアラートを作成または編集するには、インジケータのオプション メニューからアラートの個人用設定を選択します。



**注:** アラートの個人用設定が使用できない場合、個人用設定がダッシュボード管理者により有効化されていません。オプションメニューが使用できない場合、タイルにインジケータが表示されていません。ダッシュボード管理者に連絡してください。タイルの詳細については、“タイル”(33ページ)を参照してください。

新しいウィンドウに、インジケータアラートの編集ダイアログボックスが表示されます。



個人用インジケータアラートを作成するには、次のステップを実行します。

- アラートの新規作成をクリックします。
  - アラートの名前を入力します。
  - ゲージ定義とトリガの間隔のドロップダウンリストから、ゲージ定義とアラートをトリガする間隔を選択します。
  - アラートをトリガする間隔として、ゲージが間隔に含まれる場合または%以上が間隔に含まれる場合を選択します。
  - %以上が間隔に含まれる場合を選択した場合、チェックボックスの横にあるフィールドにパーセントを入力します。
  - アラートの配信方法として、アラートポートレットまたは電子メールサブスクリバを選択します。
- 注:** 両方を選択することもできます。
- (オプション)電子メールサブスクリバを選択した場合は、次のステップを実行します。
    - 電子メールテンプレートドロップダウンリストから、電子メールの出力形式を指定するために使用する電子メールテンプレートを選択します。

リストに表示されるテンプレートは、ダッシュボード管理者によって制御されます。

- b. 件名、および電子メールに含める追加メッセージを入力します。

インジケータアラートを編集するには、次のステップを実行します。

1. アラート表から、アラートを選択します。

アラートのプロパティがダイアログボックスの左側に表示されます。

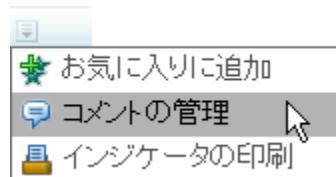
2. プロパティを編集します。

アラートを削除するには、アラート表から削除するアラートを選択して、をクリックします。

---

## コメントの管理

コメントを管理するには、インジケータのオプション メニューからコメントの管理を選択します。

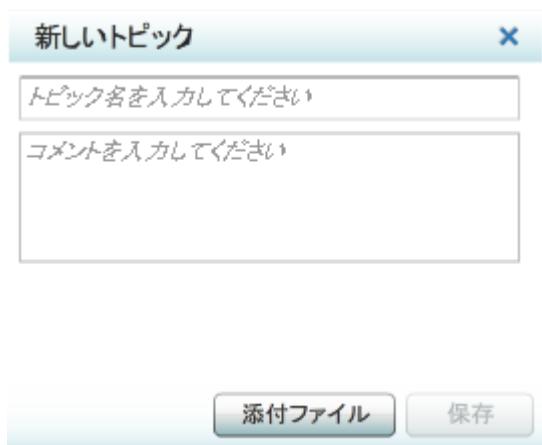


コメントダイアログボックスが表示されます。



新しいトピックを開始するには、次のステップを実行します。

1. 新しいトピックをクリックします。  
新しいトピックダイアログボックスが表示されます。



2. トピック名とコメントを入力します。
3. ファイルを添付するには、添付ファイルをクリックして、ファイルに移動します。

コメントを編集するには、をクリックして、コメントを変更します。

コメントを削除するには、をクリックします。

注: Comment Administrator 役割のユーザーのみが、コメントを編集、削除できます。

コメントに返信するには、**返信**をクリックして、コメントを入力します。

コメントを並び替えてフィルタリングするには、**アクションメニュー**からオプションを選択します。

---

## お気に入りの操作

簡単にダッシュボードやインジケータに戻るには、お気に入りに追加します。

ダッシュボードをお気に入りに追加するには、**お気に入り** ⇒ **ダッシュボードをお気に入りに追加**を選択します。

インジケータをお気に入りに追加するには、**お気に入り** ⇒ **インジケータをお気に入りに追加** ⇒ **<インジケータ名>**を選択します。

お気に入りを選択するには、**お気に入りメニュー**の下部から選択します。

お気に入りを管理するには、次のステップを実行します。

1. **お気に入り** ⇒ **お気に入りの管理**を選択します。

お気に入りの管理ダイアログボックスが表示されます。

2. お気に入りにフォルダを作成するには、をクリックして、フォルダ名を入力します。

3. お気に入りまたはフォルダの名前を変更するには、名前をクリックしてから、名前を入力します。

4. お気に入りまたはフォルダを移動するには、対象をドラッグします。

注: フォルダ内にドラッグするには、フォルダを展開してから、フォルダ内にドラッグします。

5. お気に入りまたはフォルダを削除するには、名前をクリックしてから、をクリックします。



## 3 部

---

# ダッシュボード管理者向けの情報

6 章	ダッシュボードデザインウィンドウ	27
7 章	インジケータデータ	37
8 章	範囲	49
9 章	インジケータ	53
10 章	ダッシュボード	99



## 6 章

# ダッシュボードデザイナウィンドウ

---

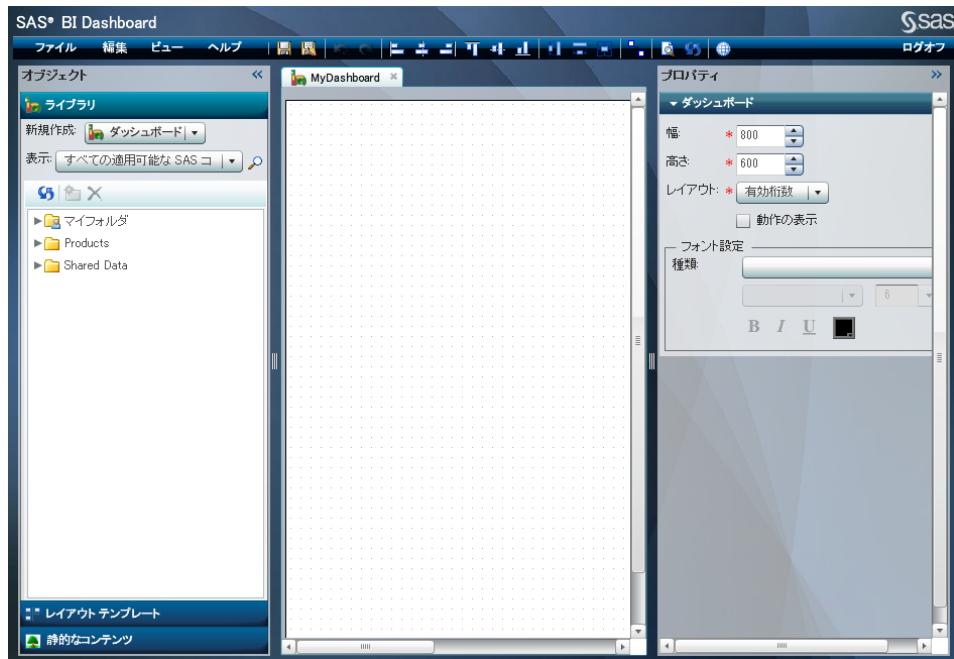
<b>概要</b>	<b>27</b>
<b>オブジェクトペイン</b>	<b>28</b>
ライブラリビュー	28
レイアウトテンプレートビュー	32
静的なコンテンツビュー	32
<b>ワークスペース</b>	<b>32</b>
概要	32
タイル	33
オブジェクトの編集	33
オブジェクトの操作	34
<b>プロパティペイン</b>	<b>34</b>

---

## 概要

ダッシュボードデザイナウィンドウは、左から右に向かって、次の 3 つの領域で構成されます。

- ・ オブジェクトペイン(“オブジェクトペイン” (28 ページ)を参照)
- ・ ワークスペース(“ワークスペース” (32 ページ)を参照)
- ・ プロパティペイン(“プロパティペイン” (34 ページ)を参照)

**注意:**

ブラウザウィンドウを最新の情報に更新しないでください。ブラウザウィンドウを最新の情報に更新した場合、保存されていないダッシュボードコンテンツはすべて失われます。

## オブジェクトペイン

### ライブラリビュー

**概要**

ライブラリビューには、ダッシュボードリストに加えて、次のオブジェクトが含まれます。ダッシュボードを作成するには、これらのオブジェクトを組み合わせます。

- インジケータデータ ([7 章, “インジケータデータ” \(37 ページ\)](#)を参照)
- 範囲 ([8 章, “範囲” \(49 ページ\)](#)を参照)
- インジケータ ([9 章, “インジケータ” \(53 ページ\)](#)を参照)

また、ダッシュボード内の情報表示を制御する追加オブジェクトも含まれます。詳細については、“レイアウトテンプレートビュー” (32 ページ)、“静的なコンテンツビュー” (32 ページ)、10 章、 “ダッシュボード” (99 ページ)を参照してください。

オブジェクトを新規作成するには、**新規作成**ドロップダウンリストから、オブジェクトの種類を選択します。



ライブラリビューには、オブジェクトを保存するライブラリツリーが含まれます。リストを更新するには、をクリックします。オブジェクトの特定の種類のみをライブラリツリーに表示するには、表示ドロップダウンリストからオブジェクトの種類を選択します。



保存オブジェクトを検索するには、次のステップを実行します。

1. をクリックします。  
検索ダイアログボックスが表示されます。



2. オブジェクト名のすべてまたは一部を入力し、検索にオブジェクトの説明とキーワードを含めるかどうかを選択します。
3. (オプション)オブジェクトの種類を選択します。
4. 場所を選択して、検索にサブフォルダを含めるかどうかを選択します。
5. (オプション)作成日または最終更新日を指定し、カレンダアイコンをクリックして日付範囲を指定します。
6. 検索をクリックします。  
検索されたオブジェクトが、テーブルの右側に表示されます。
7. オブジェクトを選択して、OKをクリックします。

### ライブラリツリーのフォルダの編成

SAS BI Dashboard では、ライブラリツリー内にフォルダとサブフォルダを作成して、SAS BI Dashboard オブジェクトを編成できます。SAS BI Dashboard オブジェクトの編成機能を使用して、ビジネスルールやニーズに基づいた安全なフォルダ構造を作成できます。

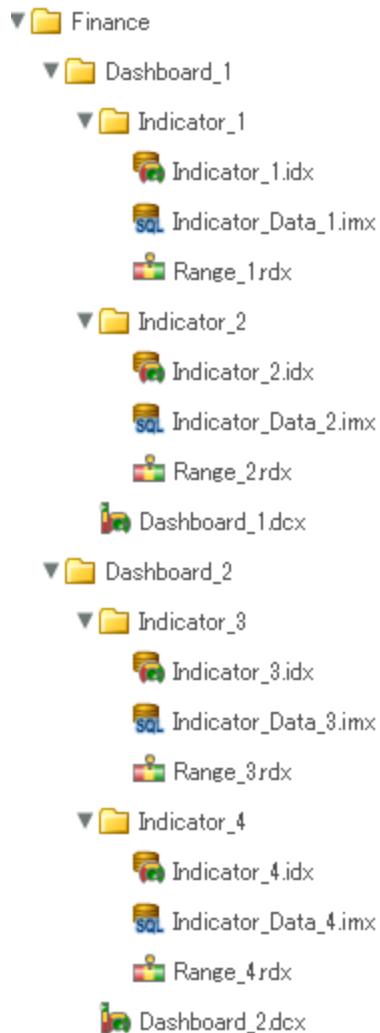


SAS BI Dashboard オブジェクトの保存方法を慎重に検討してから、ダッシュボードユーザーに通知することをお勧めします。

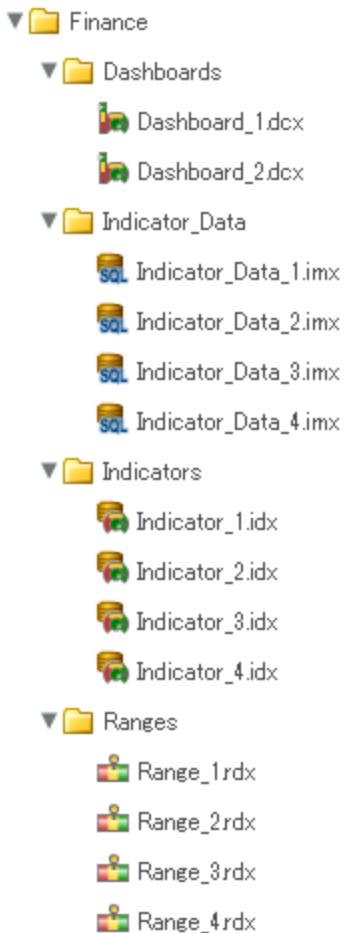
1つの方法は、組織の部門ごとにフォルダを作成する方法です。各部門は、SAS BI Dashboard オブジェクトや他の SAS オブジェクト(レポートや Information Map など)を部門フォルダに保存します。部門フォルダ内のダッシュボードオブジェクトの関連付けの方

法を検討し、ダッシュボードユーザーがより簡単に各種オブジェクトの関連付けの方法を理解できるように一貫性のあるフォルダ構造を使用する必要があります。

たとえば、財務部門には次のようなフォルダ構造を作成できます。



1番目の方法に似てはいますが、より分かりやすい方法として、各部門内の SAS BI Dashboard オブジェクトの種類ごとにフォルダを作成する方法があります。



## レイアウトテンプレートビュー

レイアウトテンプレートビューには、ダッシュボードに表示されるインジケータのフローを制御するオブジェクトが含まれます。

横コンテナと縦コンテナは、コンテナに含まれるインジケータが自動的にインジケータの方向に表示されます。インジケータがコンテナの幅または高さを上回る場合、折り返されます。

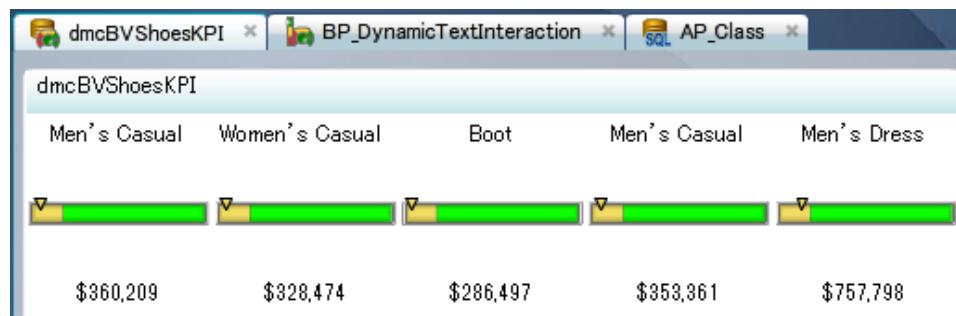
## 静的なコンテンツビュー

静的なコンテンツビューには、ラベルまたはイメージを表示するオブジェクトが含まれます。ラベルまたはイメージは、リンクにすることができます。詳細については、“[ダッシュボードコンテンツの管理](#)”(108 ページ)を参照してください。

## ワークスペース

### 概要

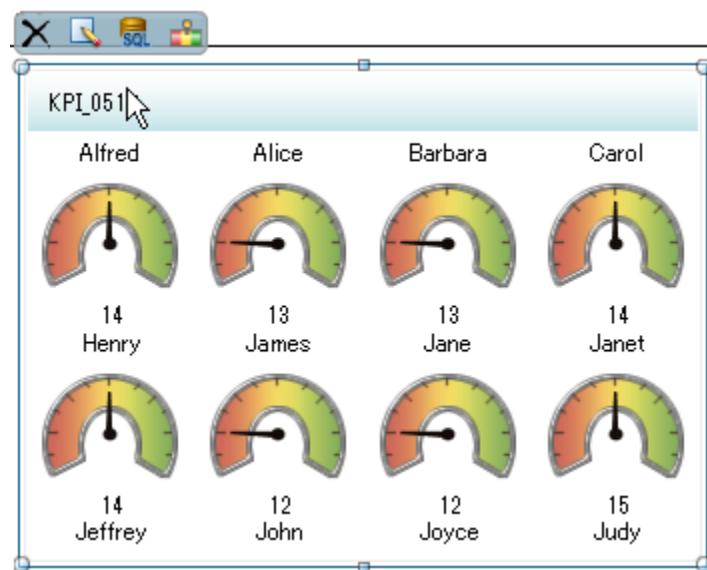
ワークスペースは、ダッシュボードを構成するオブジェクトを対話形式で操作する場所です。各オブジェクトは、別々のタブに表示されます。



ワークスペースを最大化するには、ビュー ⇒ ワークスペースの最大化を選択します。ワークスペースを通常サイズに戻すには、ビュー ⇒ ワークスペース パネルの拡張を選択します。

## タイル

ダッシュボードに複数のオブジェクトが含まれる場合、各オブジェクトは1つのタイル内に表示されます。タイルの上にマウスポインタを移動すると、タイルの境界線上にサイズ変更ハンドルが表示されます。タイルの左上には、ツールバーが表示されます。



注: ダッシュボード管理者は、タイルなしのインジケータ表示を選択できます。

## オブジェクトの編集

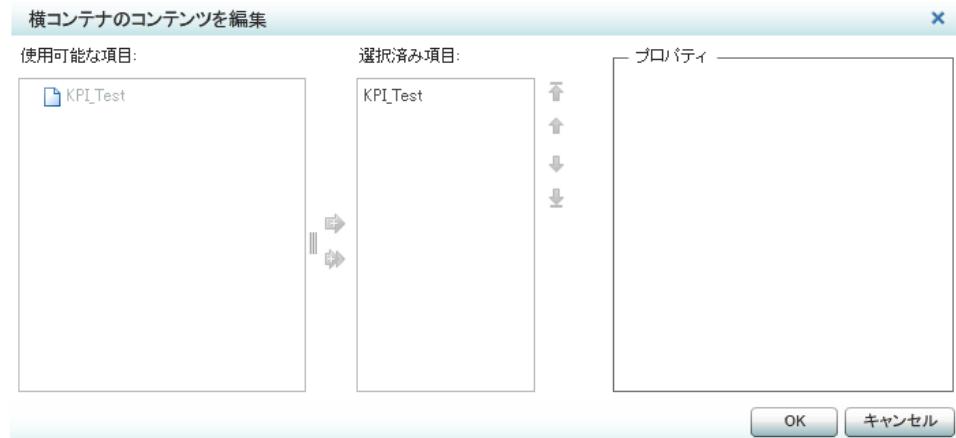
オブジェクトのツールバーにアクセスするには、タイルの上にマウスポインタを移動します。

ツールボタンでは、次の操作を実行できます。

	オブジェクトを削除します。
	オブジェクトのプロパティを表示します。

	インジケータ データプロパティを表示します。このボタンは、インジケータにのみ使用できます。
	範囲のプロパティを表示します。このボタンは、インジケータにのみ使用できます。

フローコンテナのコンテンツを編集する際、コンテナのコンテンツを編集ダイアログボックスが表示されます。コンテナ内のオブジェクトを削除するには、**選択済みアイテムリスト**から利用可能なアイテムリストにオブジェクトを移動します。



コンテナ内のオブジェクトの寸法を編集するには、**選択済みアイテムリスト**からオブジェクトを選択して、**プロパティ**領域のプロパティを編集します。

コンテナの詳細については、“[レイアウトテンプレートビュー](#)”(32 ページ)を参照してください。

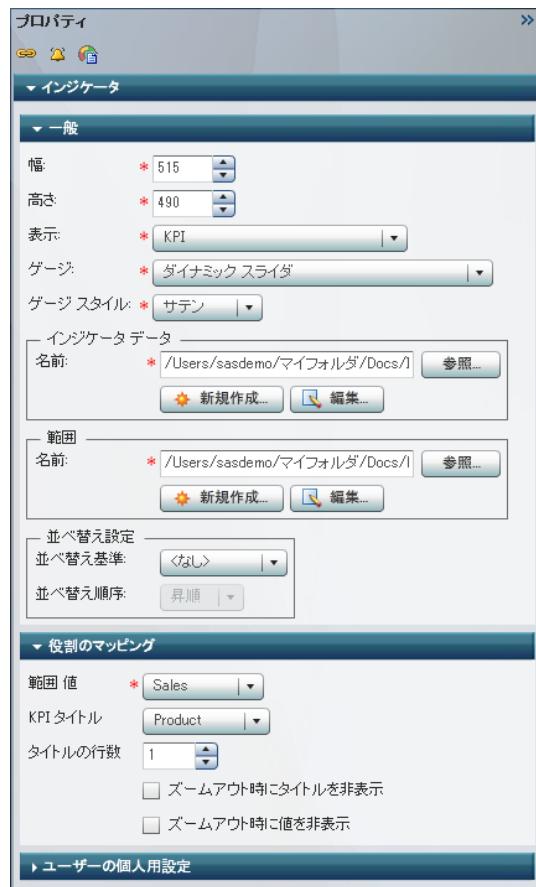
## オブジェクトの操作

オブジェクトのサイズを変更するには、オブジェクトのタイルの周囲に表示されるサイズ変更ハンドルをドラッグします。プロパティペインで、幅と高さを編集することもできます。

オブジェクトを移動するには、オブジェクトの境界線をドラッグします。プロパティペインで、左上位置を編集することもできます。

## プロパティペイン

プロパティペインには、選択したオブジェクトのプロパティが表示されます。



ただし、プロパティペインには、インジケータデータと範囲のプロパティは表示されません。これらのプロパティはすべて個別のタブに表示されます。



# 7 章 インジケータデータ

---

<b>概要</b>	<b>37</b>
<b>インジケータデータルール</b>	<b>38</b>
<b>Stored Process のインジケータデータ</b>	<b>39</b>
<b>インジケータデータの定義</b>	<b>40</b>
データ列	40
Information Map のデータソース	41
<b>インジケータデータの作成または編集</b>	<b>42</b>
インジケータデータの作成または編集の開始	42
Information Map データソースの定義	43
SQL クエリデータソースの定義	44
Stored Process データソースの定義	45
テーブルデータソースの定義	46

---

## 概要

SAS BI Dashboard のインジケータデータオブジェクトは、データソースをインジケータに関連付けます。主要なオブジェクトはインジケータです。ダッシュボードは単なるインジケータのコレクションです。1つのインジケータに、複数のインジケータデータは含まれません。また、インジケータデータなしで使用されることもほとんどありません。SAS BI Dashboard では、次の 4 種類のデータソースにアクセスできます。

- ・ リレーションナルデータにアクセスできる SQL クエリ
- ・ リレーションナルデータと OLAP キューブにアクセスできる Information Map
- ・ SAS メタデータに登録されている SAS データセットのデータにアクセスできるテーブル
- ・ 各種データにアクセスできる Stored Process

注: SAS BI Dashboard 管理者は、他のデータソースのアクセスを追加できます。

ダッシュボードを作成する前に、インジケータデータの作成方法を理解する必要があります。SAS BI Dashboard のデータフローを理解すると、組織の BI システム内で効率的に動作する企業ダッシュボードを作成できます。

比較的単純なフローが多いレポートのデータフローとは異なり、ダッシュボードのデータフローには非常にさまざまなフローが可能です。自動車のダッシュボードを考えます。自動車の状態は一見して確認できますが、実際には、ダッシュボードが受け取るさまざまな種類のデータのコレクションです。たとえば、燃料計は燃料タンク、速度計は車輪、

バッテリーゲージはバッテリーからそれぞれデータを受け取ります。自動車のダッシュボードと同様、SAS BI Dashboard にはさまざまなデータソースを含めることができます。

SAS Web Report Studio で作成されるレポートでは 1 つの Information Map のデータが複数の画面に表示されるに対して、ダッシュボードでは SQL クエリ、JDBC クエリ、Information Map の結果データが小さい領域に表示されます。静的なイメージを生成する Stored Process の出力をダッシュボードに表示することもできます。

データの取得に Information Map と SQL クエリを使用すると、データの配置方法はデータセットレベルでは制約されません。たとえば、インジケータデータに計算列とグループ化を使用できます。データを構成すると、制約がないため、ダッシュボードを素早く初期設定できます。これは簡単である反面、同時に、データ構造が規定されないことを意味します。

---

## インジケータデータルール

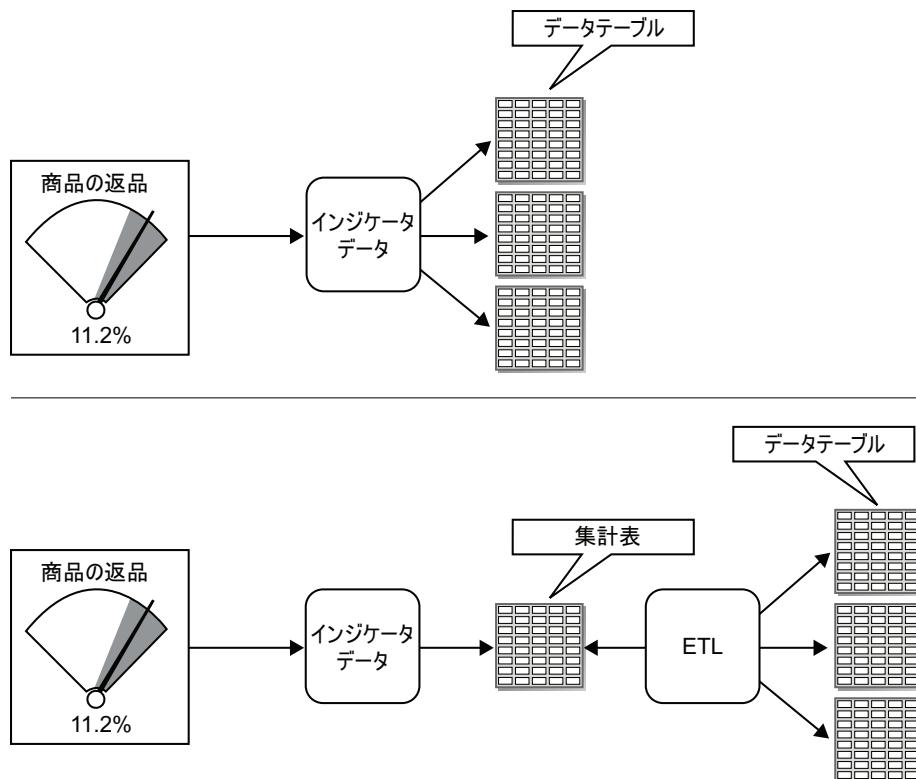
次に、インジケータデータをより素早く効率的に作成する際に役立つルールを示します。

- ・ インジケータデータに使用されるインジケータの表示の種類と、最終結果に必要なデザインを考慮して、インジケータデータを計画します。

たとえば、限定されたデータ行数を使用して要約データを生成するインジケータデータには、KPI が最適であると考えられます。大量のデータが含まれるインジケータデータに KPI インジケータ表示が使用されると、SAS BI Dashboard では、インジケータデータのデータ行ごとに 1 つの KPI グラフ表示を生成しようとします。棒グラフなど、その他のインジケータの表示の種類では、データが自動的に要約されます。この場合、より多いデータ行数を生成するインジケータデータを使用する方が適切です。
- ・ インジケータに单一ゲージを表示するには、インジケータデータが單一データ行を返す必要があります。
- ・ 素早く実行されるようにインジケータデータを作成します。

1 つでも時間がかかるインジケータデータセットがあると、ダッシュボード全体の速度が低下します。インジケータデータが返すデータ行が 1 行のみの場合でも、各テーブルにデータが何千行も含まれるテーブルを最初に結合する必要があると、インジケータデータの実行は遅くなります。
- ・ ソースデータに非常に多くの行が含まれる場合、データを要約します。

インジケータデータまたはデータモデルレベルでデータを要約します。インジケータ表示に依存して要約を実行しないでください。
- SQL クエリの場合、AVG()などの集計関数と個別のキーワードを使用してデータを要約できます。
- 別の方針として、要約テーブル内にデータを要約する方法があります。要約テーブルは、SQL クエリの基準または Information Map の基準テーブルとして使用されます。次の 1 番目の図は、複数のテーブルのデータを結合するクエリを使用する SAS BI Dashboard のインジケータデータを示します。2 番目の図は、ETL プログラムにより要約される同一の 2 つのテーブルを示します。SAS BI Dashboard のインジケータは、この要約テーブルを使用します。



1番目の方法の方が設定が簡単で、タイムリーなデータが得られる可能性がありますが、2番目の方法の方が、柔軟性が高く、拡張性に優れている可能性が高いです。SAS BI Dashboard のインジケータデータにより使用される Information Map を作成する際、同様のストラテジを使用できます。

- 1つのインジケータに複数のゲージまたは1つのグラフを表示するには、各数値に分かりやすい名前を関連付ける必要があります。

インジケータデータを定義したら、インジケータ表示に含めるデータフィールドを選択します。インジケータに表示される数値データフィールドごとに、カテゴリ ラベルドロップダウンリストからデータフィールドを選択して、数値に関連付けることができます。この関連付けられたデータフィールドは、グラフのゲージまたはカテゴリ値と一緒に表示されます。

## Stored Process のインジケータデータ

通常、SAS BI Dashboard で使用する SAS Stored Process を作成するには、次のステップを実行します。

1. 次の処理を行う Stored Process コードを作成します。
  - a. SAS Work ライブラリに SAS データセットを作成します
  - b. SAS Publishing Framework を使用して、SAS Package ファイルにデータをパブリッシュします
  - c. マクロ変数\_ARCHIVE\_FULLPATH に Stored Process で生成されるアーカイブファイルのパスを設定します
2. SAS Management Console で、Stored Process を SAS メタデータに登録してパッケージの作成時に指定し、ターゲットデータを指定します。

ターゲットデータの指定方法については、SAS Management Console オンラインヘルプを参照してください。

3. Stored Process のメタデータ登録を保存します。

Stored Process をインジケータデータで使用できるようになりました。

#### 関連項目:

- “Stored Process データソースの定義” (45 ページ)
- “カスタムグラフの表示” (66 ページ)

## インジケータデータの定義

### データ列

インジケータデータを定義する際、取得する各データ列の表示属性も指定します。

SQL クエリデータソースを定義する際、データソースからデータを取得するクエリを作成します。クエリを作成したら、クエリをサブミットして検証します。

クエリが正しくない場合、リストは空で、エラーメッセージが表示されます。

次に、フィールドの説明を示します。

#### 列名

データ列の名前。この値は変更できません。

列名は、表示の種類ごとに、カテゴリ ラベル、ラベル、プロパティのエイリアスの名前のデフォルト値として使用されます。

#### カテゴリラベル

KPI ゲージまたはグラフに表示される名前を含むデータ列。

#### ラベル

表示されるフォーマットされた値を含むデータ列。このフォーマットには、ラベルの単一の数値が許可されます。

SQL クエリには、このフィールドは必要ありません。ゲージの下部にフォーマットされたラベルを作成するには、SQL クエリでラベルをフォーマットされた文字列として作成し、その文字列をラベル属性として定義します。

次に、ラベルの表示形式を表示の種類ごとに示します。

表示の種類	ラベルの表示形式
すべてのグラフィカル表示	各ゲージの下とツールチップコンテキスト(コロンの右側)に表示されます。棒グラフと折れ線グラフの場合、指定した値のカテゴリとして表示されます。
カスタムグラフ	使用されません。
ダイナミックプロンプト	ツールチップに表示されます。
ダイナミックテキスト	使用されません。

表示の種類	ラベルの表示形式
KPI	各ページの下に表示されます。
スパークテーブル	値列に表示されます。

### ハイパーアリンク

ハイパーアリンクを含むデータ列。

表示の種類ごとに、ハイパーアリンクはゲージまたはグラフの各データポイントに埋め込まれます。

### プロパティのエイリアス

ラベルに取得した値を置換するテキスト。

次に、プロパティのエイリアスの表示形式を表示の種類ごとに示します。

表示の種類	プロパティのエイリアスの表示形式
すべてのグラフィカル表示	軸ラベルとツールチップコンテキスト(コロンの左側)に表示されます。
カスタムグラフ	使用されません。
ダイナミックプロンプト	ツールチップに表示されます。
ダイナミックテキスト	使用されません。
KPI	軸ラベルとツールチップコンテキスト(コロンの左側)に表示されます。
スパークテーブル	列ヘッダーに表示されます。

## Information Map のデータソース

### 概要

Information Map データソースは、1 つの Information Map で複数の異なるダッシュボードインジケータを動かせるように、データを容易に集計します。

### OLAP Information Map

OLAP Information Map から返されたデータは、2 次元テーブル構造に変換されます。データソースを定義する際、各ディメンションの役割を割り当てます。役割は、列、行、スライサです。

注: 行の役割は、1 つ以上のデータ列に割り当てる必要があります。

ディメンションに行の役割を割り当てた場合、各階層のレベルがデータフィールドです。レベルの対応するメンバは、フィールド名がレベルのラベルであるデータフィールドの値です。その他のデータフィールドは、通常 OLAP ビューアに表示される列です。データフィールドのフィールド名は、行の役割が割り当てられたディメンションの順番で、列の役割が割り当てられたディメンションのカンマ区切りレベルです。

OLAP Information Map を含む参照線付き棒グラフのグループ化機能を使用して、データの多次元表示を作成できます。

## インジケータデータの作成または編集

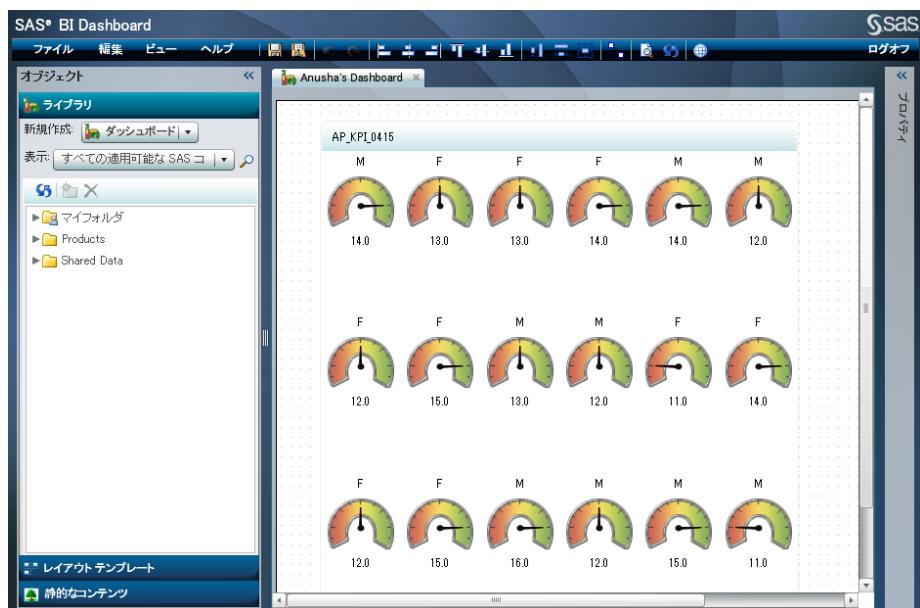
### インジケータデータの作成または編集の開始

インジケータデータを作成または編集するには、次のステップを実行します。

**注:** インジケータデータは、インジケータの作成や編集時にも作成または編集できます。詳細については、“[インジケータの作成または編集](#)”(54 ページ)を参照してください。

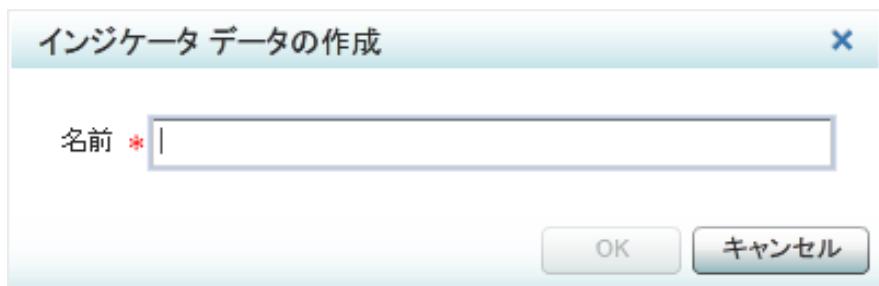
- ダッシュボードポートレットで、**ダッシュボードの管理**をクリックします。

SAS BI Dashboard が、ブラウザの新しいタブに表示されます。



- インジケータデータを作成するには、次のステップを実行します。
  - オブジェクトペインのライブラリビューで、**新規作成**ドロップダウンリストからインジケータデータを選択します。

インジケータデータの作成ダイアログボックスが表示されます。



- 名前を入力して、OKをクリックします。
- インジケータデータを編集するには、オブジェクトペインのライブラリビューで、インジケータデータが含まれる場所に移動して、名前をダブルクリックします。

*注:* 表示ドロップダウンリストからインジケータ データを選択して、ライブラリツリーのインジケータデータのみ表示するように選択できます。

4. データソースを定義します。  
詳細については、次のいずれかを参照してください。定義後、このタスクに戻ります。
    - ・ “Information Map データソースの定義” (43 ページ)
    - ・ “SQL クエリデータソースの定義” (44 ページ)
    - ・ “テーブルデータソースの定義” (46 ページ)
    - ・ “Stored Process データソースの定義” (45 ページ)
  5. データポイントプロパティをデータソースのデータ列に関連付けるには、データポイントプロパティごとに次のステップを実行します。
    - a. 列名列で、表示に含める各データポイントプロパティの横にあるチェックボックスを選択します。
    - b. カテゴリ ラベルドロップダウンリストから、カテゴリラベルまたはグループ変数に入ったデータソースのデータ列を選択します。  
データソースに Name データ列が存在する場合、すべてのデータポイントのプロパティに対してこのデータ列が自動的に選択されます。
    - c. ラベルドロップダウンリストから、データポイントプロパティのラベルが入ったデータソースのデータ列を選択します。  
データフィールドと定型テキストを組み合せたような複合ラベルが必要な場合、この組み合わせを格納するデータ列をデータソースに作成します。次に、データポイントプロパティとして表示する名前をプロパティのエイリアスフィールドに入力します。
    - d. ハイパーリンクドロップダウンリストから、データポイントプロパティのハイパークが入ったデータソースのデータ列を選択します。
    - e. プロパティのエイリアスフィールドに、KPI テーブル表示の列ヘッダーにデータポイントプロパティとして表示する名前を入力します。
- 注:* KPI 表示では、この値は無視されます。

## Information Map データソースの定義

### *注意:*

リレーションナル Information Map データソースから返される最大行数は 1,000 です。1,000 行を超える行がソースデータに含まれる場合、リレーションナル Information Map データソースを使用するインジケータに示される情報は正しくない可能性が高いです。可能な場合、返す行数を減らすようにデータを集計します。

Information Map データソースを定義するには、次のステップを実行します。

1. “インジケータデータの作成または編集の開始” (42 ページ) タスクの最初の 3 ステップを実行します。
2. データソースドロップダウンリストから、Information Map を選択します。

Information Map データソースを定義するためのフィールドが表示されます。



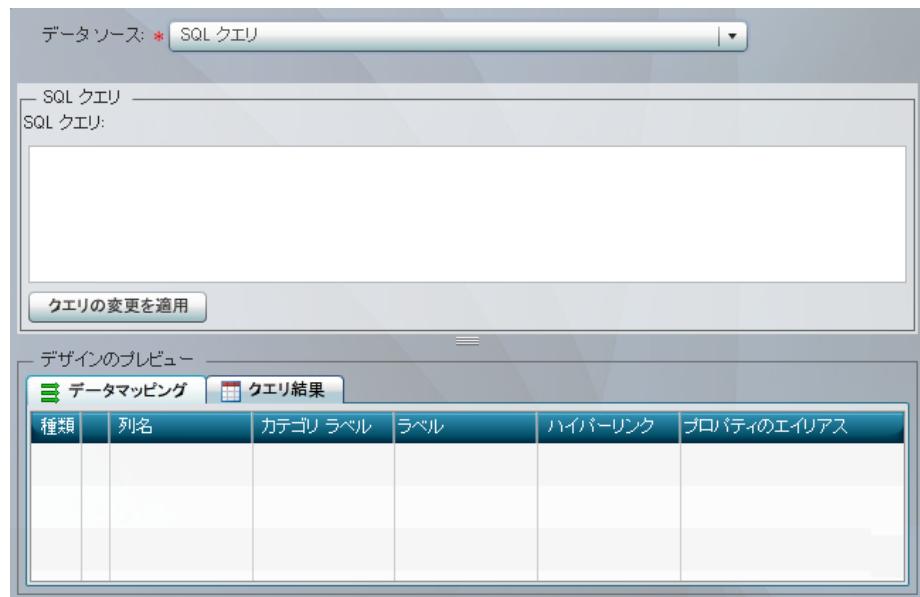
3. **Information Map** フィールドの横にある**参照**をクリックします。  
開くダイアログボックスが表示されます。
4. **Information Map** に移動して選択し、**開く**をクリックします。
5. **利用可能なアイテムリスト**または**選択済みアイテムリスト**のアイテムを1つ以上選択し、リストの間にある矢印をクリックして、データ列とフィルタを移動します。  
フィルタは、フィルタノードの下で移動します。デフォルトにより、データ列は列ノードの下で移動します。Information Map が OLAP キューブに基づいている場合、**選択済みアイテムリスト**には行ノードとスライサノードが含まれています。これらの役割のいずれかでデータ列を使用するには、**利用可能リスト**からデータ列を移動させる前に、行またはスライサを選択します。  
*注:* ユーザー プロンプトを含むフィルタを利用可能にするには、SAS Information Map Studio でそのプロンプトのデフォルト値が指定されている必要があります。
6. グループ間のデータ列を移動するには、**選択済みアイテムリスト**でデータ列の名前をクリックし、次にリストの横にある矢印のいずれかをクリックして、データ列を上下に移動させます。
7. データ列を設定したら、**クエリの変更を適用**をクリックします。
8. インジケータデータに含めるデータを表示するには、**クエリ結果**タブをクリックします。
9. “[インジケータデータの作成または編集](#)” (42 ページ)タスクのステップ 5 を続けます。

## SQL クエリデータソースの定義

SQL クエリデータソースを定義するには、次のステップを実行します。

1. “[インジケータデータの作成または編集の開始](#)” (42 ページ)タスクの最初の 3 ステップを実行します。
2. データソースドロップダウンリストから、SQL クエリを選択します。

SQL クエリデータソースを定義するためのフィールドが表示されます。



3. クエリフィールドにクエリコードを入力します。
4. サブミットをクリックします。
5. インジケータデータに含めるデータを表示するには、クエリ結果タブをクリックします。
6. “インジケータデータの作成または編集” (42 ページ)タスクのステップ 5 を続けます。

### *Stored Process* データソースの定義

*Stored Process* データソースを定義するには、次のステップを実行します。

1. “インジケータデータの作成または編集の開始” (42 ページ)タスクの最初の 3 ステップを実行します。
2. データソースドロップダウンリストから、**Stored process** を選択します。

*Stored Process* データソースを定義するためのフィールドが表示されます。



3. **Stored process** フィールドの横にある**参照**をクリックします。  
開くダイアログボックスが表示されます。
4. **Stored Process** に移動して選択し、**閉く**をクリックします。
5. **パブリッシュするデータセット名**ドロップダウンリストから、データセットを選択します。
6. (オプション) SAS ログをサーバーログに追加するように選択します。  
このオプションを選択すると、後からこの情報を確認できます。
7. **変更の適用**をクリックします。
8. インジケータデータに含めるデータを表示するには、**クエリ結果**タブをクリックします。
9. “インジケータデータの作成または編集”(42 ページ)タスクのステップ 5 を続けます。

#### 関連項目:

[“Stored Process のインジケータデータ”\(39 ページ\)](#)

## テーブルデータソースの定義

### 注意:

テーブルデータソースから返される最大行数は 1,000 です。1,000 行を超える行がソースデータに含まれる場合、テーブルデータソースを使用するインジケータに示される情報は正しくない可能性が高いです。可能な場合、返す行数を減らすようにデータを集計します。

テーブルデータソースを定義するには、次のステップを実行します。

1. “インジケータデータの作成または編集の開始”(42 ページ)タスクの最初の 3 ステップを実行します。
2. データソースドロップダウンリストから、**テーブル**を選択します。  
テーブルデータソースを定義するためのフィールドが表示されます。



3. テーブルツリーで、テーブルを選択します。  
テーブルのデータ列は、**使用可能な列**テーブルに表示されます。
4. **使用可能な列**テーブルで、行の最後にあるチェックボックスを選択することにより、インジケータデータに含めるデータ列を選択します。
5. 選択したデータ列ごとに、データの要約方法を**要約**列から選択します。
6. 選択したデータ列ごとに**グループ化**列のチェックボックスを選択することにより、データをグループ化するかどうかを選択します。
7. 追加フィルタを指定するには、(SQL 構文を使用して)フィルタフィールドにフィルタを入力します。  
*注:* キーワード `where` を入力しないでください。`where` は自動的に挿入されるため、エラーが発生します。
8. **クエリの変更を適用**をクリックします。
9. インジケータデータに含めるデータを表示するには、**クエリ結果**タブをクリックします。
10. “[インジケータデータの作成または編集](#)” (42 ページ)タスクのステップ 5 を続けます。



# 8 章

## 範囲

---

範囲の作成または編集 .....	49
範囲の作成または編集の開始 .....	49
範囲の定義 .....	50

---

## 範囲の作成または編集

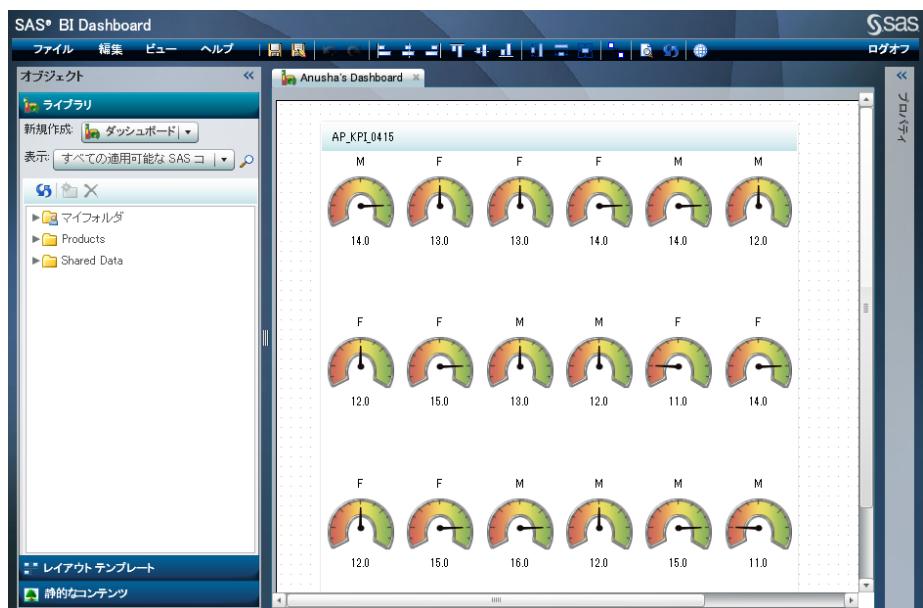
### 範囲の作成または編集の開始

範囲により、目標を下回る、目標通り、目標を上回るなど、メトリックの評価基準となる測定間隔を定義します。

範囲を作成または編集するには、次のステップを実行します。

1. ダッシュボードポートレットで、ダッシュボードの管理をクリックします。

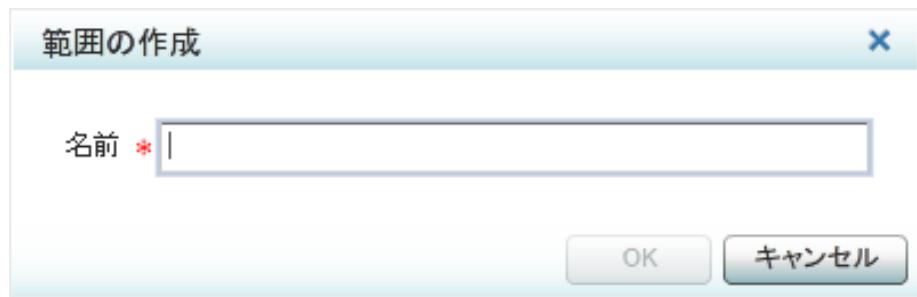
SAS BI Dashboard が、ブラウザの新しいタブに表示されます。



2. 範囲を作成するには、次のステップを実行します。

- a. オブジェクトペインのライブラリビューで、新規作成ドロップダウンリストから範囲を選択します。

範囲の作成ダイアログボックスが表示されます。



- b. 名前を入力して、OKをクリックします。
3. 範囲を編集するには、オブジェクトペインのライブラリビューで、範囲が含まれる場所に移動して、名前をダブルクリックします。  
注: 表示ドロップダウンリストから範囲を選択して、ライブラリツリーの範囲のみ表示するように選択できます。

## 範囲の定義



範囲を定義するには、次のステップを実行します。

1. 必要に応じて、説明を入力します。
2. 範囲の間隔ごとに、間隔の追加をクリックし、値フィールドに間隔値を入力して、OKをクリックします。

間隔が間隔テーブルに追加されます。値は、任意の順序で追加できます。追加された値は、ソフトウェアにより正しい順序でテーブル内に配置されます。

注: 有効な入力値には、記号、数字、およびロケールによって決まる小数点区切り文字などがあります。

3. 間隔を定義するには、次のステップを実行します。
  - a. 固定ゲージの場合、コード間隔列のドロップダウンリストからコード間隔を選択します。  
選択できる間隔は、ゲージによって異なります。
  - b. リレーション列で、ドロップダウンリストから演算子を選択し、隣接する下限値列の値を指定します。
  - c. ラベル列にラベル名を入力します。
  - d. 色列をクリックして、色を選択します。
  - e. 間隔を削除するには、間隔の横にある~~X~~をクリックします。
  - f. 表示される範囲をプレビューするには、**ダイナミック ゲージの種類**ドロップダウンリストからゲージの種類を選択します。

範囲を使用できるユーザーを管理できます。詳細については、SAS Management Console オンラインヘルプを参照してください。



# 9 章

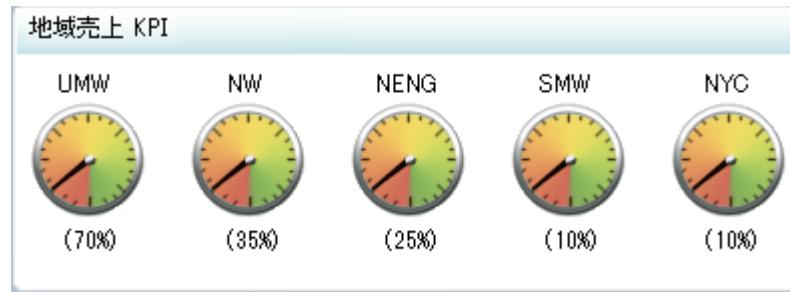
## インジケータ

---

<b>概要</b>	<b>54</b>
<b>インジケータの作成または編集</b>	<b>54</b>
概要	54
インジケータの作成または編集の開始	54
全般的なプロパティの定義	56
役割マッピングプロパティの定義	56
ユーザーの個人用設定プロパティの定義	57
リンクの設定	57
インジケータアラートの作成または編集	58
<b>インジケータの表示</b>	<b>59</b>
棒グラフ(ビュレット)の表示	59
参照線付き棒グラフ表示	61
バブルプロットの表示	63
スライダ表示のチャートの表示	64
集合棒グラフの表示	65
カスタムグラフの表示	66
折れ線グラフ(2本線)の表示	68
ダイナミックプロンプトの表示	69
ダイナミックテキストの表示	70
予測グラフの表示	71
対話型の表示	72
KPI の表示	76
参照線付き折れ線グラフの表示	79
ニードルプロットの表示	81
円グラフの表示	81
Range Map の表示	82
散布ヒストグラムの表示	84
散布図の表示	85
スケジュールチャートの表示	87
棒グラフの表示	88
スパークテーブルの表示	89
積み上げ棒グラフの表示	90
ターゲット棒グラフの表示	91
タイルチャートの表示	93
ベクトルプロットの表示	93
ウォーターフォールチャートの表示	95
インジケータのゲージの選択	97

## 概要

インジケータには、タイトルと表示が含まれます。表示には、データ値(複数可)、ハイパーアリンク(オプション)、ゲージ(複数可)、グラフ、イメージが含まれます。次に、KPI インジケータの例を示します。



インジケータタイトルは、地域売上 KPI です。NW や NYC などのゲージ名は、データソースが定義された際、カテゴリ ラベルフィールドに指定されたデータ列の値です。10%や 35%などの値は、ラベルフィールドに指定されたデータ列の値です。ハイパーアリンクは表示されていません。表示の種類によって異なるこれらの情報の表示場所については、「[インジケータデータの定義](#)」(40 ページ)を参照してください。

インジケータを作成または編集する際、表示を選択します。詳細については、「[インジケータの作成または編集](#)」(54 ページ)と「[インジケータの表示](#)」(59 ページ)を参照してください。

## インジケータの作成または編集

### 概要

通常、インジケータを作成または編集するには、次の 6 つのステップを実行します。

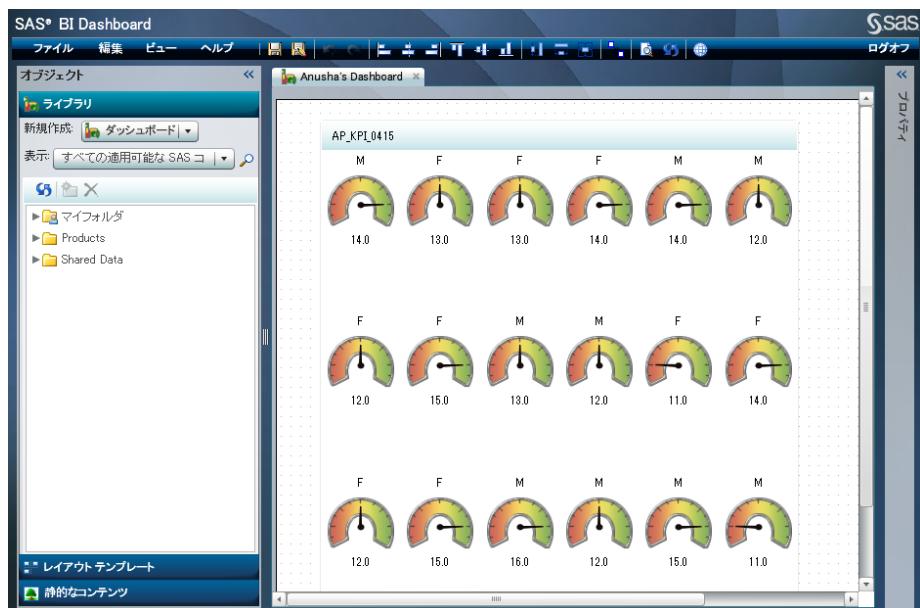
1. インジケータの作成または編集を開始します。(54 ページを参照してください。)
2. 全般的なプロパティを定義します。(56 ページを参照してください。)
3. 役割マッピングプロパティを定義します。(56 ページを参照してください。)
4. ユーザーの個人用設定プロパティを定義します。(57 ページを参照してください。)
5. リンクを設定します。(57 ページを参照してください。)
6. インジケータアラートを作成または編集します。(58 ページを参照してください。)

インジケータの編集時は、これらのステップを任意の順番で実行できます。

### インジケータの作成または編集の開始

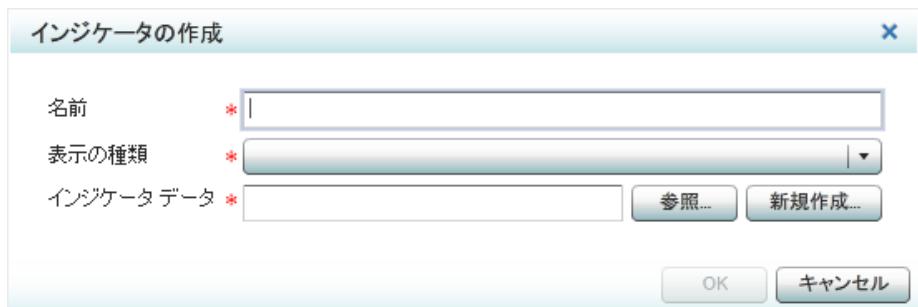
インジケータの作成または編集を開始するには、次のステップを実行します。

1. ダッシュボードの管理をクリックします。  
ダッシュボードデザイナが表示されます。



2. インジケータを作成するには、次のステップを実行します。
  - a. オブジェクトペインのライブラリビューで、新規作成ドロップダウンリストからインジケータを選択します。

インジケータの作成ダイアログボックスが表示されます。



- b. 名前を入力します。
  - c. 表示の種類を選択します。
- 選択した表示の種類に基づいて、インジケータデータフィールドの下にその他のコントロールが表示されます。
- d. 既存のインジケータデータを選択するには、インジケータデータフィールドの横にある参照をクリックし、インジケータデータに移動して開きます。
  - e. インジケータデータを作成するには、インジケータデータフィールドの横にある新規作成をクリックします。
- 詳細については、“[インジケータデータの作成または編集の開始](#)”(42 ページ)タスクのステップ 2 を参照してください。
- f. OK をクリックします。
3. インジケータを編集するには、オブジェクトペインのライブラリビューで、インジケータが含まれる場所に移動して、名前をダブルクリックします。
- 注: 表示ドロップダウンリストからインジケータを選択して、ライブラリツリーのインジケータのみ表示するように選択できます。

## 全般的なプロパティの定義

- 高さと幅を変更するには、コントロールに値を指定するか、インジケータをクリックしてサイズ変更ハンドルをドラッグします。

高さと幅の値は、5ピクセル間隔です。

**注:** 対話型要約グラフと詳細グラフの表示、または対話型要約グラフと詳細プロットの表示の場合、判読可能な最小寸法は380x450ピクセルです。

これらの高さと幅の設定は、インジケータが、ダッシュボード上ではなく、単独で表示される場合のみ適用されます。ダッシュボード上に表示される場合、インジケータの高さと幅は、プロパティペインのオブジェクト領域で指定します。

- 表示の種類を選択します。

選択した表示の種類に基づいて、その他のコントロールが表示されます。

ゲージの詳細については、“[インジケータのゲージの選択](#)”(97 ページ)を参照してください。

- 既存のインジケータデータを選択するには、**インジケータ データフィールド**の横にある**参照**をクリックし、インジケータデータに移動して開きます。

**注:** 範囲データもインジケータデータと同じ方法で操作します。

- インジケータデータを作成するには、**インジケータ データフィールド**の横にある**新規作成**をクリックします。

詳細については、“[インジケータデータの作成または編集の開始](#)”(42 ページ)タスクのステップ 2 を参照してください。

- 既存のインジケータデータを使用するには、**参照**をクリックしてインジケータデータに移動し、名前をダブルクリックします。

- インジケータデータを編集するには、**編集**をクリックします。

詳細については、次のいずれかを参照してください。

- “[Information Map データソースの定義](#)”(43 ページ)
- “[SQL クエリデータソースの定義](#)”(44 ページ)
- “[テーブルデータソースの定義](#)”(46 ページ)
- “[Stored Process データソースの定義](#)”(45 ページ)

- インジケータデータを作成するには、**インジケータ データフィールド**の横にある**新規作成**をクリックします。

詳細については、“[インジケータデータの作成または編集の開始](#)”(42 ページ)タスクのステップ 2 を参照してください。

- (オプション)表示データの並べ替え方法を選択します。

## 役割マッピングプロパティの定義

役割マッピングプロパティには、表示に含めるデータ、データのグループ化の方法、データの要約方法などを指定します。

利用可能な役割マッピングプロパティは、選択した表示の種類によって異なります。

役割マッピングプロパティのリストについては、[付録 A1, “インジケータ役割マッピングプロパティ”](#)(115 ページ)を参照してください。

## ユーザーの個人用設定プロパティの定義

(オプション)ユーザーにアラートの管理を許可するか、ユーザーが選択可能な電子メールテンプレートを制限するかどうかを選択します。

### リンクの設定

1. プロパティペイン上部のをクリックします。  
リンクの設定ダイアログボックスが表示されます。



注: インジケータの表示の種類が、スライダ表示のチャート、ダイナミックプロンプト、ダイナミックテキストの場合、リンクを設定できません。

2. リンクの種類ドロップダウンリストから、リンクの種類を選択します。
3. リンクターゲットドロップダウンリストから、リンクターゲットを開くウィンドウを選択します。
4. 外部リンクを選択した場合、リンクフィールドに外部リンクの URL を入力します。
5. 外部リンク以外を選択した場合、リンクフィールドの横にある参照をクリックして、項目を選択します。

選択できる項目は、リンクの種類によって異なります。

6. (オプション)パラメータをサポートする URL をリンクフィールドに指定した場合、この URL にパラメータを指定するには、次のステップを実行します。

- a. をクリックします。

名前コントロールとデータポイントの探索コントロールが表示されます。

注: リンクの種類に Web Report を選択した場合、名前列は表示テキストに名前変更されています。

- b. パラメータ名を入力して、このパラメータに関連付けるデータポイントの探索を選択します。

名前は、大文字小文字も含めて、必要な名前に完全に一致する必要があります。

データポイントの探索は、パラメータ値を含むデータ列です。

- c. 必要な数のパラメータを追加します。
- d. パラメータを削除するには、行を選択して、行の横にあるXをクリックします。
- e. パラメータを並べ替えるには、パラメータを選択して、パラメータテーブルの横にある矢印ボタンをクリックします。

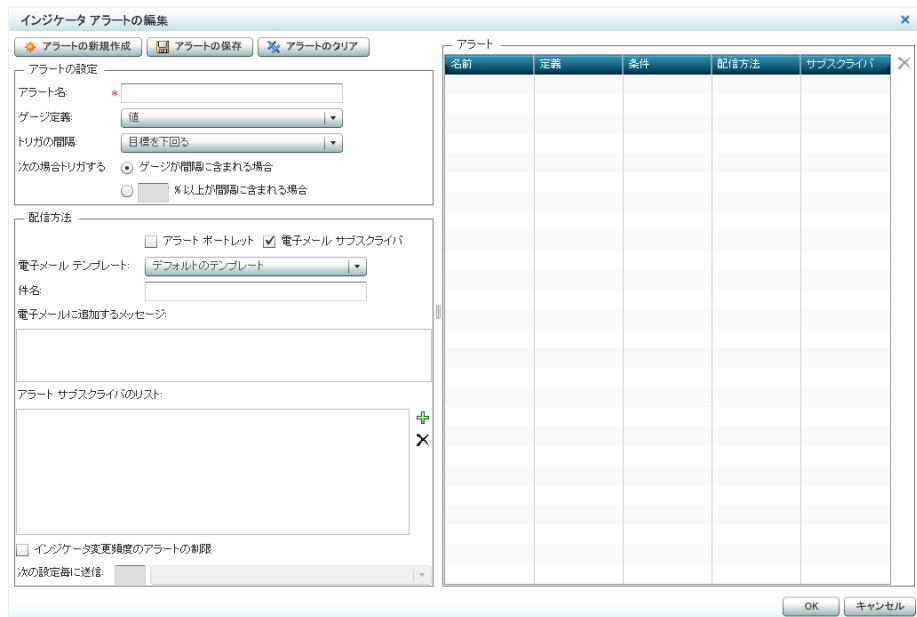
## インジケータアラートの作成または編集

### 概要

インジケータアラートを作成するには、プロパティペイン上部の*!*をクリックします。

**注:** インジケータアラートのトリガ間隔は、範囲に依存します。このため、表示の種類が範囲をサポートするインジケータのみ、インジケータアラートを作成できます。

インジケータアラートの編集ダイアログボックスが表示されます。



インジケータアラートを作成するには、次のステップを実行します。

1. アラートの新規作成をクリックします。
2. アラートの名前を入力します。
3. ゲージ定義とトリガの間隔のドロップダウンリストから、ゲージ定義とアラートをトリガする間隔を選択します。
4. アラートをトリガする間隔として、ゲージが間隔に含まれる場合または%以上が間隔に含まれる場合を選択します。
5. %以上が間隔に含まれる場合を選択した場合、チェックボックスの横にあるフィールドにパーセントを入力します。
6. アラートの配信方法として、アラートポートレットまたは電子メールサブスクリバを選択します。

**注:** 両方を選択することもできます。

7. (オプション)電子メール サブスクリバを選択した場合は、次のステップを実行します。
  - a. 電子メール テンプレートドロップダウンリストから、電子メールの出力形式を指定するために使用する電子メールテンプレートを選択します。
  - b. 件名、および電子メールに含める追加メッセージを入力します。
  - c. アラートサブスクリバのリストの横にある $\text{+}$ をクリックして、ユーザーとユーザーグループを選択します。  
詳細については、後述の「ユーザーとユーザーグループの追加」を参照してください。
  - d. サブスクリバを削除するには、削除するサブスクリバをリストから選択し $\times$ をクリックします。

**ユーザーとユーザーグループの追加**

  - e. 検索するテキストを検索フィールドに入力します。  
部分テキストは有効です。ワイルドカードはサポートされていません。
  - f. 検索するカテゴリ(または両方のカテゴリ)を選択します。
  - g. 検索をクリックします。  
検索条件に一致するすべてのエントリがテーブルに表示されます。
  - h. テーブルから、追加する各エントリの横にあるチェックボックスを選択します。  
*注:* テーブルからアラート サブスクリバのリストにエントリをドラッグすることもできます。
8. アラートの数を制限するには、インジケータ変更頻度のアラートの制限チェックボックスを選択し、値を入力して時間間隔を選択します。

インジケータアラートを編集するには、次のステップを実行します。

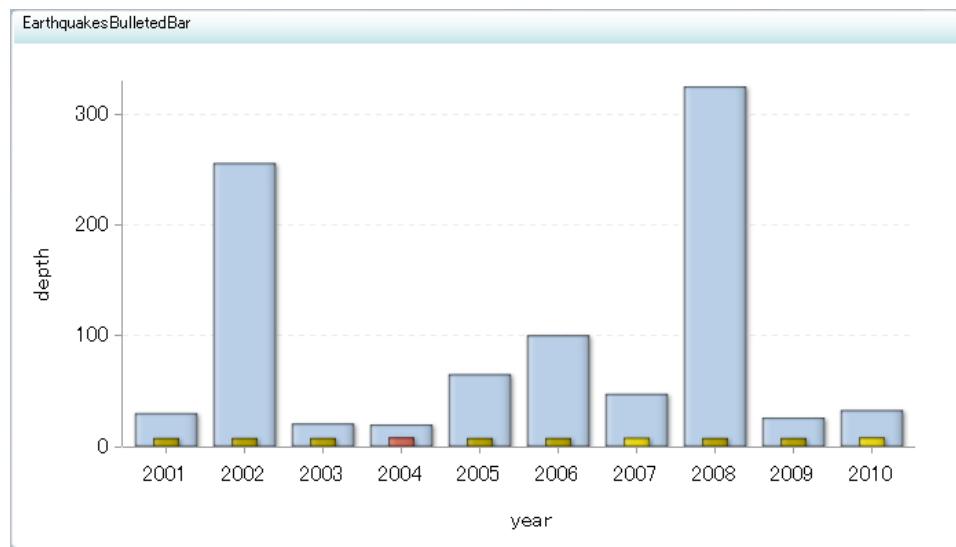
1. アラート表から、アラートを選択します。  
アラートのプロパティがダイアログボックスの左側に表示されます。
2. プロパティを編集します。

アラートを削除するには、アラート表から削除するアラートを選択して、 $\times$ をクリックします。

## インジケータの表示

### 棒グラフ(ビュレット)の表示

次に、棒グラフ(ビュレット)の表示例を示します。

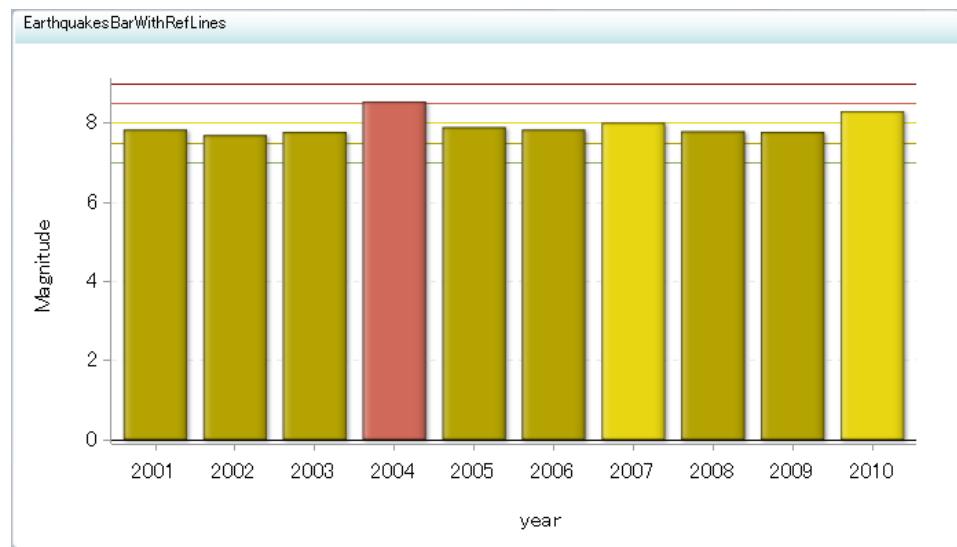


次に、この表示を作成したプロパティを示します。



## 参照線付き棒グラフ表示

参照線付き棒グラフの表示では、棒グラフや折れ線グラフなど、標準的なグラフ表示に範囲が適用されます。次に、参照線付き棒グラフの表示例を示します。



次に、この表示を作成したプロパティを示します。

▼ インジケータ

▼ 一般

- 幅: \* 700
- 高さ: \* 400
- 表示: \* 参照線付き棒グラフ
- グラフスタイル: 光沢

— インジケータデータ —

- 名前: \* /Users/sasdemo/マイフォルダ/Docs/I [参照...]
- [新規作成...] [編集...]

— 範囲 —

- 名前: \* /Users/sasdemo/マイフォルダ/Docs/I [参照...]
- [新規作成...] [編集...]

— 並べ替え設定 —

- 並べ替え基準: <なし>
- 並べ替え順序: 升順

▼ 役割のマッピング

- X 軸値: \* year
- 棒の値: \* Magnitude
- X 軸タイトル:
- Y 軸タイトル:
- X 軸のスケール
- Y 軸のスケール
- X 軸目盛りラベルを非表示にする
- ズームアウト時に軸を非表示にする
- 参照線の非表示
- 行グループ化: <なし>
- 列グループ化: <なし>
- Y 軸の出力形式: <なし>
- X 軸の出力形式: <なし>
- X 軸ラベル: 切捨てて回転

最適な結果を得るには、インジケータデータは、**カテゴリ ラベルデータ列**の一意の値ごとに 1 つの値のみ返す必要があります。インジケータデータが 1 つの値のみ返す場合、参照線付き棒グラフの表示ではデータを集計する必要はありません。カテゴリ変数は、データソースが定義される際、**カテゴリ ラベルフィールド**に選択されたデータ列により指定されます。

参照線付き棒グラフの表示でデータを集計する場合、参照線付き棒グラフには、データ系列ごとに平均間隔のデータポイントが表示されます。集計される間隔のインデックスが平均され、表示する間隔と棒の色が決定されます。

参照線付き棒グラフ表示でデータを集計する場合、参照線付き棒グラフでは次の 2 つの処理が行われます。

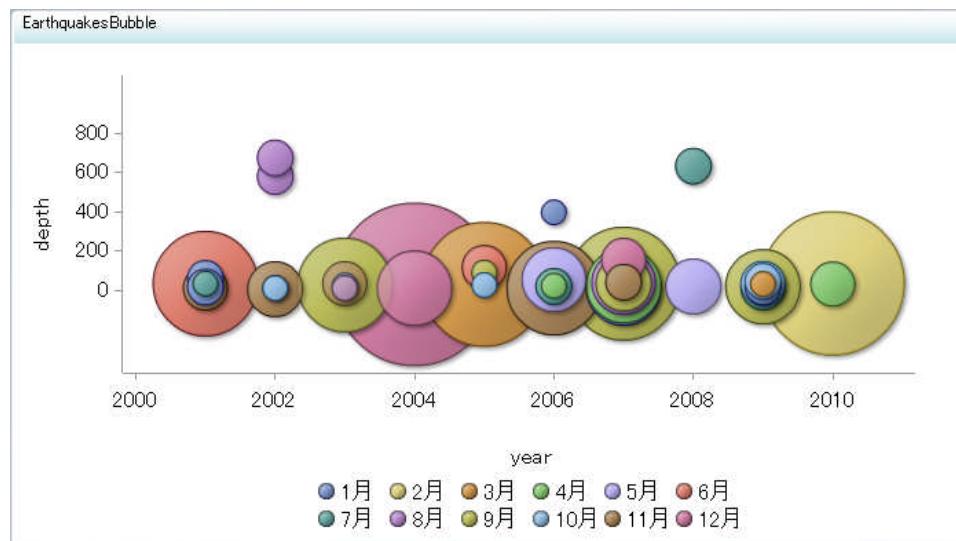
1. 各データ系列の平均間隔にデータポイントが表示されます。
2. 集計される間隔のインデックスが平均され、表示する間隔と棒の色が決定されます。

次に、参照線付き棒グラフの表示を使用する際のガイドラインを示します。

- ・ 参照線付き棒グラフは、グラフに平均間隔を表示するには、最も使用が簡単な方法です。
- ・ 各データ系列のツールチップは、表示された値が平均間隔であることを示します。
- ・ 参照線付き棒グラフ表示で集計しないようにするには、インジケータデータレベルでデータを集計します。

## バブルプロットの表示

次に、バブルプロットの表示例を示します。

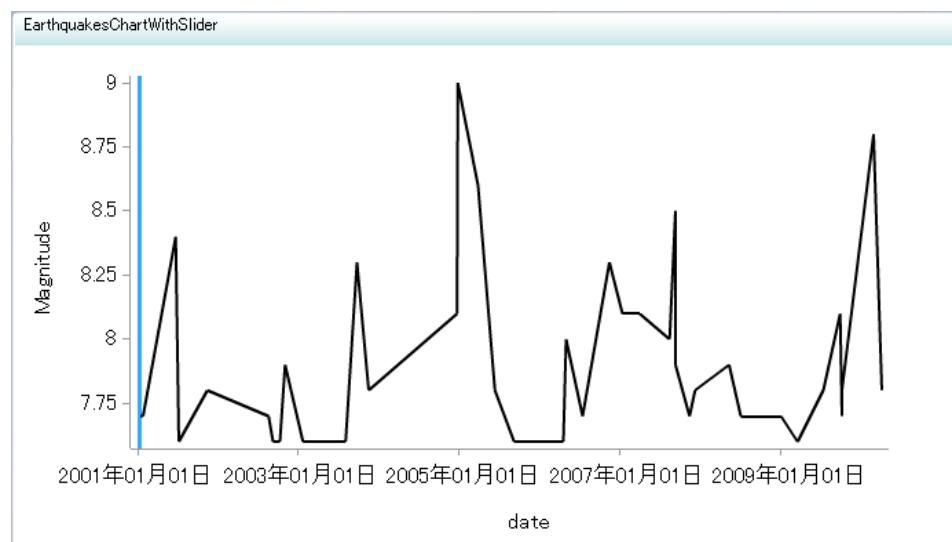


次に、この表示を作成したプロパティを示します。

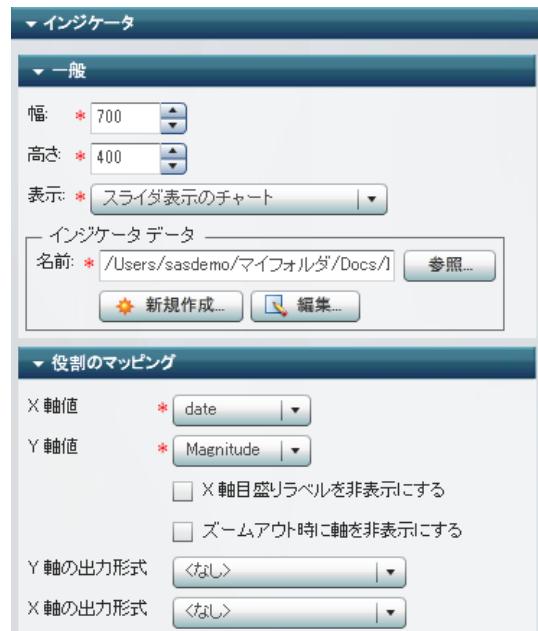


## スライダ表示のチャートの表示

次に、スライダ表示のチャートの表示例を示します。

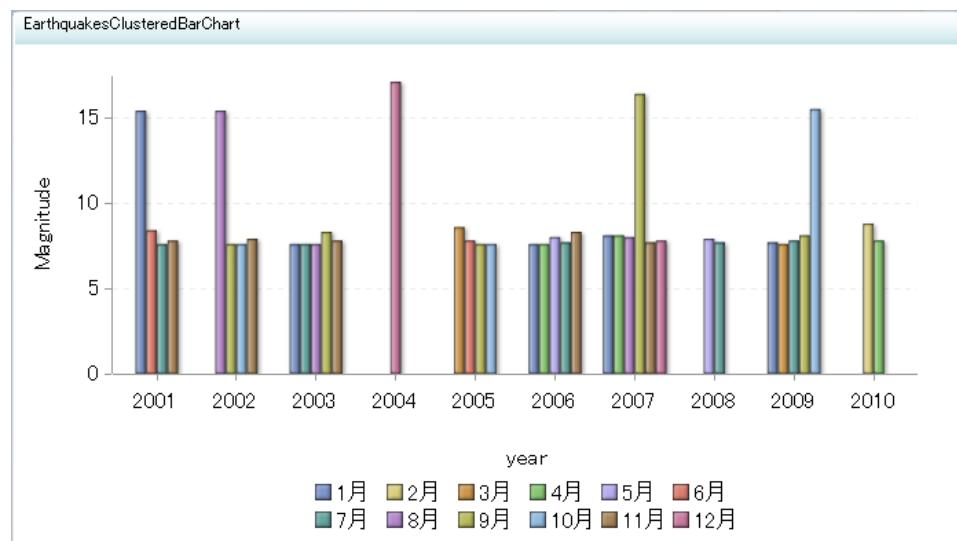


次に、この表示を作成したプロパティを示します。



## 集合棒グラフの表示

次に、集合棒グラフの表示例を示します。



次に、この表示を作成したプロパティを示します。



## カスタムグラフの表示

### 概要

カスタムグラフの表示では、さまざまなソースの情報が示されます。表示形式はイメージです。グラフ表示の出力は、外部 URL で指定します。

URL 内にイメージを指定する場合、プロキシの使用を選択できます。

- プロキシの使用を選択しない場合、イメージファイルは、SAS BI Dashboard サーバーと同じネットワークドメインにある必要があります。

*注:* Adobe Flash では、Web サーバーのルートにクロスドメインポリシーファイルを作成して、他のドメインからイメージをロードできます。詳細については、Adobe Web サイトで、“cross-domain policy file specification”(クロスドメインポリシーファイルの仕様)を検索してください。

- プロキシの使用を選択する場合、イメージファイルは SAS 中間層にアクセスできる必要があります。URL にアクセスできる適切なユーザー認証が SAS 中間層にあることを確認してください。

詳細については、“[プロキシの使用](#)”(124 ページ)を参照してください。

次に、カスタムグラフの表示例を示します。



次に、この表示を作成したプロパティを示します。

▼ インジケータ

▼ 一般

- 幅: \* 400
- 高さ: \* 300
- 表示: \* カスタム グラフ
- ゲージ: \* ダイナミック ビュレット バー
- ゲージスタイル: \* サテン

— インジケータデータ —

- 名前: /Users/sasdemo/マイフォルダ/Docs/
- 
- 
- 

範囲

- 名前: \* c:/Earthquake Magnitude.rdx
- 
- 
- 

— 並べ替え設定 —

- 並べ替え基準: <なし>
- 並べ替え順序: 昇順

▼ 役割のマッピング

- 範囲 値: \* Magnitude
- KPI タイトル: date
- イメージ URL: ./images/Penguins.jpg
- プロキシの使用

#### Stored Process

カスタムグラフの表示に Stored Process を使用して、SAS BI Dashboard で生成できないグラフ表示を生成できます。Stored Process を使用するには、ダッシュボードへの挿入に適した Stored Process を作成してから、Stored Process 出力を表示する URL を取得する必要があります。

Stored Process を作成するには、次のガイドラインを使用します。

- Stored Process の出力は、ストリーミングに設定してください。
- 出力は 300 X 300 ピクセル以下の小さいサイズにしてください。

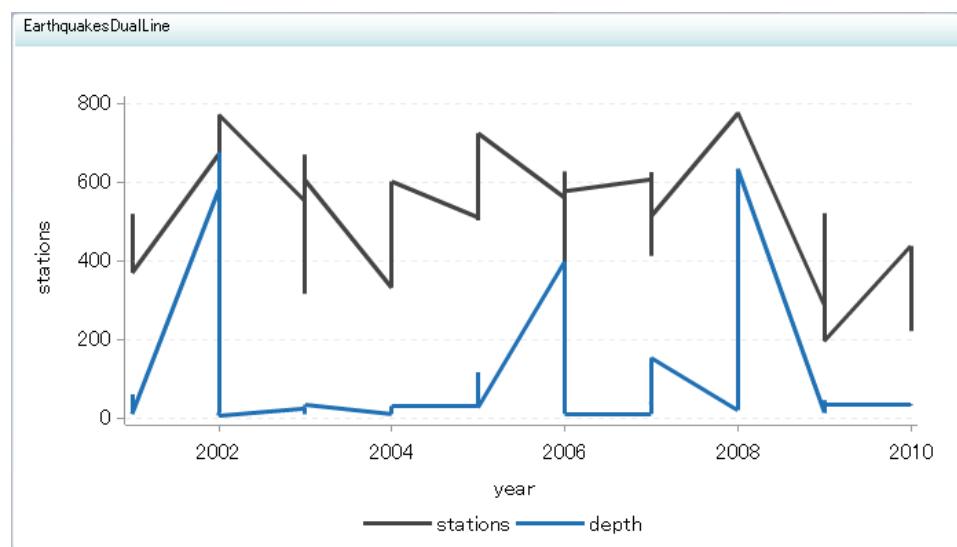
ダッシュボードユーザーが異なるメトリックを概観できるように、ダッシュボード内にスペースを確保することが重要です。ウィンドウ領域のほとんどを使用して Stored Process でグラフを表示すると見やすくなりますが、ダッシュボードに他の情報が表示できなくなります。小さいスペースでデータを操作できず、ユーザーが同じダッシュボードで他のデータを確認する必要がある場合、集計を使用するなど、Stored Process で表示するデータ量を減らす別の方法を検討してください。タイトルとフトノートを非表示にし、最小の出力テンプレートを使用するように、SAS Enterprise Guide で Stored Process を変更することを検討してください。

Stored Process の URL を決定するには、Stored Process Web を使用します。

URL からターゲットが Stored Process 要求であることがプロキシサーバーで検出されるように、プロキシの使用を選択します。プロキシサーバーにより、現在のユーザーの認証が中間層に追加されます。

## 折れ線グラフ(2本線)の表示

次に、折れ線グラフ(2本線)の表示例を示します。



次に、この表示を作成したプロパティを示します。

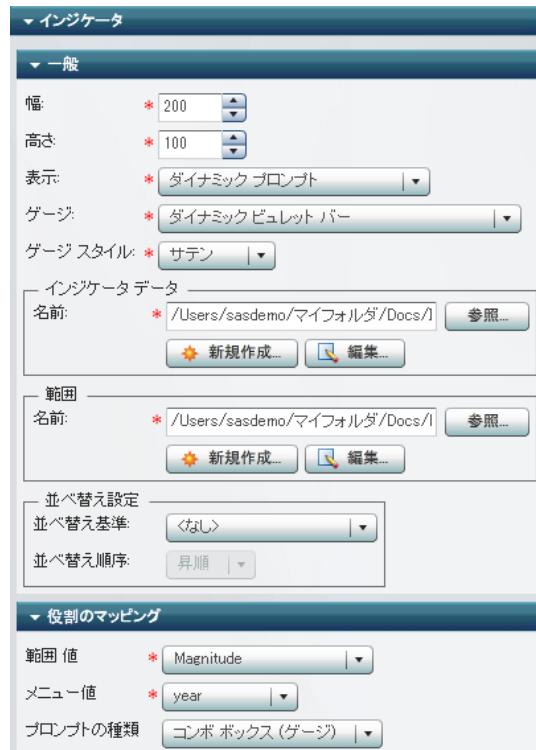


## ダイナミックプロンプトの表示

次に、ダイナミックプロンプトの表示例を示します。



次に、この表示を作成したプロパティを示します。

**注意:**

各メニュー値は重複しないようにします。メニュー値が重複すると、予期しない動作を引き起こします。

プロンプトの種類にコンボ ボックス (ゲージ)を選択した場合、範囲を選択する必要があります。プロンプトの種類にコンボ ボックスを選択した場合、範囲を選択できません。

### ダイナミックテキストの表示

次に、ダイナミックテキストの表示例を示します。



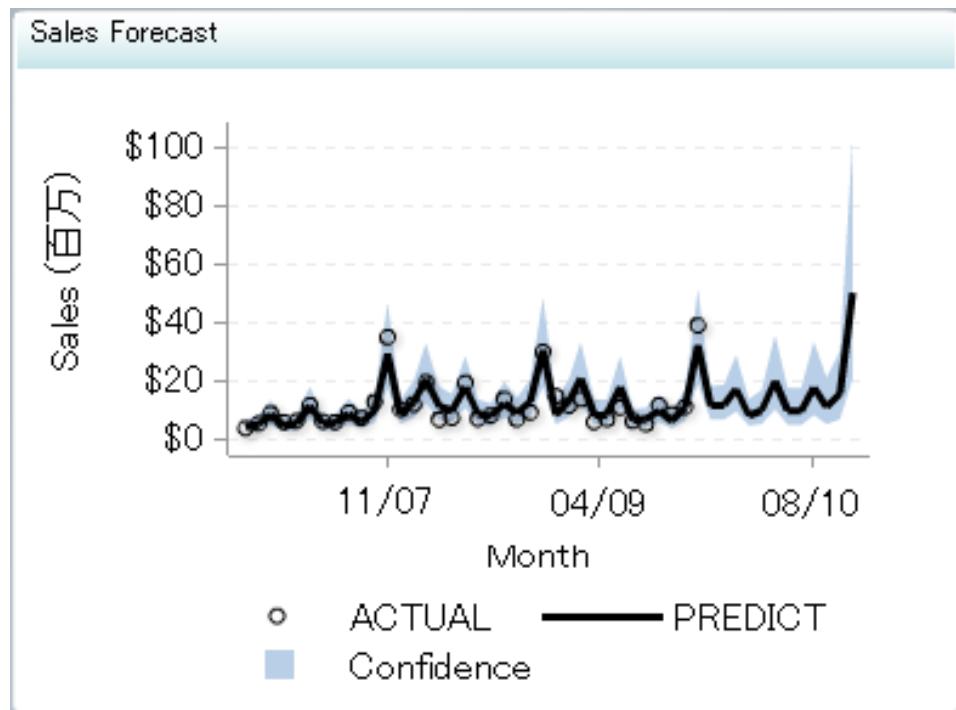
次に、この表示を作成したプロパティを示します。



ダイナミックテキストの表示では、範囲はオプションです。範囲を選択した場合、範囲値のテキストの色は、範囲の間隔の色に基づいて表示されます。

## 予測グラフの表示

次に、予測グラフの表示例を示します。



次に、この表示を作成したプロパティを示します。



## 対話型の表示

### 概要

対話型の表示により、ダッシュボードユーザーは、要約グラフ内を移動して、対話形式で大量の詳細データを移動できます。次の 2 つの方法を使用して、簡単に詳細データを比較できます。1 番目の方法では、表示の定義時に、データをグループ化する基準列を選択します。2 番目の方法では、ユーザーは、表示の確認時に比較する別の詳細スタイルを選択します。

次の対話型の表示があります。

- ・ 対話型要約と棒グラフの表示
- ・ 対話型要約と散布図の表示
- ・ 対話型要約とターゲット棒グラフの表示

対話型表示の設定は、参照線付き棒グラフ表示の設定とほとんど同じです。ただし、対話型の表示の方がオプションが多く、参照線付き棒グラフの表示より高度な方法でデータを使用します。

対話型の表示を使用して最適な結果を得るには、インジケータデータが次の要件を満たす必要があります。

- ・ インジケータデータは、参照線付き棒グラフに適している必要があります。

單一行を返し、KPI の表示に適しているインジケータデータは、対話型の表示には適していません。

- インジケータデータには、データの要約に使用されるカーディナリティが低いグループ化列が 1 つ含まれる必要があります。
  - カーディナリティが低いグループ化列とは、グループ化する一意の値が少ない列です。
  - (オプション)対話型の表示でビジネスユーザーへの予測データの表示を有効化するには、インジケータデータに予測値、下側信頼区間の値、上側信頼区間の値の列が含まれる必要があります。
  - 対話型棒グラフの表示では、詳細グラフに表示される詳細データまたはデータの別のフィールドを要約できます。
- インジケータレベルでは、対話型の表示の設定は、対話型の表示でデータを使用する方が高機能である点を除いて、基本的に他の参照線付き棒グラフと同じです。唯一の大きな差は、対話型の表示が依存範囲の概念をサポートしている点です。依存範囲では、範囲定義の別の範囲の値を取得します。このスキームでは、SAS BI Dashboard と対話型の表示には、SAS Forecast Server により生成されるデータセットが、複雑な中間データ変換の必要がないため有用です。

### 対話型要約と棒グラフの表示

次に、対話型要約と棒グラフの表示例を示します。

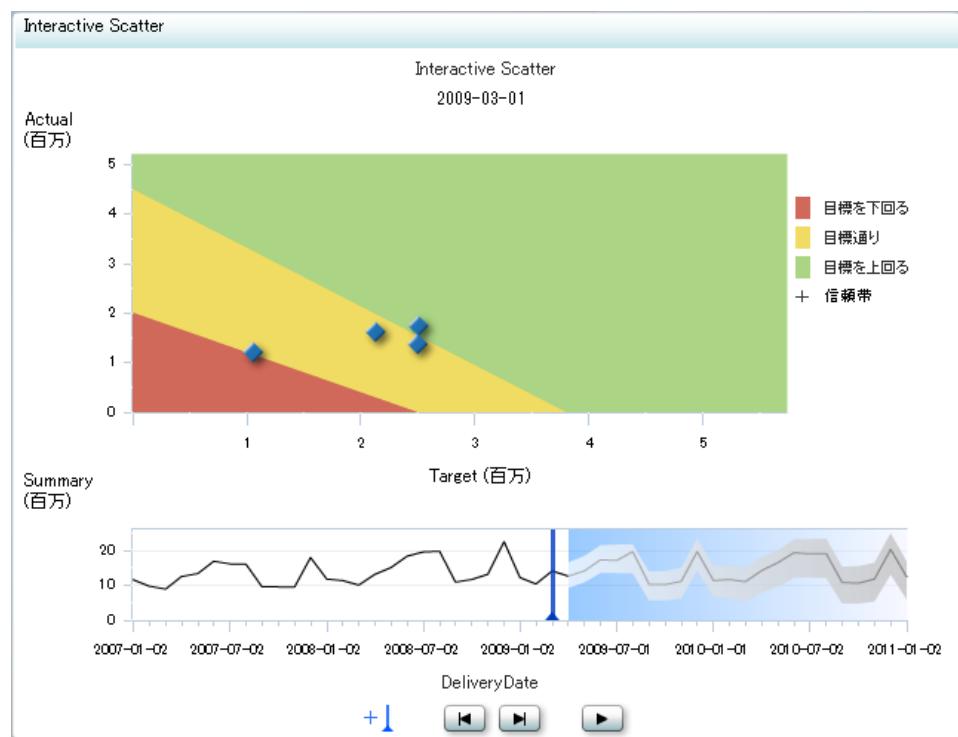


次に、この表示を作成したプロパティを示します。



### 対話型要約と散布図の表示

次に、対話型要約と散布図の表示例を示します。

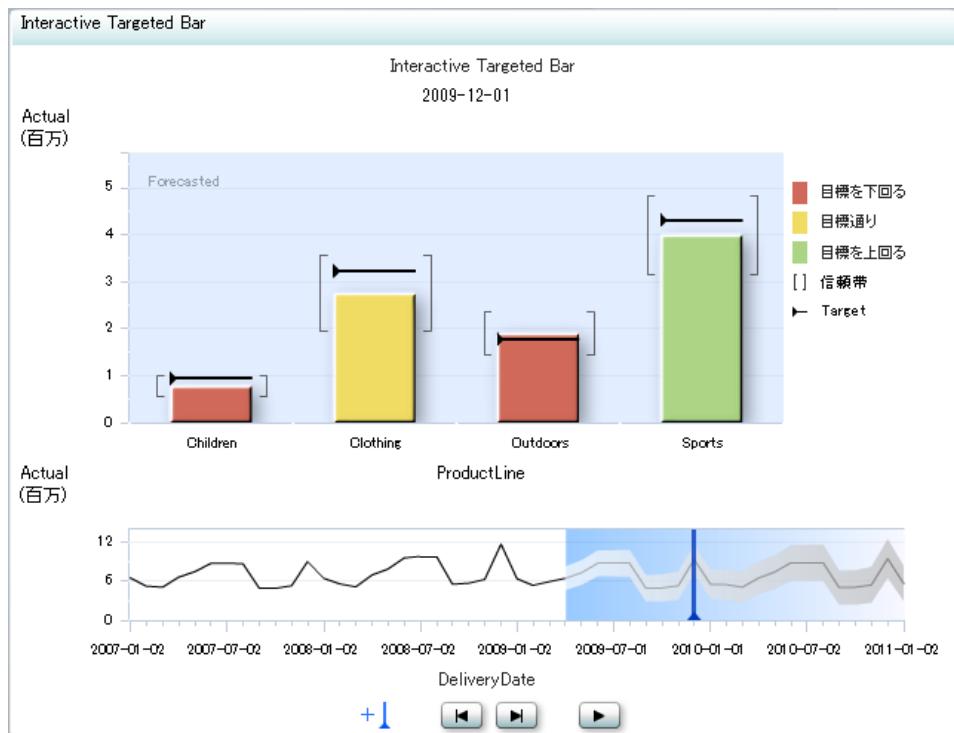


次に、この表示を作成したプロパティを示します。



### 対話型要約とターゲット棒グラフの表示

次に、対話型要約とターゲット棒グラフの表示例を示します。



次に、この表示を作成したプロパティを示します。

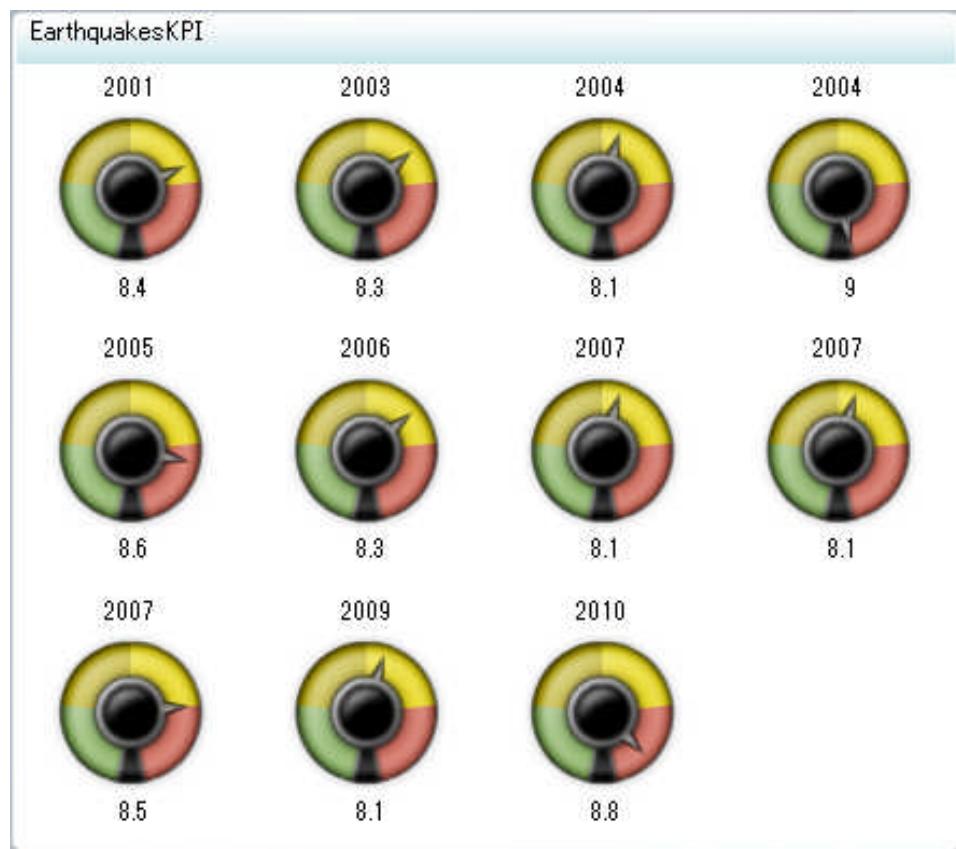


## KPI の表示

### 概要

KPI の表示には、単一 KPI または複数 KPI が示されます。単一 KPI の表示には、单一データ値に関連付けられた KPI が示されます。

次に、KPI の表示例を示します。



次に、この表示を作成したプロパティを示します。

▼ インジケータ

▼ 一般

幅: \* 450

高さ: \* 400

表示: \* KPI

ゲージ: \* ダイナミック スピードメータ

ゲージスタイル: \* サテン

— インジケータデータ —

名前: \* /Users/sasdemo/マイフォルダ/Docs/I [参照...]

範囲

名前: \* /Users/sasdemo/マイフォルダ/Docs/I [参照...]

— 並べ替え設定 —

並べ替え基準: <なし>  
 並べ替え順序: 昇順

▼ 役割のマッピング

範囲 値: \* Magnitude

KPI タイトル: <なし>

タイトルの行数: 1

ズームアウト時にタイトルを非表示

ズームアウト時に値を非表示

複数 KPI の表示には、スコープに含まれる各データポイントの KPI が示されます。最適な結果を得るには、单一インジケータ構成ですべての値の表示が制御されるように、インジケータデータの単一セットを使用して、関連 KPI を集計します。

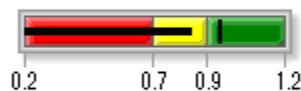
#### ダイナミックゲージ

ソフトウェアに表示される固定ゲージに加えて、ダイナミックゲージを選択できます。ダイナミックゲージは、ゲージの種類とゲージのデータ値に基づいて描画されます。

次に、ダイナミックゲージの例を示します。

- ・ ダイナミックビュレットバー(横と縦)

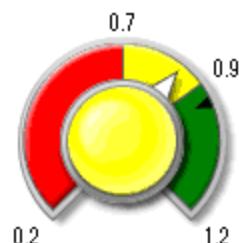
Canada



84%

- ・ ダイナミックダイアル

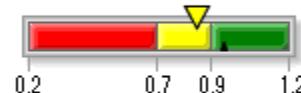
Canada



84%

- ・ ダイナミックスライダ(横と縦)

Canada

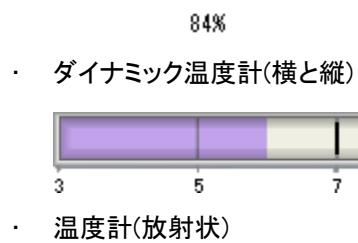


84%

- ・ ダイナミックスピードメータ



- ・ ダイナミックストップライト(横と縦)

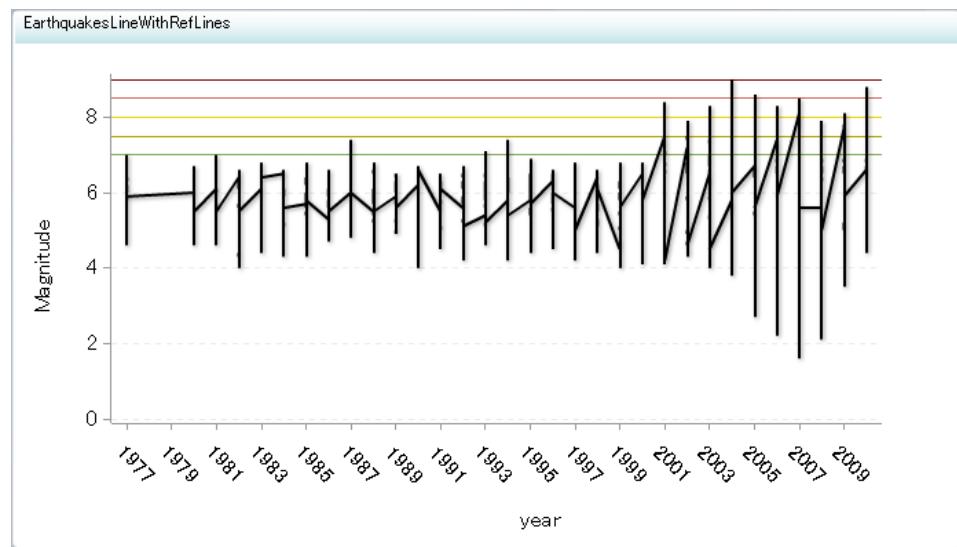


- ・ 温度計(放射状)



### 参照線付き折れ線グラフの表示

次に、参照線付き折れ線グラフの表示例を示します。



次に、この表示を作成したプロパティを示します。

▼ インジケータ

一般

- 幅: \* 700
- 高さ: \* 400
- 表示: \* 参照線付き折れ線グラフ

インジケータデータ

- 名前: \* /Users/sasdemo/マイフォルダ/Docs/I [参照...]
- [新規作成...] [編集...]

範囲

- 名前: \* /Users/sasdemo/マイフォルダ/Docs/I [参照...]
- [新規作成...] [編集...]

並べ替え設定

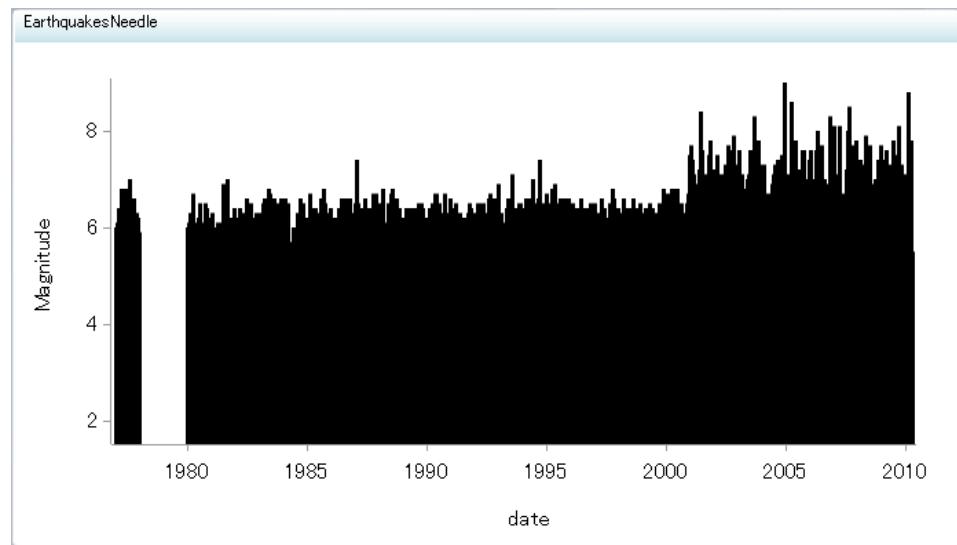
- 並べ替え基準: <なし>
- 並べ替え順序: 昇順

役割のマッピング

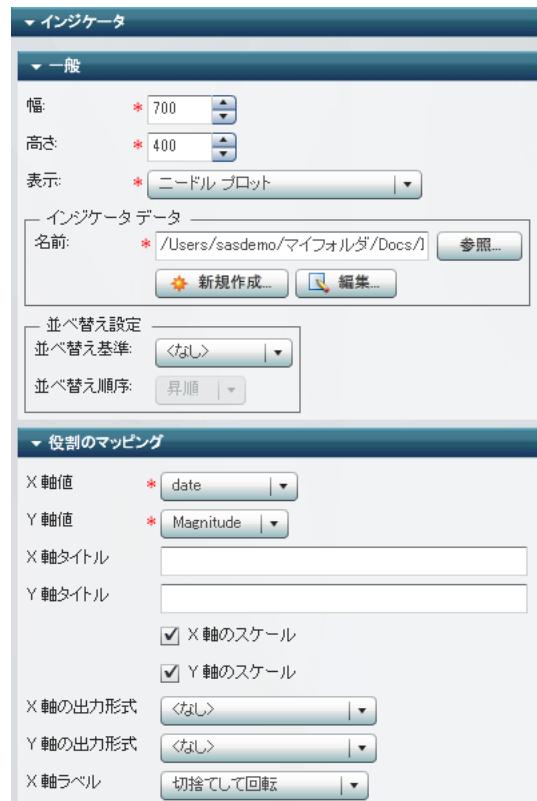
- X 軸値: \* year
- 第 1 の値: \* Magnitude
- 第 2 の値: <なし>
- X 軸タイトル:
- Y 軸タイトル:
- X 軸のスケール
- Y 軸のスケール
- X 軸目盛りラベルを非表示にする
- ズームアウト時に軸を非表示にする
- 参照線の非表示
- 行グループ化: <なし>
- 列グループ化: <なし>
- Y 軸の出力形式: <なし>
- X 軸の出力形式: <なし>
- X 軸ラベル: 切捨てて回転

## ニードルプロットの表示

次に、ニードルプロットの表示例を示します。

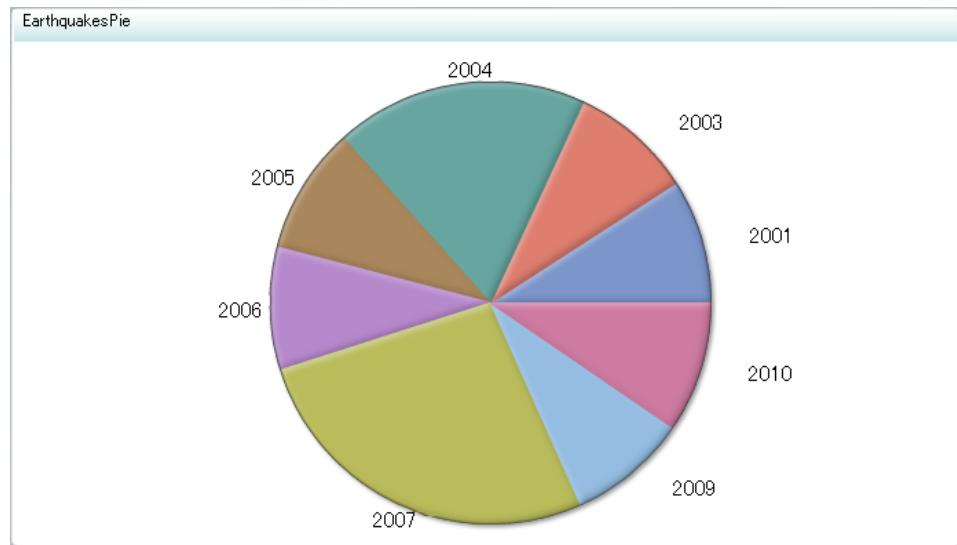


次に、この表示を作成したプロパティを示します。

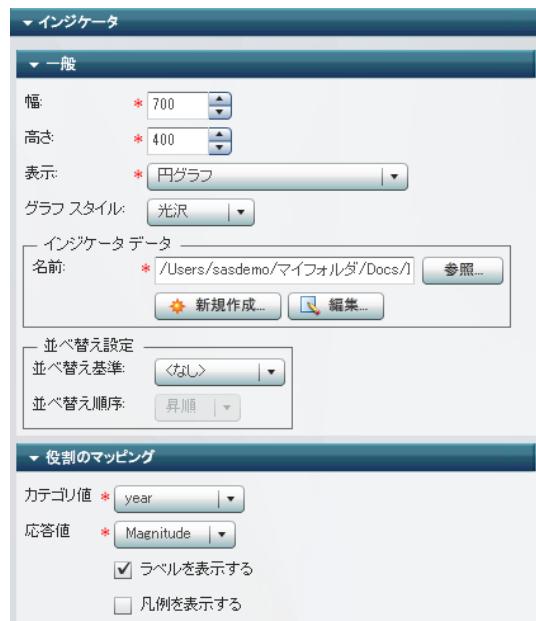


## 円グラフの表示

次に、円グラフの表示例を示します。



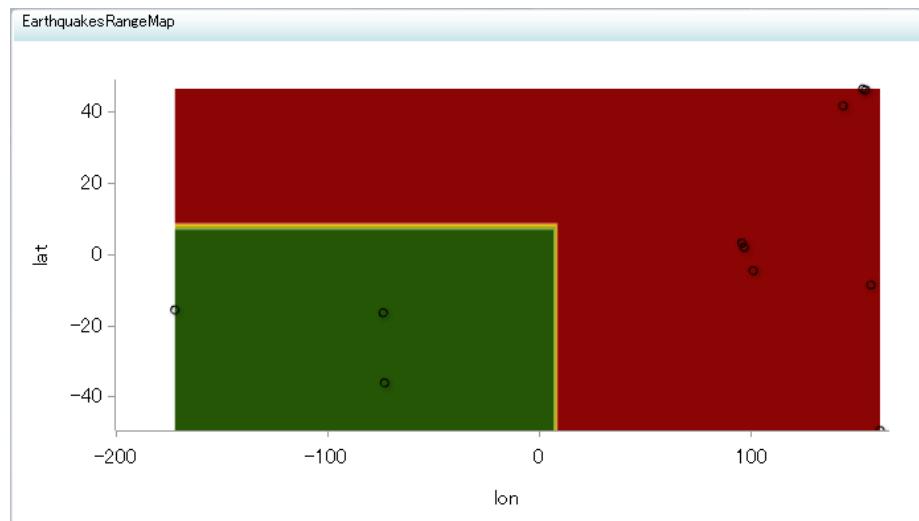
次に、この表示を作成したプロパティを示します。



### Range Map の表示

Range Map の表示には、範囲定義に基づいて色付けされた背景上に結果がプロットされたグラフが示されます。

次に、Range Map の表示例を示します。

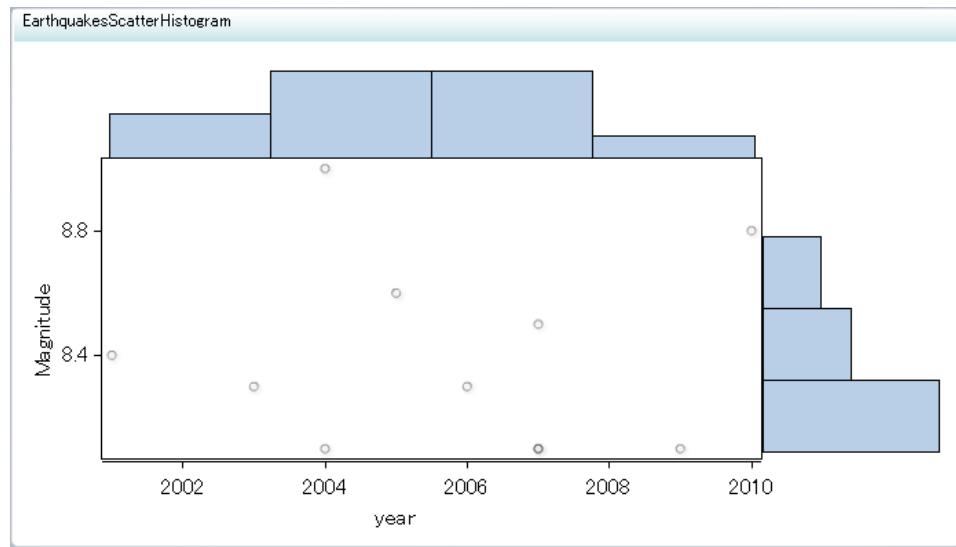


次に、この表示を作成したプロパティを示します。



## 散布ヒストグラムの表示

次に、散布ヒストグラムの表示例を示します。

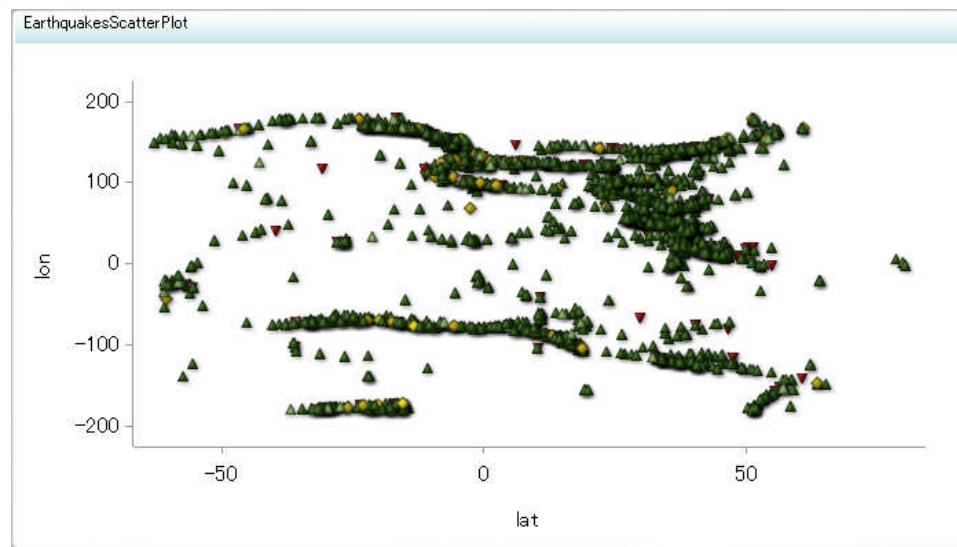


次に、この表示を作成したプロパティを示します。



## 散布図の表示

次に、散布図の表示例を示します。

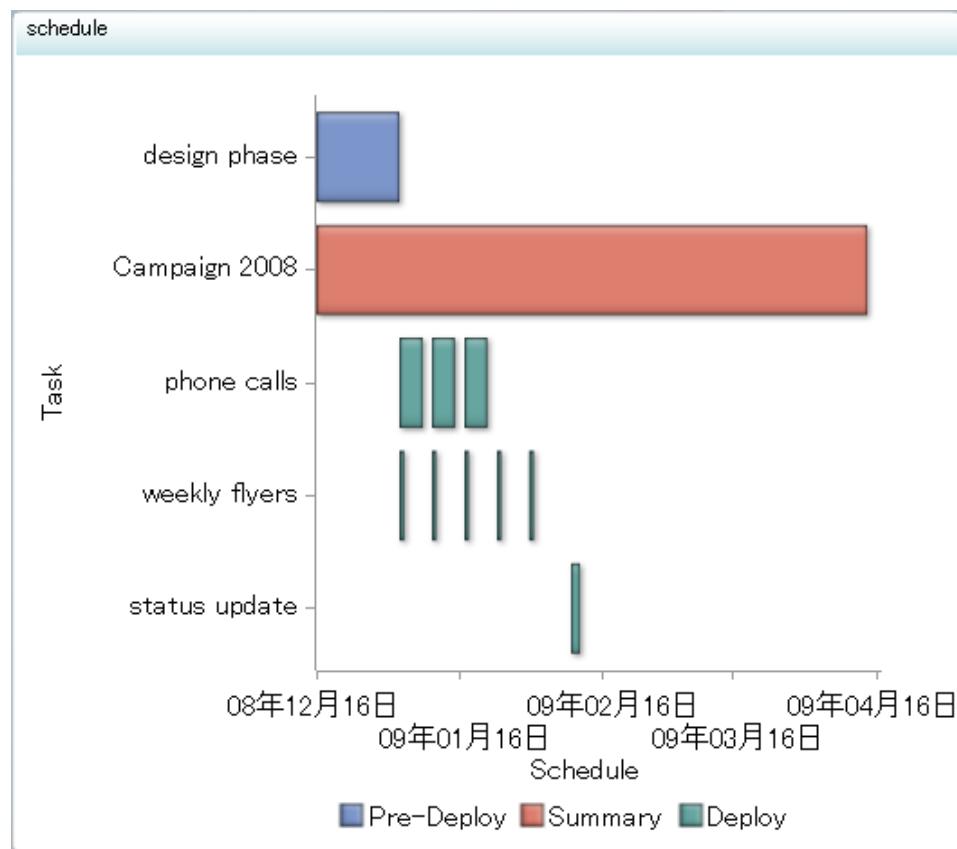


次に、この表示を作成したプロパティを示します。



## スケジュールチャートの表示

次に、スケジュールチャートの表示例を示します。

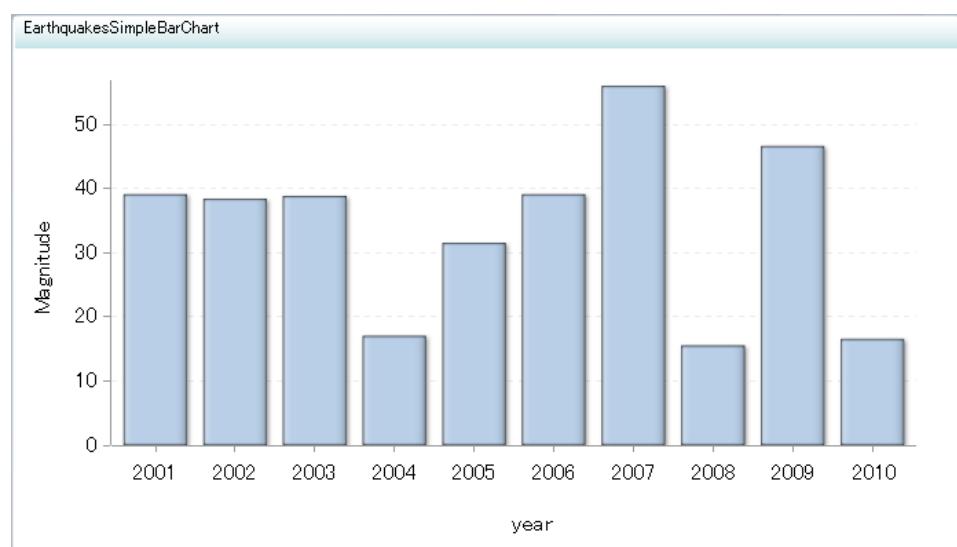


次に、この表示を作成したプロパティを示します。



## 棒グラフの表示

次に、棒グラフの表示例を示します。



次に、この表示を作成したプロパティを示します。



## スパークテーブルの表示

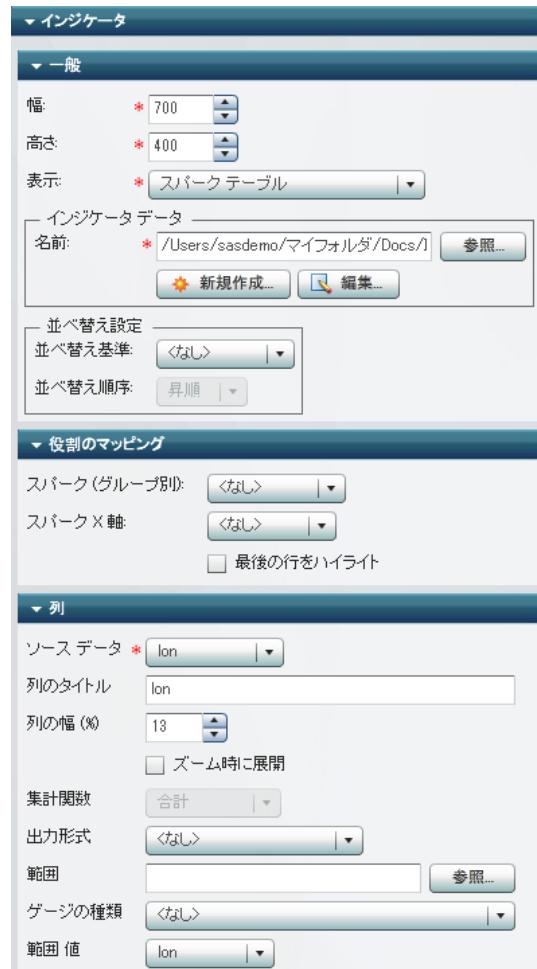
スパークテーブルの表示には、データポイントがテーブル形式で示され、各テーブル行にゲージが表示されます。テーブル列ヘッダーは、データフィールドの名前です。

インジケータデータから非数値データ列をすべて削除することをお勧めします。

次に、スパークテーブルの表示例を示します。

EarthquakesSpark						
date	lat	lon	depth	stations	comments	Magnitude
2001年01月13日	13.04	-88.66	60	427	EL SALVADOR. MW7.	7.7
2001年01月26日	23.41	70.23	16	472	SOUTHERN INDIA. MV	7.7
2001年06月23日	-16.26	-73.64	33	518	NEAR COAST OF PER	8.4
2001年07月07日	-17.54	-72.07	33	398	NEAR COAST OF PER	7.6
2001年11月14日	35.94	90.54	10	368	QINGHAI	7.8
2002年08月19日	-21.69	-179.51	580	670	FIJI REGION. MW 7.7 (	7.7
2002年08月19日	-23.88	178.49	675	302	SOUTH OF THE FIJI IS	7.7
2002年09月08日	-3.3	142.94	13	428	NEAR NORTH COAST	7.6
2002年10月10日	-1.75	134.29	10	375	NEAR THE NORTH CO	7.6
2002年11月03日	63.51	-147.44	5	771	CENTRAL ALASKA. &I	7.9
2003年01月22日	18.77	-104.1	24	551	OFFSHORE COLIMA	7.6
2003年07月15日	-2.59	68.38	10	522	CARLSBERG RIDGE.	7.6
2003年08月04日	-60.53	-43.41	10	315	SCOTIA SEA. MW 7.6 (	7.6
2003年09月25日	41.81	143.91	27	669	HOKKAIDO	8.3

次に、この表示を作成したプロパティを示します。

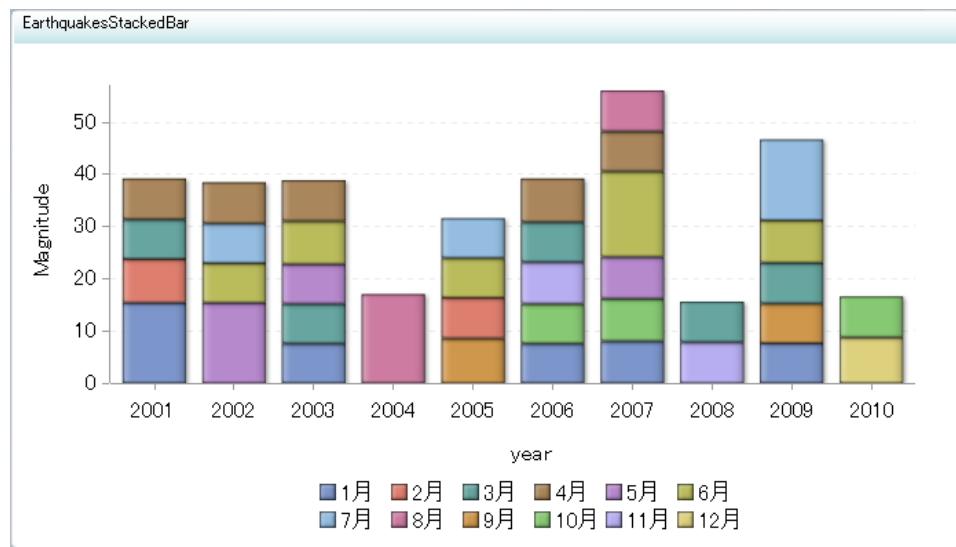


注: 列プロパティを表示するには、データテーブルの列を選択します。

SAS BI Dashboard を以前使用していた場合、スパークテーブルが、KPI テーブルの表示とグラフと傾向の表示に代わって表示されます。

## 積み上げ棒グラフの表示

次に、積み上げ棒グラフの表示例を示します。



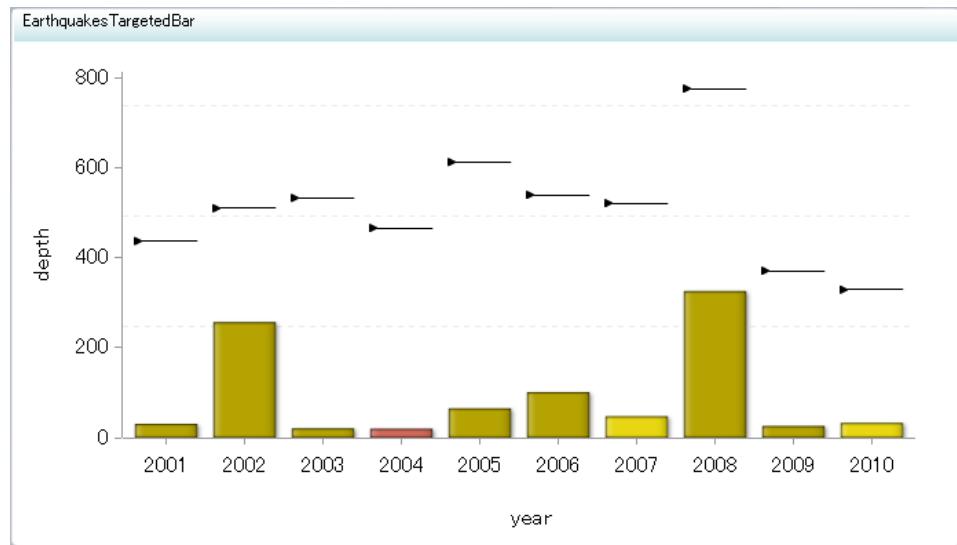
次に、この表示を作成したプロパティを示します。

The screenshot shows the configuration dialog for an indicator, specifically for a stacked bar chart. The properties are organized into sections:

- 一般 (General):**
  - 幅 (Width): 700
  - 高さ (Height): 400
  - 表示 (Display): 積み上げ棒グラフ (Stacked Bar Chart)
  - グラフスタイル (Graph Style): 光沢 (Glossy)
- インジケータデータ (Indicator Data):**
  - 名前 (Name): /Users/sasdemo/マイフォルダ/Docs/1 (with '参照...' button)
  - 新規作成... (New...) and 編集... (Edit...) buttons
- 並べ替え設定 (Sorting Settings):**
  - 並べ替え基準 (Sort Basis): <なし> (None)
  - 並べ替え順序 (Sort Order): 升順 (Ascending)
- 役割のマッピング (Role Mapping):**
  - X軸値 (X-axis Value): year
  - 積み上げグループ (Stacked Group): month
  - Y軸値 (Y-axis Value): Magnitude
  - X軸タイトル (X-axis Title):
  - Y軸タイトル (Y-axis Title):
  - X軸のスケール (X-axis Scale)
  - Y軸のスケール (Y-axis Scale)
  - X軸の出力形式 (X-axis Output Format): <なし>
  - Y軸の出力形式 (Y-axis Output Format): <なし>
  - X軸ラベル (X-axis Label): 切捨てして回転 (Truncate and Rotate)

## ターゲット棒グラフの表示

次に、ターゲット棒グラフの表示例を示します。



次に、この表示を作成したプロパティを示します。

▼ インジケータ

▼ 一般

- 幅: \* 700
- 高さ: \* 400
- 表示: \* ターゲット棒グラフ
- グラフスタイル: 光沢

— インジケータデータ —

- 名前: \* /Users/sasdemo/マイフォルダ/Docs/I
- 新規作成... [ ]
- 編集... [ ]

— 範囲 —

- 名前: \* /Users/sasdemo/マイフォルダ/Docs/I
- 新規作成... [ ]
- 編集... [ ]

— 並べ替え設定 —

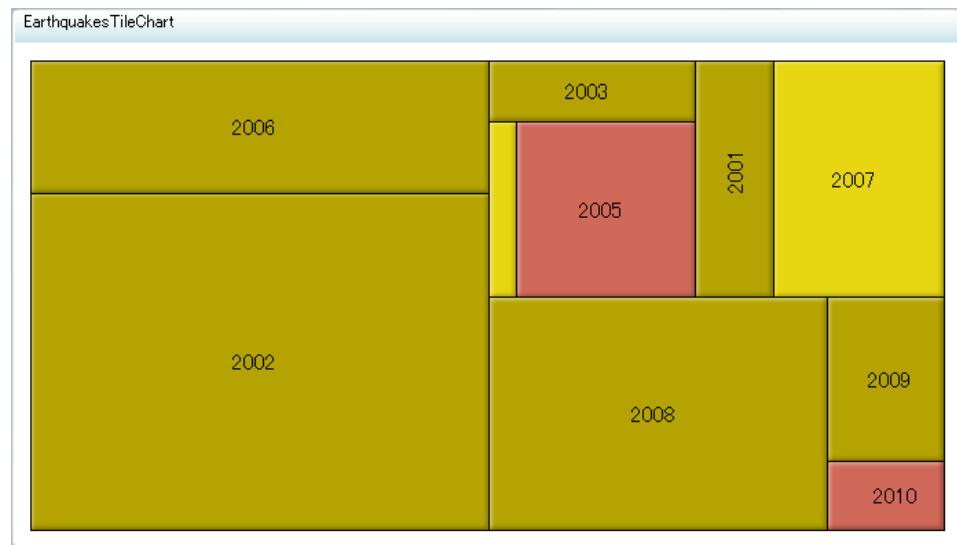
- 並べ替え基準: <なし>
- 並べ替え順序: 升順

▼ 役割のマッピング

- 範囲 値: \* Magnitude
- X 軸値: \* year
- 棒の値: \* depth
- ターゲットの値: stations
- X 軸タイトル:
- Y 軸タイトル:
- X 軸のスケール
- Y 軸のスケール
- X 軸目盛りラベルを非表示にする
- ズームアウト時に軸を非表示にする
- 行グループ化: <なし>
- 列グループ化: <なし>
- Y 軸の出力形式: <なし>
- X 軸の出力形式: <なし>
- X 軸ラベル: 切捨てて回転

## タイルチャートの表示

次に、タイルチャートの表示例を示します。

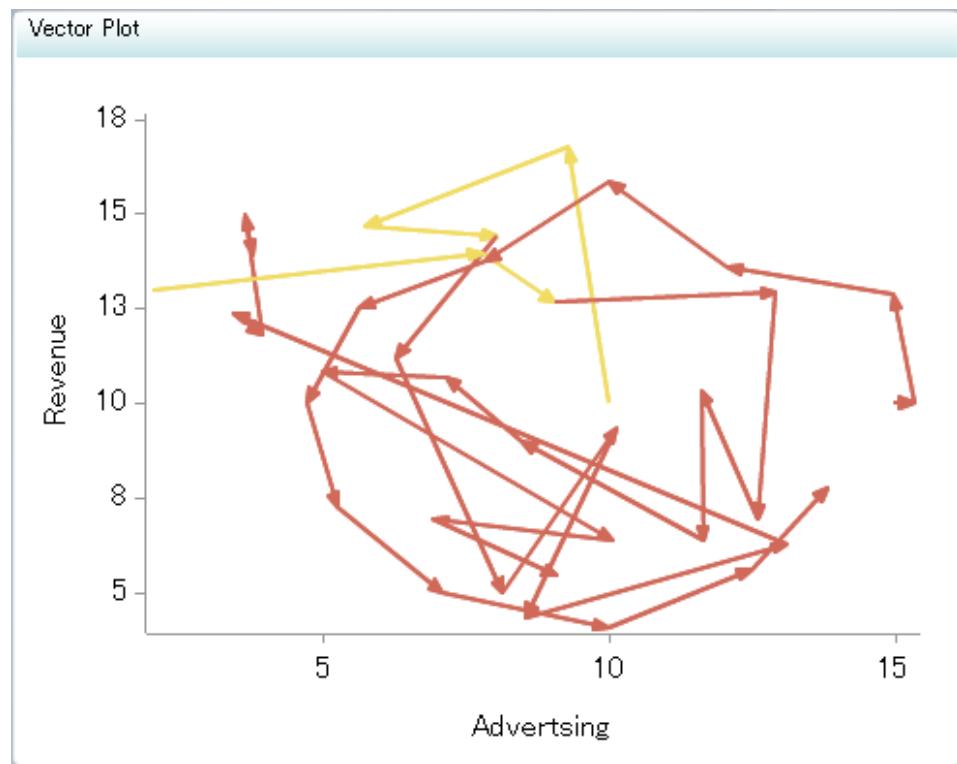


次に、この表示を作成したプロパティを示します。



## ベクトルプロットの表示

次に、ベクトルプロットの表示例を示します。

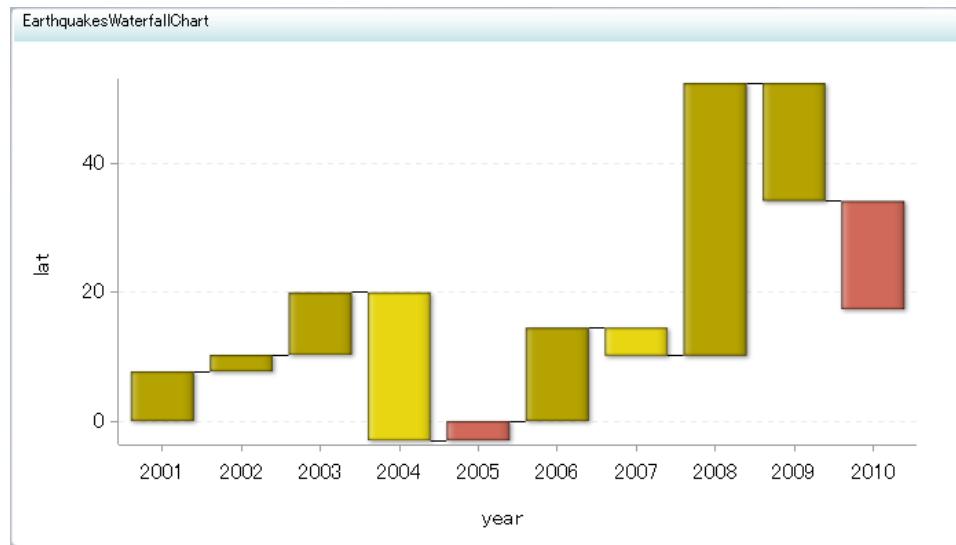


次に、この表示を作成したプロパティを示します。



## ウォーターフォールチャートの表示

次に、ウォーターフォールチャートの表示例を示します。



次に、この表示を作成したプロパティを示します。

▼ インジケータ

▼ 一般

- 幅: \* 700
- 高さ: \* 400
- 表示: \* ウォーターフォール チャート | ▾
- グラフスタイル: 光沢

— インジケータデータ

- 名前: \* /Users/sasdemo/マイフォルダ/Docs/I | 参照...
- 新規作成... | 編集...

— 開拓

- 名前: \* /Users/sasdemo/マイフォルダ/Docs/I | 参照...
- 新規作成... | 編集...

— 並べ替え設定

- 並べ替え基準: <なし> | ▾
- 並べ替え順序: 升順 | ▾

▼ 役割のマッピング

- 範囲 値: \* Magnitude | ▾
- X 軸値: \* year | ▾
- 差異: \* lat | ▾
- X 軸タイトル:
- Y 軸タイトル:
- X 軸のスケール
- Y 軸のスケール
- X 軸目盛りラベルを非表示にする
- ズームアウト時に軸を非表示にする
- 行グループ化: <なし> | ▾
- 列グループ化: <なし> | ▾
- 軸の出力形式(差異): <なし> | ▾
- X 軸の出力形式: <なし> | ▾
- X 軸ラベル: 切捨てて回転 | ▾

## インジケータのゲージの選択

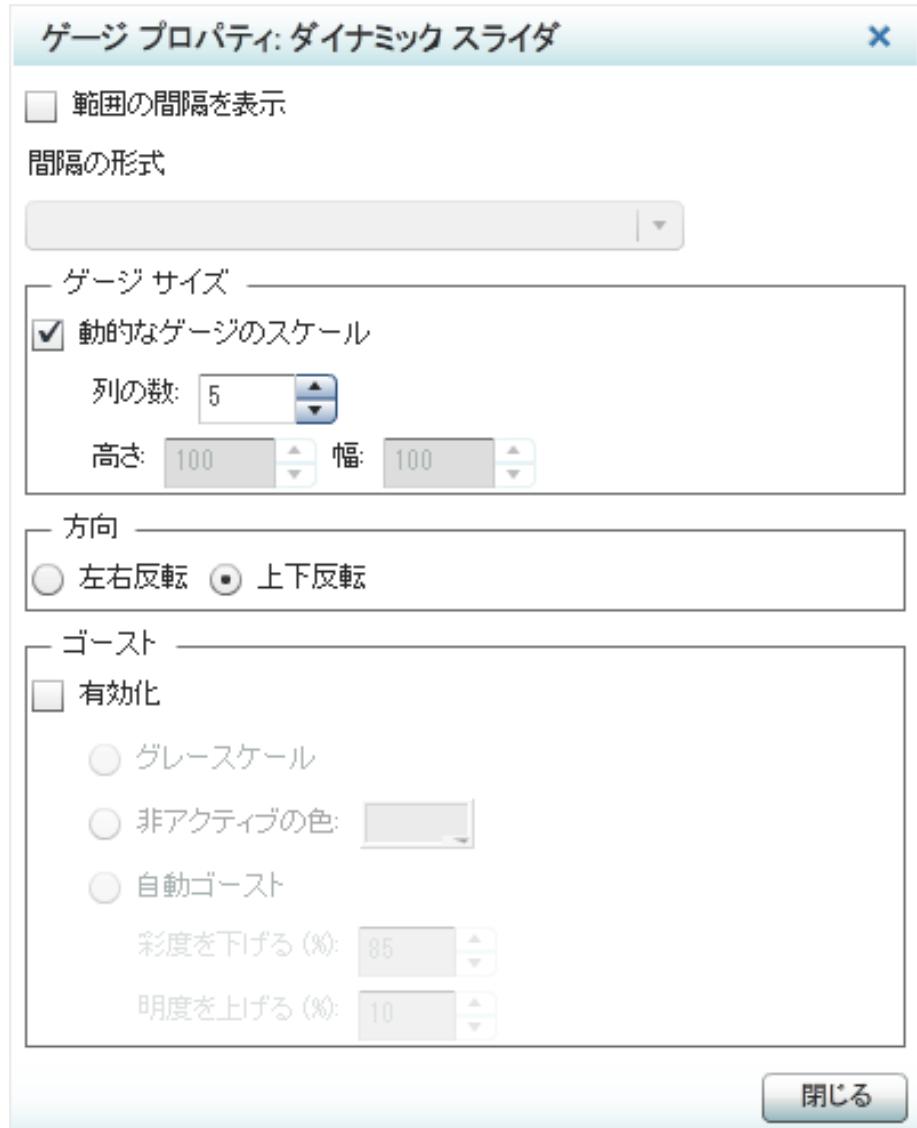
インジケータを作成または編集する際、インジケータのゲージを選択します。詳細については、“[インジケータの作成または編集](#)”(54 ページ)を参照してください。

**注:** ゲージは、特定の種類の表示にのみ使用できます。

インジケータのゲージを選択するには、次のステップを実行します。

1. ゲージと、選択可能な場合はゲージスタイルを選択します。
  2. ダイナミックゲージを選択した場合は、次のステップを実行します。
- a. プロパティペイン上部のをクリックします。

ゲージプロパティダイアログボックスが表示されます。



- b. ゲージに範囲の間隔(目盛)を表示するには、**範囲の間隔を表示**を選択し、**範囲の間隔の出力形式**ドロップダウンリストから出力形式を選択します。
- c. ゲージの寸法を指定するには、**ゲージ サイズ**領域で、次のいずれかの操作を行います。

- 動的なゲージのスケールチェックボックスを選択して、列数を指定します。
  - 動的なゲージのスケールチェックボックスをクリアして、高さと幅の値を入力します。
- d. ゲージの向きとして、**左右反転**(垂直軸中心)または**上下反転**(水平軸中心)を選択します。
- e. イメージの色を変更してゴースト効果を適用するには、**有効化**と方法を選択します。

次の方法を選択できます。

#### グレースケール

選択された間隔を、他の間隔よりも濃いグレーで表示します。

#### 非アクティブの色

ポイントされていないエリアを特定の色で表示します。色を選択するには、をクリックします。

#### 自動ゴースト

各間隔の最適なゴースト色が自動決定されます。

イメージの彩度をグレー(無彩色)からどの程度変化させるのかを制限するには、**彩度を下げる (%)**フィールドに値を入力します。

イメージを明るくするには、**明度を上げる (%)**フィールドに値を入力します。

# 10 章

## ダッシュボード

---

<b>概要</b>	<b>99</b>
<b>ダッシュボードレイアウト</b>	<b>100</b>
<b>インジケータ動作</b>	<b>100</b>
概要	100
例	101
パラメータのマッピング	103
ブラシ動作	104
クライアント側のフィルタ	104
サーバー側のフィルタ	104
フィルタの連結	106
ズーム	106
ダッシュボードの作成または編集	106
<b>ダッシュボードコンテンツの管理</b>	<b>108</b>
概要	108
コンテンツの追加	108
オブジェクトの配置とサイズ変更	109
コンテンツの表示の変更	109
<b>インジケータ動作の設定</b>	<b>109</b>
<b>コンテナを使用するダッシュボードのデザインの制御</b>	<b>110</b>
寸法と折り返し	110
フォント	112

---

### 概要

ダッシュボードは、1つ以上のインジケータと、ダッシュボードを拡張するラベルとイメージが含まれるコンテナです。ダッシュボードは、SAS Information Delivery Portal 内のページのポートレットまたはダッシュボードビューアに表示できます。詳細については、“[ワークフロー](#)”(5 ページ)を参照してください。

次のオブジェクトを組み合わせて、ダッシュボードを作成します。

- インジケータデータ ([7 章、 “インジケータデータ” \(37 ページ\)](#)を参照)
- 範囲 ([8 章、 “範囲” \(49 ページ\)](#)を参照)
- インジケータ ([9 章、 “インジケータ” \(53 ページ\)](#)を参照)
- レイアウトテンプレート (“[レイアウトテンプレートビュー](#)” (32 ページ)を参照)

- 静的なコンテンツ（“静的なコンテンツビュー”（32 ページ）を参照）

作成したダッシュボードは、対話形式でコンテンツを調整しながら、ダッシュボードのデザインを変更して、ダッシュボードユーザーに表示されるダッシュボードのデザインを確認できます。

## ダッシュボードレイアウト

ダッシュボードのプロパティのレイアウトオプションを選択して、ダッシュボードのオブジェクト配置を制御します。

- **横**

横オプションを選択すると、オブジェクトはダッシュボードの左右に並べて表示され、必要に応じて新しい行に折り返されます。

- **値による配置**

値による配置オプションを選択すると、オブジェクトの左上位置が、ダッシュボードの指定した正確な位置に配置されます。

*注:* ダッシュボードビューアに表示されるオブジェクトは、他のオブジェクトに重ねて表示したり、完全に上書きしたりできます。重ねて表示した場合、ダッシュボードユーザーはオブジェクトを正しく動作できなくなる可能性があります。

- **縦**

縦オプションを選択すると、オブジェクトはダッシュボードの上下に並べて表示され、必要に応じて新しい列に折り返されます。

レイアウト方法は、ダッシュボードの作成時に変更できます。

## インジケータ動作

### 概要

ダッシュボードのインジケータ動作を使用して、ダッシュボードユーザーは、ダッシュボード内からデータを直接探索できます。

ダッシュボードに複数のインジケータを追加する場合、1つのインジケータを他の1つまたは複数のインジケータと連動するように選択できます。第1インジケータ(ソース)は、第2インジケータ(ターゲット)に影響します。ソースパラメータをターゲットパラメータにマップして、この影響を指定します。

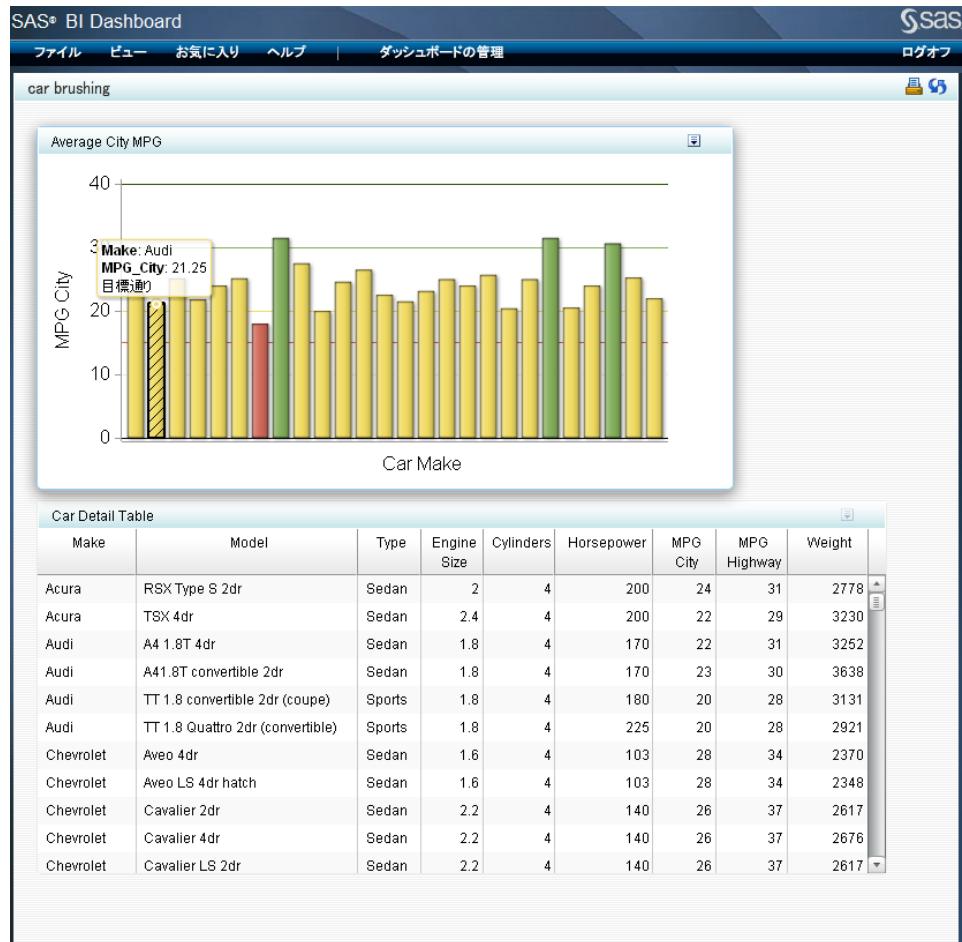
*注:* 複数のターゲットパラメータを指定できます。

### 関連項目:

- “ダッシュボードコンテンツの管理”（108 ページ）
- “インジケータ動作の設定”（109 ページ）

## 例

次のダッシュボード例には、2つのインジケータがあります。インジケータ間の動作が設定されていないため、ダッシュボードユーザーが一方のインジケータのデータを探索しても、もう一方のインジケータは変更されません。

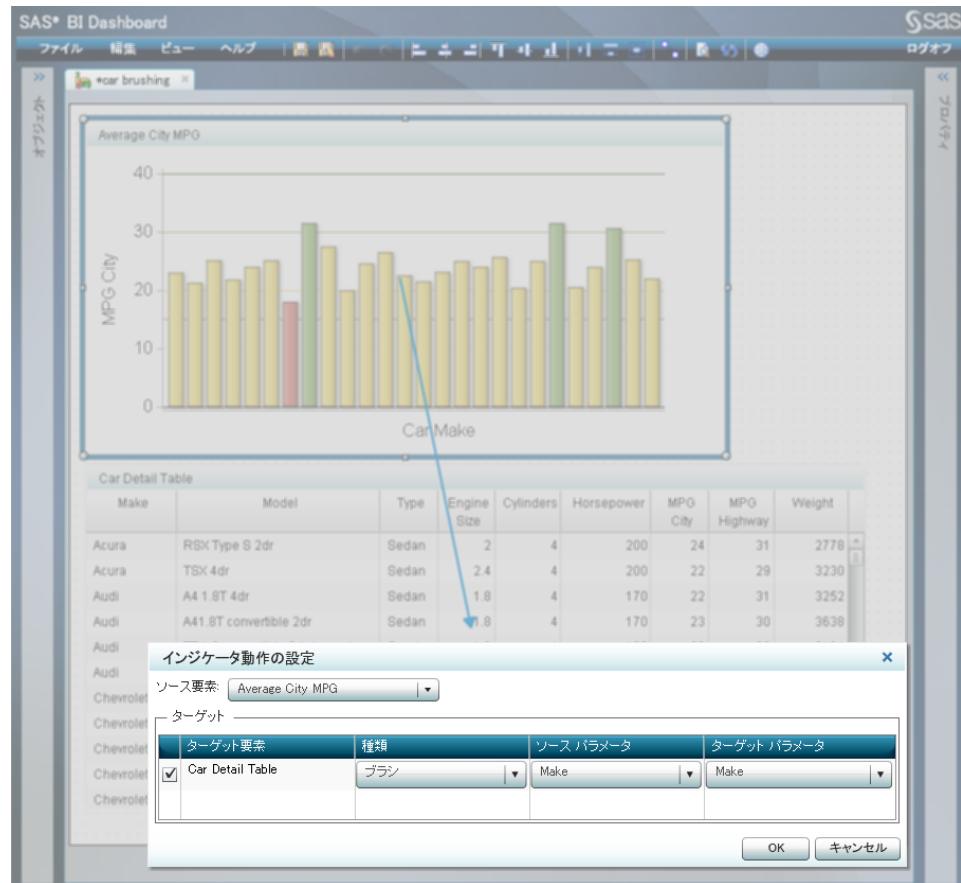


ダッシュボード管理者は、ダッシュボードデザイナでインジケータを変更します。ダッシュボード管理者は、Average City MPG インジケータのソースパラメータ **Make** が Car Detail Table インジケータのターゲットパラメータ **Make** にマップされるように動作を設定し、ブラシ(ハイライト表示)動作を選択します。

ダッシュボードユーザーが Average City MPG インジケータの Car Make (自動車ブランド)をクリックすると、次の動作が発生します。

1. Average City MPG インジケータのパラメータ **Make** は、ダッシュボードユーザーがクリックした自動車ブランドに設定されます。
2. また、Average City MPG インジケータのパラメータ **Make** は、Car Detail Table インジケータのパラメータ **Make** にマップされているため、Car Detail Table インジケータのパラメータ **Make** も、ダッシュボードユーザーがクリックした自動車ブランドに設定されます。
3. 動作が処理され、Car Detail Table インジケータの自動車ブランドがブラシ(ハイライト表示)されます。

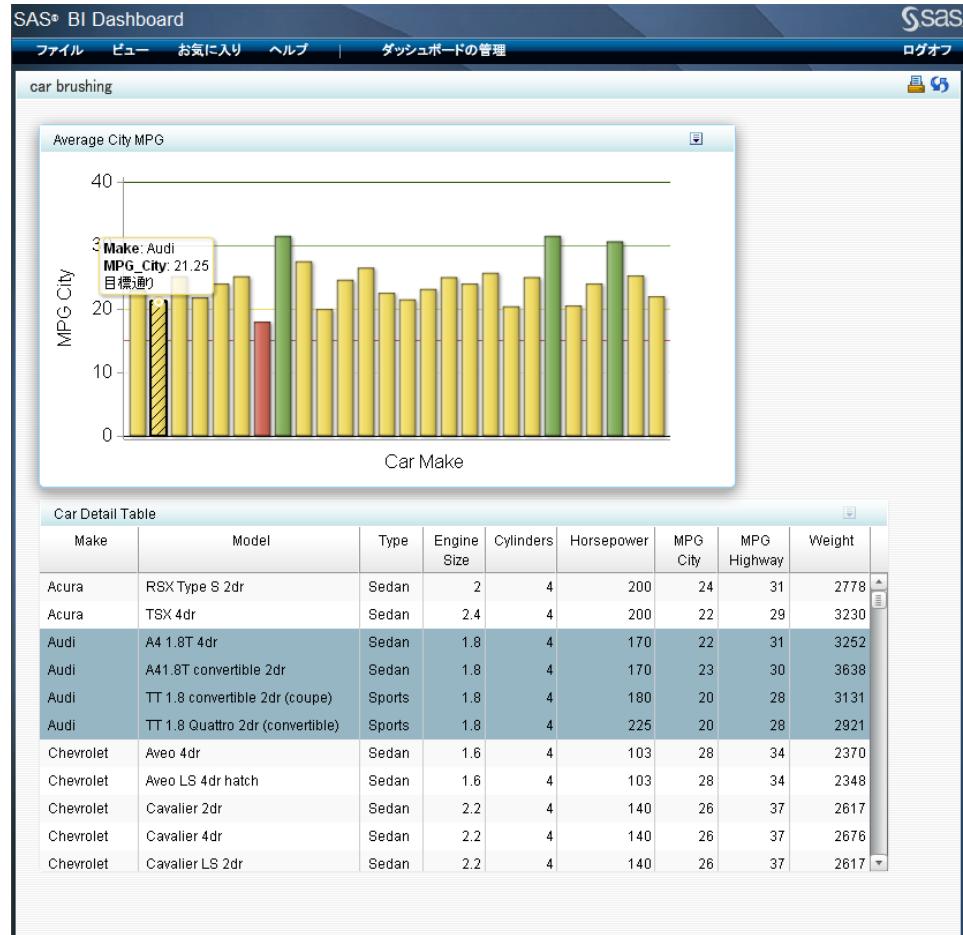
このインジケータ動作は、ダッシュボードデザイナでは、Average City MPG インジケータから Car Detail Table インジケータへの矢印で示されます。



この矢印を表示するには、ダッシュボード管理者は、ダッシュボードのプロパティペインから**動作の表示**チェックボックスを選択します。



その後、ダッシュボードユーザーが、変更された Average City MPG インジケータでデータを探索すると、クリックした自動車ブランドのデータが、Car Detail Table インジケータでハイライト表示されます。



## パラメータのマッピング

柔軟性が非常に高く、ソースパラメータとターゲットパラメータは、同じ種類のデータを参照する必要がありますが、名前が同じである必要はありません。たとえば、ソースインジケータのデータ列 REGION\_ID とターゲットインジケータのデータ列 SALES\_REGION\_ID に同様のデータを保有できます。REGION\_ID を SALES\_REGION\_ID にマッピングして、この 2 つのデータ列をつなげます。

さらに、データが含まれるデータソースが異なっていても問題ありません。データソースの種類が異なっていても問題ありません。たとえば、SQL クエリによるインジケータデータが含まれるソースインジケータを、Stored Process によるインジケータデータが含まれるターゲットインジケータにマッピングできます。

動作には、次の 3 種類があります。

- ・ ブラシ
- ・ クライアント側のフィルタ
- ・ サーバー側のフィルタ

**注:** ハイパーリンクと動作の両方を含むインジケータを定義して、ハイパーリンクが動作結果と同じウィンドウに表示される場合、ハイパーリンクの方が動作より優先しま

す。たとえば、レポートを表示して、別のインジケータと連動するダッシュボードを作成した場合、ダッシュボードユーザーがインジケータをクリックすると、現在のウィンドウにレポートが表示されます。新しいウィンドウにハイパーリンクが表示される場合、現在のウィンドウには動作結果が、新しいウィンドウにはハイパーリンクが表示されます。

## ブラシ動作

ブラシ動作は、ダッシュボードユーザーがソースインジケータの特定の値を選択すると、ターゲットインジケータの関連する値がハイライト表示される動作を指定します。

*注:* 複数のターゲットインジケータを指定できます。

ブラシ動作には、すべての種類のインジケータデータを使用できます。

ブラシ動作のソースには、ダイナミックプロンプト、動的なテキスト、対話型表示を除くすべての表示の種類を指定できます。

ブラシ動作のターゲットには、KPI、ダイナミックプロンプト、ダイナミックテキスト、対話型表示を除くすべての表示の種類を指定できます。

## クライアント側のフィルタ

クライアント側のフィルタ動作は、ダッシュボードユーザーがソースインジケータの特定の値を選択すると、ターゲットインジケータのデータが、選択した値に基づいてフィルタされる動作を指定します。

クライアント側のフィルタ動作には、すべての種類のインジケータデータを使用できます。

*注:* マップされるパラメータのデフォルト値には、インジケータデータから返されるデータ量を大幅に制限する値を指定しないでください。データが制限され、クライアント側のフィルタによりさらにフィルタされると、データ量が減って、一致する行がほとんどない、またはまったくなくなる可能性があります。

クライアント側のフィルタ動作のソースには、ダイナミックテキストと対話型表示を除くすべての表示の種類を指定できます。

クライアント側のフィルタ動作のターゲットには、KPI と対話型表示を除くすべての表示の種類を指定できます。

クライアント側のフィルタは、ダッシュボードユーザーのコンピュータに保存されているデータを処理します。このため、クライアント側のフィルタは、すべてのターゲットパラメータに対して処理でき、高速に処理できます。ただし、クライアント側のフィルタは、ターゲットインジケータが最初にダッシュボードユーザーのコンピュータにすべてのデータをロードする必要があるため、ロードに時間がかかり、使用可能なデータ量に上限があります。

## サーバー側のフィルタ

### 概要

サーバー側のフィルタは、概念上、パラメータがクエリに入力され、そのクエリが新しいパラメータと一緒に中間層(サーバー)に送られることを除いて、クライアント側のフィルタと同じです。一般的に、サーバー側のフィルタは、中間層との処理に時間がかかるため、クライアント側のフィルタほど高速ではありません。また、ターゲットパラメータのみがクエリで認識されます。

クライアント側のフィルタは、プロンプトがターゲットインジケータデータに定義されないターゲットパラメータに基づきます。これに対して、サーバー側のフィルタは、ターゲットインジケータデータに定義されるターゲットパラメータにのみに基づきます。

サーバー側のフィルタと一緒に使用できるインジケータデータは、Information Map または Stored Process のみです。いずれのデータも、プロンプトのデフォルト値を指定する必要があります。

サーバー側のフィルタ動作のソースには、ダイナミックテキストと対話型表示を除くすべての表示の種類を指定できます。

サーバー側のフィルタ動作のターゲットには、ダイナミックテキストと対話型表示を除くすべての表示の種類を指定できます。サーバー側のフィルタのターゲットにできるインジケータデータは、リレーションナル Information Map と Stored Process のみです。いずれのデータも、プロンプトのデフォルト値を指定する必要があります。また、Information Map には、マップされたパラメータであるフィルタを 1 つ以上定義する必要があります。

**注意:**

SAS BI Dashboard 実行中は、別のアプリケーションでプロンプトのデフォルト値を変更しないでください。SAS BI Dashboard をログオフし、値を変更してから、再度ログインしてください。

### **Information Map の日付の出力形式**

Information Map に日付に基づいたプロンプトを使用する場合、プロンプトに渡す値が、プロンプトで使用可能な出力形式であるかを確認してください。

次に、日付の種類ごとに指針を示します。

- DAY

*August 04, 2010, Aug 04, 2010, 04AUG2010*などの値を渡すことができます。他の出力形式は使用できません。

注: 日付の適切な出力形式を確実に使用するには、プロンプトで DATE9 または MMDDYY10 の出力形式を使用する方法が最も簡単です。

- WEEK

*Week 31 2010*などの値を渡すことができます。

注: 値のように作成できる SAS 出力形式はありません。カスタムデータセットを作成または SQL を使用して、正しい出力形式を使用してデータ列を作成する必要があります。このデータ列は、動作またはリンクのソースとして渡します。

- MONTH

*Jan 2009*などの値を渡すことができます。他の出力形式は使用できません。

注: 値のように作成できる SAS 出力形式はありません。カスタムデータセットを作成または SQL を使用して、正しい出力形式を使用してデータ列を作成する必要があります。このデータ列は、動作またはリンクのソースとして渡します。

- QUARTER

*3rd quarter 2010*などの値を渡すことができます。

注: 値のように作成できる SAS 出力形式はありません。カスタムデータセットを作成または SQL を使用して、正しい出力形式を使用してデータ列を作成する必要があります。このデータ列は、動作またはリンクのソースとして渡します。

- YEAR

*2010*などの値を渡すことができます。

## フィルタの連結

インジケータ A がインジケータ B と連動し、インジケータ B がインジケータ C と連動するというように、フィルタを連結できます。

**注:** SAS BI Dashboard で再帰的なフィルタ動作を定義することは禁止されていませんが、お勧めしません。再帰的なフィルタ動作は、予期した結果が得られず、データをさらにフィルタリングできない可能性があります。

## ズーム

ダッシュボードにオブジェクトのズーム率を指定できます。幅と高さのズームは、ダッシュボードのプロパティペインで制御します。

SAS BI Dashboard には、ダッシュボードユーザーに表示されるダッシュボードデザインが示されるため、ズームすると、次のようにダッシュボードのデザインに影響します。

- 凡例は表示されません。
- ラベルは表示されません。
- フォントはズーム値に反比例して小さくなります。
- インジケータのズームアウト時に軸を非表示にするを選択した場合、軸は表示されません。
- インジケータのズームアウト時にタイトルを非表示を選択した場合、タイトルは表示されません。
- インジケータのズームアウト時に値を非表示を選択した場合、値は表示されません。

これらの項目は、縦横両方のズーム率が 100%になるように設定すると再表示されます。

**注:** オブジェクトが横コンテナまたは縦コンテナに含まれる場合、コンテナをズーム設定すると、オブジェクトにも同じように影響します。詳細については、“[レイアウトテンプレートビュー](#)”(32 ページ)を参照してください。

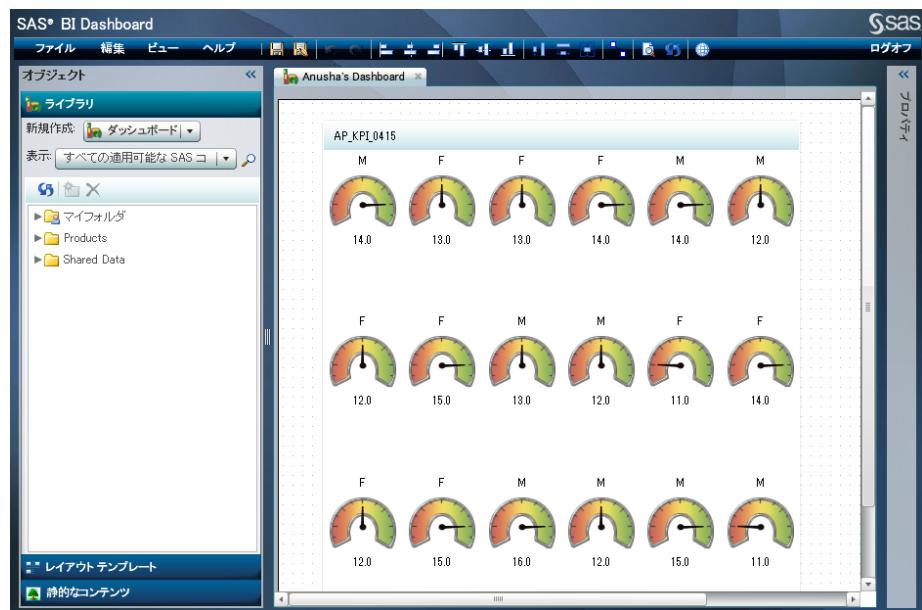
## ダッシュボードの作成または編集

ダッシュボードを編集すると、すべてのユーザーのダッシュボードが変更されます。

ダッシュボードを作成または編集するには、次のステップを実行します。

1. ダッシュボードポートレットで、ダッシュボードの管理をクリックします。

SAS BI Dashboard が、ブラウザの新しいタブに表示されます。



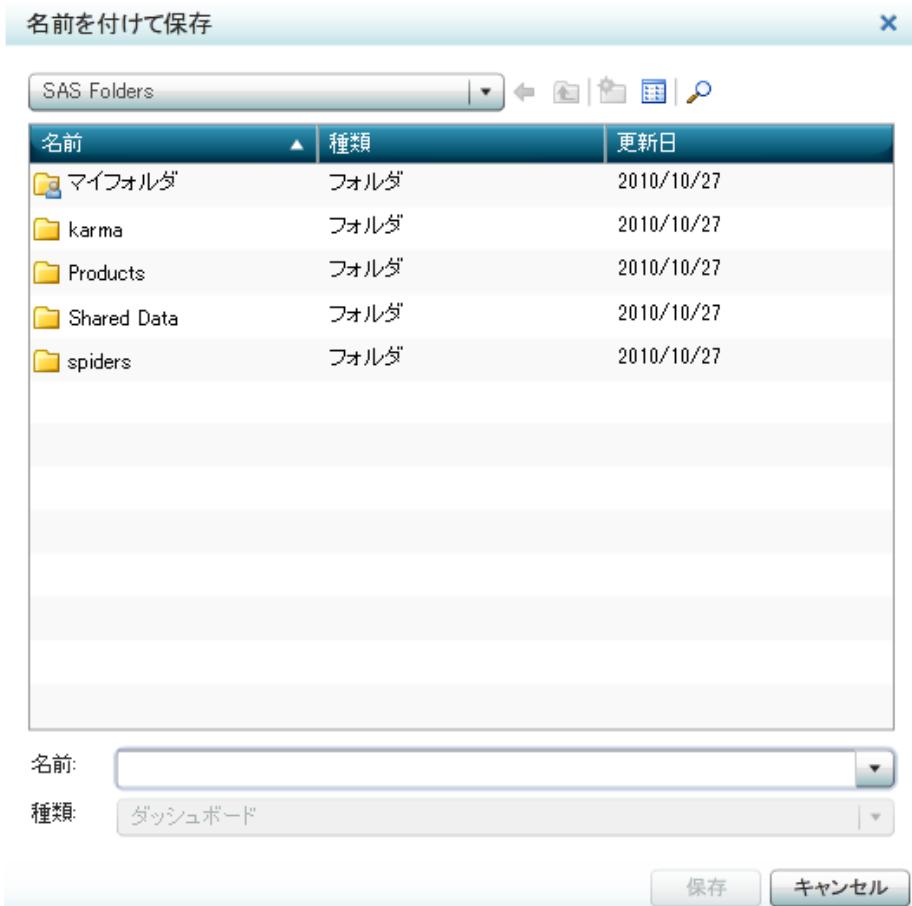
2. ライブラリビューで、次のいずれかの操作を行います。
  - ・ ダッシュボードを作成するには、次のステップを実行します。
    1. 新規作成ドロップダウンリストからダッシュボードを選択します。

ダッシュボードの作成ダイアログボックスが表示されます。



2. 名前を入力して、OK をクリックします。
  - ・ ダッシュボードを編集するには、ダッシュボードを参照して、名前をダブルクリックします。
3. ダッシュボードとそのプロパティペインが表示されるので、ダッシュボードのプロパティを設定します。
4. ダッシュボードの名前を変更するには、次のステップを実行します。
  - a. ファイル ⇒ 名前を付けて保存を選択します。

名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。



- b. 場所を参照し、ダッシュボード名を指定してから、**保存**をクリックします。

## ダッシュボードコンテンツの管理

### 概要

ダッシュボードのコンテンツは、元に戻したり、やり直したりしながら、対話形式で操作できます。

ダッシュボードのコンテンツを管理するには、ダッシュボードを作成または編集します。詳細については、“[ダッシュボードの作成または編集](#)”(106 ページ)を参照してください。

### コンテンツの追加

コンテンツを追加するには、次のステップを実行します。

1. ダッシュボードに横コンテナまたは縦コンテナを追加するには、オブジェクトペインのレイアウトテンプレートビューからダッシュボードにドラッグします。  
コンテナの詳細については、“[レイアウトテンプレートビュー](#)”(32 ページ)を参照してください。
2. ダッシュボードにインジケータを追加するには、オブジェクトペインのライブラリビューからダッシュボードまたはコンテナにインジケータをドラッグします。

- 注: インジケータは、1つのダッシュボードに1回のみ追加できます。
3. ラベルまたはイメージを追加するには、オブジェクトペインの静的なコンテンツビューからダッシュボードにドラッグします。
  4. ラベルまたはイメージからリンクを作成するには、オブジェクトを選択して、プロパティペインのリンク設定領域にプロパティの値を指定します。

## オブジェクトの配置とサイズ変更

オブジェクトを配置し、サイズを変更するには、次のステップを実行します。

1. 配置またはサイズを変更するオブジェクトとして、最初のオブジェクトを選択します。
2. Ctrlキーを押しながら、オブジェクトを1つ以上選択します。
3. 次の配置オプションまたはサイズ変更オプションを選択します。
  - ・ 配置オプションの場合、**編集** ⇒ **配置**を選択して、配置方法を選択します。
  - ・ サイズ変更オプションの場合、**編集** ⇒ **サイズ**を選択して、サイズ変更方法を選択します。
  - ・ ダッシュボードの背景色にドットグリッドを表示するには、**ビュー** ⇒ **レイアウトガイドの表示**を選択します。

注: ダッシュボードに1つのみ存在するオブジェクトを選択して配置する場合、オブジェクトはダッシュボード自身に配置されます。たとえば、ダッシュボードの単一インジケータを選択して、**編集** ⇒ **配置** ⇒ **上揃え**を選択すると、インジケータはダッシュボードの先頭に移動します。

## コンテンツの表示の変更

コンテンツの表示を変更するには、次のステップを実行します。

1. SAS BI Dashboard ポートレットにダッシュボードを表示するには、**ビュー** ⇒ **ダッシュボードビューアを表示**を選択します。
  - ダッシュボードが、SAS Information Delivery Portal が表示されていたブラウザウィンドウに表示されます。
  2. ダッシュボードに表示されるオブジェクトを編集するには、オブジェクトを選択して、プロパティペインでオブジェクトのプロパティを指定します。
  3. オブジェクトを編集するには、オブジェクトのツールバーのボタンを使用します。
- 詳細については、“[オブジェクトの編集](#)”(33 ページ)を参照してください。

## インジケータ動作の設定

インジケータ動作の詳細については、“[インジケータ動作](#)”(100 ページ)を参照してください。

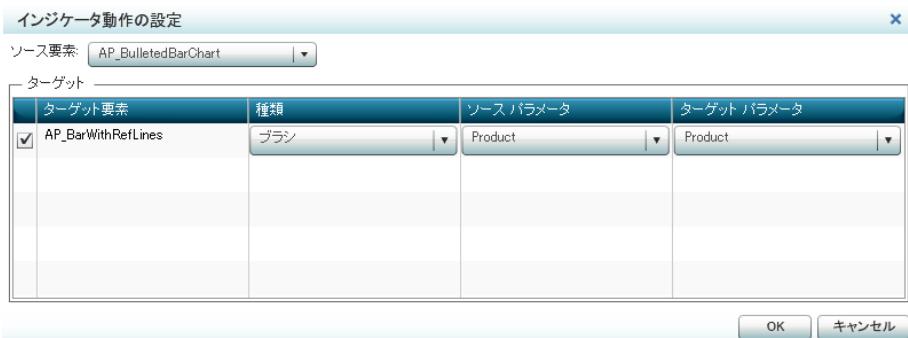
インジケータ動作を設定するには、次のステップを実行します。

1. ダッシュボードに2つ以上のインジケータを追加します。

詳細については、“ダッシュボードコンテンツの管理”(108 ページ)を参照してください。

2. 動作のソース要素にするインジケータを選択して、**編集** ⇄ **動作の設定**を選択します。

インジケータ動作の設定ダイアログボックスが表示されます。



3. ターゲット要素列から、ターゲットにする各要素の横のチェックボックスを選択します。
4. 種類ドロップダウンリストから、動作の種類を選択します。
5. ソース パラメータとターゲット パラメータを選択します。

ダッシュボードのプロパティで動作を設定したら、**動作の表示**チェックボックスを選択します。

## コンテナを使用するダッシュボードのデザインの制御

### 寸法と折り返し

SAS BI Dashboard がダッシュボード内にインジケータを描画する場合、インジケータは、各インジケータとコンテナの寸法に指定された幅または高さに基づいて、複数の行または列に折り返されます。たとえば、ダッシュボードに幅が 180 ピクセルのインジケータが 10 個含まれる場合、ダッシュボードポートレットに必要な幅の合計は 1800 ピクセルです。ダッシュボードの幅が 1000 ピクセルしかない場合、2 行のインジケータが表示されます。インジケータの幅が 900 ピクセルの場合、3 行のインジケータが表示されます。

インジケータの幅は、インジケータの表示を定義する際に指定します。

ダッシュボードの表示に影響するサイズ変更要因は複数あります。すべての要因がさまざまに影響しあい、ダッシュボードの表示が決定されます。次の表にすべての要因を示します。

要因	値の指定場所	目的	無視されるかどうか
ダッシュボードポートレットの寸法	ポートレットのコンテンツの編集時に寸法を指定します。詳細については、“ダッシュボードの寸法の指定”(16 ページ)を参照してください。	この要因によって、ダッシュボードポートレットの寸法が指定されます。	無視されません。コンテンツがポートレットの寸法より大きい場合、スクロールバーが表示されます。
インジケータの寸法	インジケータの表示の定義時に寸法を指定します。	この要因によって、インジケータの優先寸法が指定されます。	幅は、グラフの表示の種類で出力の種類をイメージに指定した場合、またはゲージの幅の方が大きい場合、無視されます。たとえば、KPI 表示に複数のゲージが含まれる場合、ゲージは、インジケータの幅に従って複数行に折り返されます。高さは、無視されます。
グラフ表示、参照線付き棒グラフ表示、Range Map 表示の寸法	インジケータの表示の定義時に寸法を指定します。	この要因によって、インジケータのグラフ内部の寸法が指定されます。	無視されません。グラフの表示の種類で出力の種類を HTML に指定し、かつコンテンツが寸法に収まらない場合、スクロールバーが表示されます。
ダイナミックゲージの寸法	インジケータのゲージの選択時に寸法を指定します。詳細については、“インジケータのゲージの選択”(97 ページ)を参照してください。	この要因によって、ダイナミックゲージの寸法が指定されます。ダイナミックゲージは、ゲージイメージのスケーリングが 1:1 を維持するようにスペースを追加します。ゲージは、常に、利用可能なスペースの中央に配置されます。たとえば、100x200 のダイナミックゲージは拡大されず、寸法が 200x400 以上になるまでゲージの周りにスペースが追加されます。	無視されません。

以上の要因とこれらの要因によるダッシュボードのデザインの制御を基にして、ダッシュボードの最適なレイアウトに必要な指針を次に示します。

- ・ ダイナミックゲージを使用すると、不均衡な寸法を使用して、ゲージの周りに追加のスペースを作成できます。
- ・ 1つの KPI 表示に複数のゲージが含まれる場合、横の配置は正しく管理されます。しかし、異なるインジケータが複数ある場合、各ダイナミックゲージでは、さまざまなダイナミックゲージの高さを操作して、インジケータを正しく配置する必要があります。

この問題は、多くの場合、あるインジケータのタイトルのテキストが 2 行、隣接するインジケータのテキストが 1 行のみの場合に発生します。余ったテキスト行により、このインジケータは、残りのインジケータよりさらに下に配置されます。このインジケータの高さをその他の高さより小さく設定すると、ダッシュボード全体を適切に配置できます。
- ・ インジケータの幅がダイナミックゲージまたはグラフの幅より小さい場合、ダッシュボードポートレットにスクロールバーが表示されます。すべてが適切に折り返すには、インジケータの幅をダイナミックゲージまたはグラフの幅より大きくします。
- ・ 複数のグラフを縦方向に配置するには、列のすべてのインジケータに同じ幅を指定します。

## フォント

ダッシュボードのフォント指定の一般的な指針を次に示します。

- ・ ダッシュボードに最適なフォントを表示するには、ダッシュボードのすべてのインジケータに同じズーム値を指定します。ズームの幅と高さは、通常 100%から 300%までの同じ値を設定します。
- ・ フォント設定領域で、名前に**(優先)**が含まれる種類を選択できます。優先とは、テキストが収まる大きさのグラフにのみ、指定したフォントのサイズが適用されることを意味します。ただし、グラフの成分は、グラフのサイズと、グラフとテキストがより小さなサイズで判読可能なようにテキストを縮小するアルゴリズムに基づいて、フォントの最適なサイズが決まります。

## 4 部

---

# 付録

付録 1  
インジケータ役割マッピングプロパティ ..... 115



## 付録 1

# インジケータ役割マッピングプロパティ

<b>概要</b>	117
<b>プロパティのリスト</b>	117
KPI タイトル	117
X 軸値	117
X 軸タイトル	117
X 上側信頼区間	117
X 開始値	117
X 軸	117
X 軸の出力形式	117
X 軸の出力形式(詳細)	117
X 軸のスケール	117
X 軸目盛りラベルを非表示にする	118
X 軸ラベル	118
X 下側信頼区間	118
X 終了値	118
X の値	118
Y 上側信頼区間	118
Y 開始値	118
Y 軸値	118
Y 軸タイトル	118
Y 軸の出力形式	118
Y 軸の出力形式(詳細)	118
Y 軸のスケール	119
Y 下側信頼区間	119
Y 終了値	119
Y の値	119
イメージ URL	119
上側帯	119
上側信頼区間	119
帯の凡例ラベル	119
開始日	119
概要機能	120
概要グラフの種類	120
概要グラフのラベルのカスタマイズ	120
行グループ化	120
クラスタ グループ	120
グループ(別別)	120
差異	120
最後の行をハイライト	120
サイズ	120
参照線の非表示	120

軸の出力形式 (詳細) . . . . .	121
軸の出力形式 (要約) . . . . .	121
軸の出力形式(差異) . . . . .	121
下側帯 . . . . .	121
下側信頼区間 . . . . .	121
実績値 . . . . .	121
実績の凡例ラベル . . . . .	121
集計の方法 . . . . .	121
終了日 . . . . .	121
出力形式 . . . . .	122
ズームアウト時に値を非表示 . . . . .	122
ズームアウト時に軸を非表示にする . . . . .	122
ズームアウト時にタイトルを非表示 . . . . .	122
スパーク X 軸 . . . . .	122
スパーク (グループ別) . . . . .	122
静的なテキスト . . . . .	122
ターゲットの値 . . . . .	122
第 1 の値 . . . . .	122
第 2 の値 . . . . .	123
第 2 Y 軸値 . . . . .	123
タイトルの行数 . . . . .	123
タイルの基準 . . . . .	123
タスク . . . . .	123
積み上げグループ . . . . .	123
データソースの範囲 . . . . .	123
デフォルトのデータ カラー . . . . .	123
バブルサイズ値 . . . . .	123
範囲 . . . . .	123
範囲値 . . . . .	123
範囲値 2 . . . . .	124
凡例を表示する . . . . .	124
ビュレットの値 . . . . .	124
プロキシの使用 . . . . .	124
プロンプトの種類 . . . . .	124
ポイント ラベル . . . . .	124
棒の値 . . . . .	124
メニュー値 . . . . .	124
矢印を非表示 . . . . .	124
要約する代わりの値 . . . . .	124
要約する代わりの上側信頼区間 . . . . .	124
要約する代わりの下側信頼区間 . . . . .	125
要約する代わりの予測 . . . . .	125
予測 X 値 . . . . .	125
予測 Y 値 . . . . .	125
予測値 . . . . .	125
予測の凡例ラベル . . . . .	125
予測範囲値 . . . . .	125
ラベルを表示する . . . . .	125
列グループ化 . . . . .	125

---

## 概要

インジケータを作成または編集する際、役割マッピングプロパティを使用します。詳細については、“[役割マッピングプロパティの定義](#)”(56 ページ)を参照してください。

---

## プロパティのリスト

### KPI タイトル

KPI ゲージのタイトルに使用するパラメータ。

### X 軸値

X 軸のデータに使用するパラメータ。

### X 軸タイトル

X 軸のデフォルトのタイトルを置換するテキスト。

### X 上側信頼区間

対話型の表示で、X 軸の上側信頼区間に使用するパラメータ。

### X 開始値

X 軸の開始値に使用するパラメータ。

詳細については、“[X 終了値](#)”(118 ページ)を参照してください。

### X 軸

X 軸のデータに使用するパラメータ。

### X 軸の出力形式

X 軸のデータに適用される SAS 出力形式。

### X 軸の出力形式 (詳細)

詳細 X 軸のデータに適用される SAS 出力形式。

### X 軸のスケール

X 軸にスクロールバーが表示され、ユーザーは軸をズームイン、ズームアウトできます。

**X 軸目盛りラベルを非表示にする**

軸目盛りラベルを非表示にします。この設定により、表示が見やすくなります。

**X 軸ラベル**

X 軸のラベルの表示方法を指定します。

**X 下側信頼区間**

対話型の表示で、X 軸の下側信頼区間に使用するパラメータ。

**X 終了値**

X 軸の終了値に使用するパラメータ。

詳細については、“[X 開始値](#)”(117 ページ)を参照してください。

**X の値**

X 軸のデータに使用するパラメータ。

**Y 上側信頼区間**

対話型の表示で、Y 軸の上側信頼区間に使用するパラメータ。

**Y 開始値**

Y 軸の開始値に使用するパラメータ。

詳細については、“[Y 終了値](#)”(119 ページ)を参照してください。

**Y 軸値**

Y 軸のデータに使用するパラメータ。

**Y 軸タイトル**

Y 軸のデフォルトのタイトルを置換するテキスト。

**Y 軸の出力形式**

Y 軸のデータに適用される SAS 出力形式。

**Y 軸の出力形式 (詳細)**

詳細 Y 軸のデータに適用される SAS 出力形式。

**Y 軸のスケール**

Y 軸にスクロールバーが表示され、ユーザーは軸をズームイン、ズームアウトできます。

**Y 下側信頼区間**

対話型の表示で、Y 軸の下側信頼区間に使用するパラメータ。

**Y 終了値**

Y 軸の終了値に使用するパラメータ。

詳細については、“[Y 開始値](#)”(118 ページ)を参照してください。

**Y の値**

Y 軸のデータに使用するパラメータ。

**イメージ URL**

カスタムグラフの表示のイメージやその他の情報の URL。

イメージ URL の使用方法については、“[カスタムグラフの表示](#)”(66 ページ)を参照してください。

**上側帯**

予測グラフの表示で、上側信頼帯に使用するパラメータ。

**関連項目:**

[“下側帯”\(121 ページ\)](#)

**上側信頼区間**

対話型の表示で、上側信頼区間に使用するパラメータ。

**関連項目:**

[“下側信頼区間”\(121 ページ\)](#)

**帯の凡例ラベル**

予測グラフで、帯の凡例のデフォルトのタイトルを置換するテキスト。

**開始日**

スケジュールチャートで、タスクの開始日に使用するパラメータ。

**関連項目:**

[“終了日”\(121 ページ\)](#)

**概要機能**

対話型の表示で、データの要約に使用する機能。

**概要グラフの種類**

対話型の表示で、要約データの表示に使用するグラフの種類。

**概要グラフのラベルのカスタマイズ**

対話型の表示で、概要グラフのデフォルトのタイトルを置換するテキスト。

**行グループ化**

データ行のグループ化の基準パラメータ。

**クラスタ グループ**

集合棒グラフで、クラスタに使用するパラメータ。

**グループ(値別)**

データのグループ化の基準パラメータ。

**差異**

ウォーターフォールチャートの表示で、各棒に使用し、前の棒の終了値のオフセットであるパラメータ。

チャートの最後の棒の大きさは、前のすべての棒の差異の合計です。差異列の値が-500、700、100 の場合、1 番目の棒は 0 から-500、2 番目の棒は-500 から 200、3 番目の棒は 200 から 300 です。

**最後の行をハイライト**

スパークテーブルの最後の行をハイライト表示します。

ソースデータテーブルが要約に最後の列を使用する場合、最後の行をハイライト表示すると要約値が強調されます。

**サイズ**

タイルチャートの表示で、各タイルのサイズに使用するパラメータ。

**参照線の非表示**

参照線を非表示にします。この設定により、見やすくなります。

**軸の出力形式 (詳細)**

詳細軸のデータに適用される SAS 出力形式。

**軸の出力形式 (要約)**

要約軸のデータに適用される SAS 出力形式。

**軸の出力形式(差異)**

差異軸のデータに適用される SAS 出力形式。

**下側帯**

予測グラフの表示で、下側信頼帯に使用するパラメータ。

**関連項目:**

[“上側帯” \(119 ページ\)](#)

**下側信頼区間**

対話型の表示で、下側信頼区間に使用するパラメータ。

**関連項目:**

[“上側信頼区間” \(119 ページ\)](#)

**実績値**

予測グラフの表示で、実績値に使用するパラメータ。

**実績の凡例ラベル**

予測グラフの表示で、実績値のデフォルトの凡例ラベルを置換するテキスト。

**集計の方法**

対話型の表示で、要約データに使用するパラメータ。

**終了日**

スケジュールチャートで、タスクの終了日に使用するパラメータ。

スケジュールチャートの表示の種類についての詳細は、“[スケジュールチャートの表示](#)” (87 ページ)を参照してください。

**関連項目:**

[“開始日” \(119 ページ\)](#)

## 出力形式

列のデータに適用される SAS 出力形式。

### ズームアウト時に値を非表示

インジケータのズームアウト時にゲージ値を非表示にします。この設定により、見やすくなります。値は、ズームインすると表示されます。

### ズームアウト時に軸を非表示にする

インジケータのズームアウト時にゲージ軸を非表示にします。この設定により、見やすくなります。軸は、ズームインすると表示されます。

### ズームアウト時にタイトルを非表示

インジケータのズームアウト時にゲージタイトルを非表示にします。この設定により、見やすくなります。タイトルは、ズームインすると表示されます。

## スパーク X 軸

列のスパーク線(グラフ)の X 軸に使用するパラメータ。

テーブルに複数のスパーク線データ列がある場合、各データ列は同じ X 軸値を使用する必要があります。

## スパーク(グループ別)

スパークテーブルのグループ化の基準値。

複数のデータ行が、單一行に要約されます。

## 静的なテキスト

動的なテキストインジケータに表示するテキスト。

範囲の値を表示する場所に@var1@を入力します。@var1@は、範囲値に置き換えられます。

## ターゲットの値

ターゲット棒グラフで、ターゲット値に使用するパラメータ。

## 第 1 の値

参照線付き折れ線グラフで、第 1 のデータ線に使用するパラメータ。

### 関連項目:

[“第 2 の値” \(123 ページ\)](#)

**第 2 の値**

ゲージに表示される第 2 の目盛り値に使用するパラメータ。

この値は、ゲージの色に影響しません。

**関連項目:**

[“第 1 の値” \(122 ページ\)](#)

**第 2 Y 軸値**

折れ線グラフの第 2 線のポイント値に使用するパラメータ。

**タイトルの行数**

KPI ゲージのタイトルの保存行数。行にテキストがない場合、空白行が表示されます。

**タイルの基準**

タイルチャートの表示で、各タイルの作成に使用するパラメータ。

**タスク**

スケジュールチャートで、タスクの名前に使用するパラメータ。

**積み上げグループ**

積み上げ棒グラフのグループ化に使用するパラメータ。

**データソースの範囲**

範囲で使用するパラメータ。

**デフォルトのデータカラー**

対話型の表示で、データ表示のデフォルトの色を指定します。

**バブルサイズ値**

バブルグラフの表示で、バブルのサイズに使用するパラメータ。

**範囲**

保存された範囲。

**範囲値**

範囲に使用するパラメータ。

**範囲値 2**

第 2 インジケータの範囲に使用するパラメータ。

**凡例を表示する**

グラフの凡例を表示します。

**ビュレットの値**

棒グラフ(ビュレット)の表示で、ビュレットに使用するパラメータ。

**プロキシの使用**

カスタムグラフの表示で、サーバープロキシを使用します。

プロキシの使用方法については、“[カスタムグラフの表示](#)”(66 ページ)を参照してください。

**プロンプトの種類**

ダイナミックプロンプトの表示で、表示するプロンプトの種類。

**ポイント ラベル**

データポイントのラベルに使用するパラメータ。

**棒の値**

棒に使用するパラメータ。

**メニュー値**

ダイナミックプロンプトの表示で、ドロップダウンリストに表示される値に使用するパラメータ。

**矢印を非表示**

矢印を非表示にします。

**要約する代わりの値**

要約に使用する代わりのパラメータ。

この要約値は、対話型グラフの下部に描画される要約線または棒グラフに使用されます。

**要約する代わりの上側信頼区間**

上側信頼区間の要約に使用する代わりのパラメータ。

この要約値は、対話型グラフの下部に描画される要約線または棒グラフに使用されます。

#### 要約する代わりの下側信頼区間

下側信頼区間の要約に使用する代わりのパラメータ。

この要約値は、対話型グラフの下部に描画される要約線または棒グラフに使用されます。

#### 要約する代わりの予測

予測値の要約に使用する代わりのパラメータ。

この要約値は、対話型グラフの下部に描画される要約線または棒グラフに使用されます。

#### 予測 X 値

対話型要約と散布図の表示で、X 軸値の予測値に使用するパラメータ。

#### 予測 Y 値

対話型要約と散布図の表示で、Y 軸値の予測値に使用するパラメータ。

#### 予測値

予測グラフで、予測値に使用するパラメータ。

#### 予測の凡例ラベル

予測グラフで、予測値のデフォルトの凡例ラベルを置換するテキスト。

予測グラフの表示の詳細については、“[予測グラフの表示](#)”(71 ページ)を参照してください。

#### 予測範囲値

対話型要約とターゲット棒グラフの表示で、予測値に使用し、予測値の範囲色設定に使用されるパラメータ。

#### ラベルを表示する

データグループのラベルを表示します。

#### 列グループ化

データ列のグループ化の基準パラメータ。



# キーワード

---

## I

Information Map データソース  
定義 43

## K

KPI インジケータの表示 76  
KPI の表示  
概要 76

## R

Range Map インジケータの表示 82

## S

SAS BI Dashboard ポートレット  
SAS Information Delivery Portal に追加  
11  
既定のビューの指定 18  
SAS Information Delivery Portal  
SAS BI Dashboard ポートレットの追加  
11  
概要 9  
ページの作成 10  
ログオン 9  
SQL クエリデータソース  
定義 44  
Stored Process データソース  
定義 45

## あ

アラート  
作成または編集 58  
ダッシュボードビューアでの個人用の作  
成または編集 19  
ユーザーとユーザーグループの追加 59  
イメージの静的なコンテンツオブジェクト 32  
インジケータ  
ゲージの選択 97

作成または編集 54

ダッシュボードビューアからの印刷 19  
ポートレットからの印刷 16

インジケータアラート  
ダッシュボードビューアでの個人用の作  
成または編集 19

インジケータデータ  
Information Map データソースの定義 43  
SQL クエリデータソースの定義 44

Stored Process データソースの定義 45  
作成または編集 42  
テーブルデータソースの定義 46

インジケータデータルール 38

インジケータの表示 59  
KPI 76  
Range Map 82

ウォーターフォールチャート 95

円グラフ 81  
折れ線グラフ(2本線) 68  
カスタムグラフ 66

参照線付き折れ線グラフ 79

参照線付き棒グラフ 61

散布図 85  
散布ヒストグラム 84  
集合棒グラフ 65

スケジュールチャート 87  
スパークテーブル 89  
スライダ表示のチャート 64

ターゲット棒グラフ 91  
ダイナミック 69  
ダイナミックテキスト 70

タイルチャート 93  
対話型 72  
対話型要約と散布図 74

対話型要約とターゲット棒グラフ 75

対話型要約と棒グラフ 73

積み上げ棒グラフ 90  
ニードルプロット 81  
バブルプロット 63  
ベクトルプロット 93  
棒グラフ 88

- 棒グラフ(ピュレット) 59
- 予測グラフ 71
- ウォーターフォールチャートインジケータの表示 95
- 円グラフインジケータの表示 81
- お気に入り
  - ダッシュボードビューア 23
- オブジェクト
  - 移動 34
  - 検索 29
  - サイズ変更 34
  - 編集 33
- オブジェクトペイン 28
  - 静的なコンテンツビュー 32
  - ライブラリビュー 28
  - レイアウトテンプレートビュー 32
- オプション
  - 前回表示したダッシュボードまたはインジケータをデフォルトで開く 18
- 折れ線グラフ(2本線)インジケータの表示 68
  
- か**
- カスタムグラフインジケータの表示 66
- カテゴリラベルのデータ列 40
- 既定のビュー 18
- ゲージ
  - 選択 97
- 更新
  - 自動 16, 18
  - 手動 16, 18
- 個人用アラート
  - ダッシュボードビューアでの作成または編集 19
- コメント
  - ダッシュボードビューアでの管理 21
- コンテンツ
  - ダッシュボードビューア内の更新 18
  
- さ**
- 参照線付き折れ線グラフインジケータの表示 79
- 参照線付き棒グラフインジケータの表示 61
- 散布図インジケータの表示 85
- 散布ヒストグラムインジケータの表示 84
- 自動更新 16, 18
- 集合棒グラフインジケータの表示 65
- スケジュールチャートインジケータの表示 87
- スパークテーブルインジケータの表示 89
- スライダ表示のチャートインジケータの表示 64
- 静的なコンテンツビュー 32
  
- た**
- ターゲット棒グラフインジケータの表示 91
- ダイナミックインジケータの表示 69
- ダイナミックゲージ 78
- ダイナミックテキストインジケータの表示 70
- タイル 33
- タイルチャートインジケータの表示 93
- 対話型インジケータの表示 72
- ダッシュボード
  - 管理 7
  - コンテンツの管理 108
  - 作成時のオブジェクトのサイズ変更 109
  - 作成時のオブジェクトの配置 109
  - 作成時のプレビュー 109
  - 作成または編集 106
  - 選択 15
  - ダッシュボードビューア内の表示 17
  - ダッシュボードビューアからの印刷 19
  - ビュー 6
  - ポートレットからの印刷 16
  - レイアウト 100
- ダッシュボードデザイナ 7
- ダッシュボードのオブジェクト
  - 作成時のサイズ変更オプション 109
  - 作成時の配置オプション 109
- ダッシュボードの寸法
  - 指定 16
- ダッシュボードのプレビュー 109
- ダッシュボードのレイアウト 100
- ダッシュボードビューア 6
  - アラートの作成または編集 19
  - インジケータアラートの作成または編集 19
- お気に入り 23
- 個人用アラートの作成または編集 19
- コメントの管理 21
- コンテンツの更新 18
- ダッシュボードまたはインジケータを開く 17
- ナビゲーションコントロール 18
- 表示オプション 18
- ダッシュボードまたはインジケータ
  - ダッシュボードビューアで開く 17
- 縦コンテナ 32
- 積み上げ棒グラフインジケータの表示 90
- データソース
  - Information Map 43
  - SQL クエリ 44
  - Stored Process 45
  - テーブル 46
- データモデル
  - 参照項目: インジケータデータ
- データ列
  - カテゴリラベル 40
  - ハイパーリンク 41

プロパティのエイリアス 41  
ラベル 40  
列名 40  
テーブルデータソース  
定義 46

## な

ナビゲーションコントロール  
ダッシュボードビューア 18  
ニードルプロットインジケータの表示 81

## は

ハイパーリンクのデータ列 41  
バブルプロットインジケータの表示 63  
範囲  
管理 49  
作成または編集 49  
表示オプション  
ダッシュボードビューア 18  
プロパティのエイリアスのデータ列 41  
プロパティペイン 34  
ベクトルプロットインジケータの表示 93  
棒グラフ(ビュレット)インジケータの表示 59

棒グラフィンジケータの表示 88  
保存オブジェクト  
検索 29

## よ

ユーザーとユーザーグループ  
追加 59  
横コンテナ 32  
予測グラフィンジケータの表示 71

## ら

ライブラツリー  
最新の情報に更新 29  
ライブラリビュー 28  
ラベルの静的なコンテンツオブジェクト 32  
ラベルのデータ列 40  
レイアウトテンプレートビュー 32  
列名のデータ列 40

## わ

ワークスペース 32  
最小化または最大化 33



---

## ご意見

ご意見をお寄せください。

- ・ 当書籍へのご意見は、次の宛先までお送りください: [yourturn@sas.com](mailto:yourturn@sas.com). 可能であれば、正式な書籍名とページ番号も書き添えください。
- ・ 当ソフトウェアへのご意見は、次の宛先までお送りください: [suggest@sas.com](mailto:suggest@sas.com).

